

始



14.2.1
281

大正二年度業務功程

新潟縣農事試驗場



今年度當場ニ於テ施用セル肥料價格及成分表

肥料名	拾貫匁價格	窒素	磷素	鉀素	量(百分中)
人尿	〇、一五〇	〇、五八八	〇、〇七四	〇、一六九	
大豆	〇、一〇〇	〇、四八六	〇、一七	〇、一四六	
大灰	二、三三〇	六、五二三	一、二〇三	一、九二七	
木灰	〇、三五〇		二、一〇〇	四、五〇〇	
蒸製粉	〇、四五〇		四、八二〇	一、二、四三〇	
米糠	二、七〇〇		二、八五二	〇、一九〇	
智利硝石	一、五〇〇	二、〇八〇	三、七八〇	一、四〇〇	
硫酸アンモニア	五、五〇〇	一六、二八七			
種粕	六、四〇〇	二〇、三一五			
醬油粕	二、七〇〇	五、〇五〇	二、〇〇〇	一、三〇〇	
練灰	〇、七五〇	四、一六〇	〇、五八〇	〇、五二〇	
石室素	六、〇〇〇	八、三〇〇	五、六三〇	〇、七〇〇	
石灰	四、七五〇	一七、六〇四			
能登特産石灰	〇、五〇〇				
堆肥	〇、四七〇				
強過磷酸石灰	〇、一〇〇	〇、六三七	〇、八五七	〇、七〇〇	
	一、三七〇		二〇、二六二		

大正
3. 10. 24
内交

凡 例

- 一、本記載ノ收穫成績量ハ特殊ノモノヲ除ク外總テ一反歩ノ改算量トス
- 一、生育ノ狀況ハ本報告記載以外ニ調査シタルモノアレバ之ヲ省略セリ
- 一、品質等位ハ便宜上數字ニ據レリ
- 一、累年平均收量ハ四捨五入法ニヨリ計算セリ
- 一、累年平均收量ノ欄ニ（ ）ヲ附シ數字ヲ記入シタルモノハ其平均年數ヲ示スモノトス

五六
45.01.8
交内

第五 其他ノ事業

一	普通特用作物部	十
二	園藝部	十
三	分析部	十
四	病虫害部	十
五	庶務會計部	九

十	頁
十	頁
十	頁
十	頁
十	頁
九	頁

新潟縣農事試驗場業務功程

當場ニ於ケル業務ハ之ヲ農藝部及事務部ニ二大別シ各之レニ主査及部員ヲ置キ農藝部ハ更ラニ之レヲ分チテ農場係、普通特用作物係（採種田ヲ含ム）園藝作用係、畜産係、病虫害係、分析係、六係トナシ各係ニ係主任及係員ヲ置キ各業務ノ分擔ヲ掌レリ、而シテ本年度ニ於テハ努メテ場務ノ整理及改良ヲナスハ元ヨリ完全ナル試験ノ成績ヲ擧ゲ併セテ之レガ普及ヲ謀ルニ力ヲ盡シ各係トモ銳意業務ノ進捗ヲ謀レリ今年度内ニ於テ施行セル試験調査及ビ其他ノ事項ヲ掲クレバ次ノ如シ

第壹 試驗

當場各部ニ於テ施行シタル本年度ノ試験ハ便宜其成績ト共ニ一括シテ之レヲ卷尾ニ附セリ、故ニ特ニ茲ニ掲記スルコトヲ略ス

第貳 依託試驗

一、普通特用作物部
イ、大豆種類試驗

從來本場ニ於テ試験ノ結果成績佳良ナリト認メタル生娘、刈羽瀧谷、水濘、岩船瀧谷及赤莢ノ五種ヲ刈羽郡北鱒石村及ビ南魚沼郡大卷村ノ二箇所ニ栽培シタルニ刈羽瀧谷、岩船瀧谷、赤莢ノ三種成績優良ナルヲ認メタリ

ロ、落花生試驗

昨年ニ繼續シテ中頸城郡瀧町村ニ設置シタリ、而シテ昨年ノ成績ニ鑑ミ今年度ハ直立性種ヲ以テ供試シタルニ最初生育極メテ良好ナリシガ收穫前九月中旬ヨリ菌核病ノ被害ヲ受ケ且ツ氣温一般ニ低ク冷氣早來ノ

影響ヲ受ケ十分ナル成績ヲ擧グルヲ得ザリキ

ハ、 一毛作依托試験

昨年ヨリ繼續シ縣下五ヶ所ニ紫雲英、大麥、綠肥豌豆ノ三種ヲ栽培シ其ノ適否ヲ試験シタルニ綠肥豌豆ニアリテハ鼠害ニヨリ成績ヲ見ル能ハザリシモ紫雲英及ビ大麥ハ稍々見ルベキ結果ヲ得タリ

ニ、 瘠薄地利用法試験

前年ヨリ繼續シ中魚沼郡下船渡村ニ之ヲ設置シ牧草混播法、牧草種類、牧草的肥料、植物試験、陸稻、小豆、大小麥、ライ麥、燕麥等ノ種類試験ヲシタルニ本年度ノ成績ニヨレバ牧草ニアリテハ「オルチャドグラス」、「トールオートグラス」陸稻ニアリテハ江曾島糯、凱旋糯、小豆ニアリテハ大納言佳良ニシテ赤揚、ニセアカシヤ、岩荻ノ生育亦頗ル良好ヲ認メタリ

ホ、 水稻種類試験

本試験佐渡郡ニ於テ施行シタルガ之レガ詳細ハ成績ト共ニ卷尾ニ附セリ

一、 園藝部

イ、 桃種類試験

中蒲原郡新飯田村及ビ刈羽郡刈羽村ノ二ヶ所ニ於テ五ヶ年間繼續施行シ各品種ノ發育並ニ特性ヲ詳細ニ調査シ既ニ結果樹齡ニ達シ果實ニ對スル特性並ニ市場ノ嗜好等ニ就テ研究ヲ遂ゲタル結果將來本縣ニ於テ奨励スベキ品種ハ早生種ニアリテハ、アムステンジューン、魂、中生種ニアリテハ、トライアンフ、カールマン、土用水蜜、晩生種ニアリテハ、上海水蜜、離核水蜜等ニシテ油桃ニアリテハ、ハンボルト、ブレコースドクロンセル、等ナルガ如シ、

ロ、 西洋梨種類試験

西蒲原郡月潟村大字西萱場ニ於テ施行ス本試験ハ明治四十二年春季ヨリ着手セルモ其後年々品種ヲ増加シ

四十四年春園地ヲ變更セルモ既ニ五ヶ年ヲ經過シ本年度ニ於テ結實セルハ、オノンダガ、ウキンターパトレット、エースターボーレー、バートレット、ビーバリー、ラフランヌ、バウスタラツサンヌ、ノ七種ニシテ其他ハ開花後落花セルアリ結果半バニシテ風害ノ爲メ落果セルアリ未ダ全ク開花セザルモノアリ此等品種ノ本縣ニ於ケル選否ハ尙ホ二三年間繼續試験スルニアラザレバ遽カニ斷定ラ下シ難シ、

三、 病虫害部

イ、 毒劑使用試験

本試験ノ目的ハ梨ノ實蜂其他ニ對シテ「アーセネート、オフ、リート、ベースト」ノ効力及作物ニ對スル被害ノ有無ヲ知ラントスルニアリテ中蒲原郡新飯田村竹内清太ニ委託セルモノニシテ本年度ノ成績ニ依レバ水一斗ニ對シテ三十匁加用ノモノ最モ經濟的ニシテ効力アルモノ、如ク又石灰ヲ混用セルモノハ被害多ク砂糖ヲ加ヘタルモノハ其差ヲ認メザリシ但シ此毒劑ハ六月以降氣温ノ高マルト共ニ何レモ被害アルガ如シ更ニ試験ハ重テテ確メントス

ロ、 葡萄ノ病害豫防試験

本試験ノ目的ハ葡萄ノ黒痘病及露菌病ニ對スル殺菌劑ノ効力ヲ知ラントスルニアリテ中蒲原郡新飯田村大野友次郎ニ委託セルモノニシテ本年度ノ成績ニ依レバ砂糖加用ボルドウ液(三斗式)五回撒布ノモノ最モ有効ニシテ之ニ次グニ二斗式普通ボルドウ液ノ五回撒布トナシ尙ホ曹達ボルドウ液ハ被害アリテ到底使用スベキモノニアラザルヲ表セリ更ニ試験ヲ重テテ確メントス

ハ、 馬齡薯疫病豫防試験

本試験ノ目的ハ疫病ニ對スル「ボルドウ」液撒布ノ効力如何ヲ知ラントスルニアリ中頸城郡原通村清水太郎治及北蒲原郡京ヶ瀬廣川保ニ委託セルモノニシテ本年度ノ成績ニ依レバ豫防區ハ無豫防區ニ比較シテ何レモ收量大ナレドモ其豫防區中ノ優劣ハ未ダ判明スルヲ得ズ更ニ試験ヲ重テテ確メントス

四、分折部

土性調査 依託試驗成績 (第一回)

土性調査ノ設計ニ基キタルモノヲ改良法ト稱シ左記各町村農會ニテハ夫々擔當人ヲ定メ在來ノ耕種法ニ據ルモノト比較試驗ヲナサシメタル結果三郡擔當者十四人平均ノ成績ハ改良法ガ肥料代ニ於テ反當リ金六十錢九厘ヲ増シ玄米三斗六升五合及藁十一貫二百三十匁ノ增收アリ、即チ在來法ノ一割八分餘ニ相當スル增收ヲ擧グ得タリ、各擔當者ノ報告セル成績ヲ記載スルハ煩雜ナルヲ以テ各町村別ニ一括セルモノ左ノ如シ

郡	町村名	一反歩ノ肥料代金	玄米收量	藁重量	在來法ニ比シ改良法ノ玄米増加百分率
中蒲	菅名	五、九三〇	一、八〇四	六九、一〇〇	二〇、七九%
	菅名	六、二五〇	二、一七九	七五、九〇〇	
三島	寺泊	五、七四三	二、三四四	一二四、三〇〇	一五、四四%
	寺泊	六、六八五	二、七〇六	一四一、五〇〇	
中類	菅原	五、九三九	二、〇〇〇	八八、一四〇	一七、九〇%
	菅原	六、七一一	二、三五八	九五、四〇〇	
	菅原	〇、七七七	〇、三五八	七、二六〇	

三郡擔當者十四人平均差引改良法増加

〇、六七九

〇、三六五

一一、二三〇

一八、〇四%

第二、調査

一、園藝部

イ、果實蔬菜ノ販路調査

本場ハ從來生産獎勵ノ傍ラ販賣ノ斡旋指導ニ盡シタルガ本年度ニ於テハ本縣農會ノ委囑ニヨリ本場々員ヲ出張セシメ富山・高岡、金澤、福井、敦賀地方ニ於ケル果實、蔬菜ノ生産、並ニ消費ノ實況ヲ調査セシメタリ思フニ本縣果菜ノ販路開拓ニ資スル處尠カラザルベシ

ロ、各果樹品種ノ特性調査

本場果樹園ニ於テ栽培スル各果樹ニ就キ其ノ品種ノ特性ヲ調査シ當業者ノ參考ニ供シツ、アリ

ハ、各蔬菜品種ノ特性調査

本場蔬菜園ニ於テ試作スル各種蔬菜ノ品種ニ就キ其ノ特性ヲ調査シ試驗成績ト共ニ之レヲ發表シテ當業者ノ參考ニ供シツ、アリ

二、分折部

イ、酸性土壤調査

本年度ニ於テ酸性土壤ノ檢定ヲ行ヒタル郡市別檢定數左ノ如シ

北蒲原郡	一一、	中蒲原郡	一三、	南蒲原郡	二八、
西蒲原郡	一三、	東蒲原郡	三、	古志郡	三四、

三、嶋部 一三、
 中頸城郡 一三、
 高田市 四、
 東頸城郡 二二、
 岩船郡 四、
 北魚沼郡 六、
 西頸城郡 五、
 長岡市 九、

ロ、土性調査

本年度ニ於テ土性調査ヲ施行シタルモノ町村名並ニ前年度施行セルモノ内調査ヲ結了シ夫々成績ヲ發表シテ施肥ノ種類及用量ニ關シ具體的的設計ヲナシタル町村名左ノ如シ

- 一、調査ヲナシタルモノ
- 東蒲原郡 津川町並ニ隣接ニケ村
 - 南蒲原郡 本成寺村
 - 南魚沼郡 鹽澤町
 - 西頸城郡 上早川村
 - 岩船郡 猿澤村
 - 佐渡郡 金澤村
 - 長岡市
- 一、成績ヲ發表シタルモノ、
- 北蒲原郡 濁川村
 - 全蒲原郡 中浦村
 - 西蒲原郡 岩室村
 - 古志郡 十日町村
 - 北魚沼郡 堀内村
 - 東頸城郡 安塚村

三、病蟲部

- 一、二化螟蟲發蛾時期調査
- 二、二化螟蟲加害時期調査
- 三、白穗採時期調査
- 四、二化螟蟲越冬狀況調査
以上四項共ニ何レモ前年度ト大差ヲ認メズ
- 五、螟蟲卵寄生蜂歩合調査
本年度ハ螟蟲卵少ナキ爲調査ヲ行ハズ
- 六、害蟲ノ飼育
尙ホ本年度ニ於テ飼育シ之レガ經過習性ヲ調査シタル害蟲左ノ如シ
 - イ、梨ノ花喰蟲
 - ロ、黒瓜蠅
 - ハ、稻稈蠅
 - ニ、フヒロキセラ

第四、模範事業

一、普通特用作物部

イ、西比利亞式乾燥室
 前年ニ繼續シ粉米ノ乾燥ヲ試ミ天然乾燥ト火力乾燥トノ比較ヲナシ以テ範ヲ一般當業者ニ示セリ

中蒲原郡小合村大鹿	木村允	全	上	五反步	櫻桃、無花果、蘋果、梨、桃、李、葡萄
全部滿日村七日市	帆菊幸平	全	上	壹町四反步	蘋果、桃、李、梨、葡萄
刈羽村西中通村橋場	與口重次	全	上	八反步	蘋果、梨、葡萄、無花果、李
南蒲原郡新瀨村片桐	高橋信一	全	上	壹反步	蘋果、桃、葡萄
北魚沼郡廣瀨村並柳	關矢孫一	全	上	五反步	蘋果、葡萄
中頸城郡瀨田村瀨町	田中慶次	全	上	壹町七反步	蘋果、梨、桃、無花果、葡萄、李、柿、栗
古志郡東谷村小向	川上淳一郎	全	上	貳反步	蘋果、梨、葡萄
北蒲原郡黒川村黒川	伊藤建七郎	全	上	二反步	蘋果、栗、柿、葡萄
岩船郡館腰村大場澤	貝沼田鶴榮	全	上	二反步	蘋果、梨、栗、柿、葡萄
南蒲原郡葛卷村反田	葛卷村農會	全	上	二反步	蘋果、梨、李、桃、葡萄
三嶋郡關原村關原	近藤勘次郎	全	上	壹町二反步	梨、蘋果、桃、葡萄
全郡深才村福田	横山清次	全	上	八反步	蘋果、梨、葡萄、柿
南魚沼郡中之島村五郎九	江口周平	全	上	一町步	蘋果、梨、桃、葡萄
高田市本誓寺町	坂口耕平	全	上	二反五畝步	蘋果、梨、桃、葡萄
南魚沼郡城内村下原新田	佐藤美太郎	全	上	七反步	蘋果、櫻桃、桃、葡萄
中頸城郡美守村末野	福原寛一	全	上	四反五畝步	梨、蘋果、葡萄

尙ホ準摸範果樹園トシテ指導シツ、アルモノ次ノ如シ、

中蒲原郡白井村下八枚
刈羽郡高田村南下
高田市中殿通町
高田市堅春日町
南魚沼郡六日町余川

西脇寅次
大掛喜久平
下鳥留六
水野常太郎
若井新五郎

刈羽郡上條村水上
高田市四之辻通町
中蒲原郡川内村矢津
中魚沼郡蘆ヶ崎村赤澤

小林璋士
全市摸範果樹園
夏目熊治
阿部重信

ハ、採種組合

明治四十三年十月採種組合内規ヲ制定シ縣下ニ於ケル蔬菜、果樹苗木其他特用作物ノ特産地ニ之レガ組合ヲ設置セシメ其ノ生産種苗ハ今レヲ一般希望者ニ販賣セシメ以テ縣外ヨリ不買種苗ノ輸入スルヲ防ギ一方其ノ特産地ノ保護發展ヲ圖リシニ前年度迄認可シタルモノ十六個處本年度ニ於テ廢止シタルモノ一個所、新設一個處ニシテ現在組合數十六個處アリテ何レモ其ノ成績佳良ナリ今其組合ノ位置並ニ事業ノ成績ヲ表シスレバ左ノ如シ

位 置	組 合 名	認 可 年 月	採 種 品 名	大正二年度採種數量
刈羽郡西中通村橋場	刈羽節成胡瓜採種組合	明治四十三年三月	刈羽節成胡瓜	貳石
中蒲原郡新瀨村下條	三本木午莠採種組合	全 年 四 月	三本木午莠	貳拾石
三嶋郡深才村上富岡	深才柿穗採種組合	全 年 全 月	峰屋柿接穗	五千九百本
中蒲原郡庄瀬村庄瀬	庄瀬玉葱採種組合	明治四十四年七月	玉葱各種種子	壹石壹斗
刈羽郡刈羽村下高町	下高町樹苗組合	全 年 八 月	桃、葡萄、梨、李、苗木 梨、蘋果、桃、李、合葡萄	壹萬九千本
中蒲原郡小須戸町	小須戸町種苗販賣組合	全 年 十 月	魚沼市着茄子、 早生山茄子	五萬五千本
南魚沼郡城内村下原	城内午莠採種組合	明治四十五年三月	葡萄、柿、無花果、櫻	壹石貳斗
全上	城内午莠採種組合	全	葡萄、柿、無花果、櫻	七斗
古志郡下川西村	下川西大麻採種組合	全 年 四 月	大麻種子	六斗
高田市長門町	高田越瓜採種組合	全 年 七 月	高田越瓜	貳石參斗
中蒲原郡新瀨村下條	下條大根採種組合	大正元年八月	下條大根	四拾石
古志郡種芋原村	種芋原甘藍採種組合	全 年 五 月	甘藍種子	壹斗
長岡市上中島	長岡菜採種組合	全 年 六 月	長岡菜	六石

全上
古志郡黒條村
古志郡石津村

中島葱採種組合
黒條甜瓜採種組合
石津甘藷採種組合

全年
大正二年五月

中嶋葱
密柑瓜、梨瓜
川越赤蔓、紅赤、在來種

壹斗
六升
五千貫

三、畜産部

イ、養鶏組合

明治四十三年養鶏組合準則ヲ制定シ縣下適良鶏種ノ統一ヲ圖リ鶏及鶏卵ノ販路ヲ拓キ以テ養鶏上ノ利益ヲ確實増大ナラシムル爲メ之レガ組合ヲ組織セシメ、更ニ組合ノ聯絡ヲ密ニシ以テ完全有利ナル養鶏組織ヲ形成セシムル端緒ヲ得セシメントスルニアリテ現在組合數ハ十五、組合員數五百一名ニシテ此等組合ニ對シテハ請求ニヨリ種卵ノ無償配附ヲナシ又年一回實地指導ヲナセリ、其組合左表ノ如シ

名	稱	認可年月	主ナル飼禽種類	所在
橘家禽	組合	明治四十四年一月	褐色レグホーン、白色レグホーン	中魚沼郡橘村
西鱈田家禽購買販賣	組合	全	全	南蒲原郡本成寺村西鱈田
柿ノ木養鶏	組合	全	各古屋コーチン、白色レグホーン モットルドアンコーナ	三嶋郡西越村柿ノ木
大面養鶏	組合	全	名古屋コーチン、褐色レグホーン	南蒲原郡大面村大面
木明養鶏	組合	全	褐色レグホーン	古志郡上北谷村本明
椿澤養鶏	組合	全	褐色レグホーン、白色レグホーン、 名古屋コーチン	全北谷村椿澤
戊申家禽	組合	全	褐色レグホーン、 モットルドアンコーナ	全北谷村名木野
上小國養鶏	組合	全	褐色レグホーン、 モットルドアンコーナ	刈羽郡上小國村太郎丸
田井家禽	組合	全	褐色レグホーン	古志郡北谷村田井

名	稱	認可年月	飼豚ノ種類	所在
下大蒲原家禽改良	組合	全	白色レグホーン、褐色レグホーン、 黒色ミンノルア	中蒲原郡下大蒲原村
帶織家禽	組合	全	褐色レグホーン、 名古屋コーチン	南蒲原郡大面村帶織
二十日害禽	組合	全	名古屋コーチン	北蒲原郡安田村六野瀬
椿澤養鶏	組合	全	褐色レグホーン、白色レグホーン	右志郡山本村桂澤
新關養鶏	組合	全	褐色レグホーン、白色レグホーン	中蒲原郡新關村船越
横住養鶏	組合	全	白色レグホーン、褐色レグホーン、 褐色ミンノルア	東頸城郡安塚村横住

養鶏組合ト全一趣旨ニヨリ養豚組合ヲ組織シ前年度既設組合十七ノ内一ヶ所ヲ廢止シ本年度ノ新設ニ係ルモノニテ所都合現在十八ヶ組合、組合員數二百三十九名ニシテ此等組合ニ對シテハ種豚ノ無償配附ヲナシ又年一回實地指導ヲナセリ其組合左表ノ如シ

ロ、養豚組合

名	稱	認可年月	飼豚ノ種類	所在
本成寺養豚	組合	明治四十四年二月	パークシャー種	南蒲原郡本成寺村西鱈田
柿ノ木養豚	組合	全	全	三島郡西越村柿ノ木
本田上養豚	組合	全	全	南蒲原郡田上村本田上
七日市養豚	組合	全	全	三嶋郡日吉村七日市
安田豚生産販賣	組合	全	全	北蒲原郡安田村保田
大河津養豚	組合	全	全	三嶋郡大河津村敦ヶ曾根
本明養豚	組合	全	全	古志郡北谷村本明
新田畑養豚	組合	明治四十五年一月	全	刈羽郡北鱈石村新田畑
池之嶋養豚	組合	全	全	古志郡上北谷村池之嶋

三木本	壬子養豚組合	全	三	月	全	中蒲原郡五泉町三木本
櫛下	養豚組合	全	明治四十五年	三月	全	古志郡上川西村櫛下
深戸	養豚組合	全	全	全	全	東蒲原郡兩鹿瀬村深戸
下鳥	養豚組合	全	四	月	全	南蒲原郡新瀧村下鳥
新町	新田養豚組合	全	大正元年	十月	全	中魚沼郡上野村新町新田
枇杷	嶋養豚組合	全	十	月	全	刈羽郡枇杷嶋村枇杷嶋
大正	養豚組合	全	十	月	全	刈羽郡枇杷嶋村枇杷嶋
袋養	豚組合	全	二	月	全	西蒲原郡中野小屋村笠木
大面	養豚組合	全	二	月	全	南蒲原郡本成寺村袋

第五、其他ノ事業

一、普通特用作物部

一、採種田

一、原種ノ種類。昨年度全様左記四種類ヲ本縣水稻原種トセリ
 イ、高田早稻 ロ、石 ハ、中生高宮 ニ、二本三
 一、原々種田。原種ヲシテ永久ニ變化ナカラシムルト種子交換ノ目的ヲ達センガタメ原々種田ヲ富山縣東
 礪波郡青嶋村ニ面積貳反歩ヲ設置ス
 一、原種田。原種田ノ位置及反別左ノ如シ
 高田早稻 三反歩 中頸城郡水上村
 石 一町歩 南魚沼郡石打村
 中生高宮 二反歩 刈羽郡北條村

北	蒲原	一、〇〇	石白	一、〇〇	中生高宮	一、五〇	二本三	一、二五
中	蒲原	三、〇〇	石白	五、〇〇	中生高宮	一、〇〇	二本三	一、三〇
西	蒲原	八、〇〇	石白	二、〇〇	中生高宮	一、〇〇	二本三	一、二〇
南	原原	二、〇〇	石白	五、〇〇	中生高宮	一、〇〇	二本三	一、八〇
三	嶋	二、〇〇	石白	三、〇〇	中生高宮	二、〇〇	二本三	一、〇〇
古	志	二、〇〇	石白	六、〇〇	中生高宮	二、〇〇	二本三	一、〇〇
北	沼	一、〇〇	石白	二、〇〇	中生高宮	二、〇〇	二本三	一、〇〇
中	沼	一、〇〇	石白	二、〇〇	中生高宮	二、〇〇	二本三	一、〇〇
中	羽	一、〇〇	石白	六、〇〇	中生高宮	二、〇〇	二本三	一、〇〇
東	城	六、〇〇	石白	一、〇〇	中生高宮	一、〇〇	二本三	一、〇〇
西	城	〇、五〇	石白	一、〇〇	中生高宮	一、〇〇	二本三	一、〇〇
岩	船	〇、五〇	石白	一、〇〇	中生高宮	一、〇〇	二本三	一、〇〇
佐	渡	二、〇〇	石白	一、〇〇	中生高宮	一、〇〇	二本三	一、〇〇
長	岡	二、〇〇	石白	一、〇〇	中生高宮	一、〇〇	二本三	一、〇〇
計		二六、五〇		五二、〇〇		一八、五〇		八、〇〇

ニツキ五升ノ割合ニ無償配付ヲナシ殘餘ハ一般當業者、共同苗代、縣郡町村立農學校、農事試驗場、青年會農友會等ノ農業団体ニ無代配附ヲナセリ其數量左ノ如シ

指定採種田配附

一般配附

高田早稻

一石五斗

一石九斗一升一合

石白

二石四斗七升五合

六石九斗五升五合

中生高宮

八斗七升五合

二石八斗二升二合

二本三

四斗五升

八斗八升三合

一、採種田產種配附。各都市ニ於ケル本場指定採種田ヨリ生産セル種子ハ各都市ニ於テ夫レノ之レヲ當業者ヘ配附スルモノナルガ其配附數量左ノ如シ

高田早稻

五十六石二升

石白

九十八石一斗八升五合

中生高宮

二十六石二斗八升六合

二本三

十八石八斗

合計

百九十九石二斗九升一合

一、園藝部

イ、果樹苗木養成

果樹栽培獎勵ノ結果近年順ニ栽培者増加セルモ純正優良ナル苗木ヲ需ムルニ困難ナルガ爲メ本場ニ對シ配附ノ請求ヲ爲スモノ多キヲ以テ場ノ一區域ニ八畝歩ノ苗圃ヲ設ケ其他果樹園ノ間作トシテ果樹苗木ヲ養成シ六千六百本ヲ配布セリ其ノ内譯左ノ如シ

苹果 一、五〇〇

和梨 一、八〇〇

桃 一、〇〇〇

李 三〇〇

洋梨 三〇〇

柿 二〇〇

櫻桃 二〇〇

葡萄 一、三〇〇

ロ、花壇及促成栽培

場ノ前方空地ヲ利用シテ花壇ヲ創設シ三十餘種ノ草花ヲ栽培シ以テ草花栽培ノ範ヲ示シ尙其種子ヲ採取シテ之レヲ一般ニ配布セリ

ハ、果實輸出斡旋

本縣生産ノ梨及柿ハ其生産額頗ル多シト雖モ從來販路極メテ狭ク唯ダ和梨ノ一部分ガ東京、北海道等ニ輸出セラレタルニ止リ柿ノ如キハ産額ノ多キニモ係ラズ毫モ他縣ニ輸出セララル、一無ク價格亦タ極メテ低廉ナリシヲ以テ再昨年来縣農會ト協力シ名古屋、東京市場ニ輸出販賣ノ斡旋ヲナシタルニ産地ニ於ケル相場一箱三十錢乃至五十錢ノ騰貴ヲ來シ之レガ動機トナリ昨年ノ如キハ遠ク浦鹽、米國等ニモ多數出荷セラレタリ尙ホ和梨、柿ノ外洋梨、葡萄、桃等モ多少輸出セララル、ニ至レリ

ニ、果實販賣組合獎勵

果實ノ輸出ヲ斡旋スルト共ニ販路調査、品種統一、檢査及ビ荷造ノ一定等ヲ爲サシムル爲メ縣農會ト協力シ販賣組合ノ設立ヲ獎勵シ現ニ十五組合ノ設置ヲ見ルニ至レリ

三、分析部

一、分析鑑定

本年度ニ於テ分析鑑定ヲ爲シタルモノ總計百三十四件、八百三十八成分ニシテ縣内當業者ヨリ依頼ニ係ハルモノ八十四件、二百二十六成分ニシテ場用分析五十件、六百十二成分ナリ其供試品別左ノ如シ

供試品種類

件數

成分數

肥料

五六

一二二

土	五五	六〇三
水	二〇	一〇五
其	三	七
土地鑑定	中蒲原郡小林早通	二ヶ村

四、病 蟲 部

イ、青酸瓦斯燻蒸

本事業ハ縣下中魚沼郡ニ於テ行ヒ明治四十五年ヨリノ繼續事業ニシテ成績見ルベキモノアルモ地形氣候ノ關係ヨリ冬期積雪ノ上ニ於テ施行スルガ爲メ勢ヒ小木ノ見落シタルモノ或ハ根部ニ寄生セルモノ等ヨリ漸次發生シテ再燻蒸ヲナスベキモノナキニアラズ是等百六十六本ニ對シ本年二月ヨリ三月迄燻蒸ヲ行ヒ其後四月ニ於テ根ノ處分ヲ施行セリ

從來ノ成績ニ依レバ中魚沼郡下ニ於ケル果樹ハ何レモ喬木仕立ニシテ手入ヲ加ヘタルモノ少ナク他府縣ニ於ケル果樹ノ如ク栽培的ノ樹形ニアラザルガ故ニ作業上意外ノ困難アルト又綿虫ノ發生大ナリシ爲メ豫期ノ効果ヲ揚グルヲ得ザリシモ此事業ノ爲メ綿虫ノ害毒並ニ栽培上ニ於テ充分ナル注意ヲ要スベキコト延テハ稻作上ニ於ケル害虫驅除ノ必要等ヲ一般果樹ノ所有者ニ感得セシメ得タルハ一面ニ於テ預テ効大ナルモノト云フベシ殊ニ此事業着手ノ當時ハ何レモ果樹ヲ隱匿スル傾キアリ中ニハ作業ニ反對シテ反抗スルモノナキニアラザリシモ本年ニ於テ寧ロ好意ヲ以テ歡迎スルニ至リシヨリ觀レバ以テ其趨勢ノ如何ヲ知ルニ足ルベキナリ

ロ、野 鼠 驅 除

本年度ニ於テハ例年ノ通り秋季ニ田畑四千二百八十町春季ハ七千三百三十四町歩ニ對シテ「チプス」菌ノ無代配布ヲナセリ

五、庶務會計部

イ、報告類發刊ニ關スル事項

大正元年度業務功程 三百部
 試驗成績廿八號 三百五十部
 採種組合説明書 六千枚
 試驗場諸規程一覽 千五百枚

ロ、文書取扱件數

本年度ニ於テ取扱シ文書ハ四千六百三十五件ニシテ内譯左ノ如シ
 收受 二千四百四十一件 發送 二千百九十四件

ハ、職員出張數

用 務	回数	日數
土性調査並講話	一四回	七〇日
品評會審査其他	六	四三
調査、視察	三一	七七
野鼠驅除	二	六
園藝講話	六	九
事務打合其他	二五	四〇
赴任	一	三
協議會	七	二一
害虫驅除	九	五一

農事督勵	一	三三
農事講話	二〇	三三
依託試驗其他實地指導	五三	九九
管外出張	一一	六五
講習	一四	一五
一萬八百三十人		

二、參觀人員

大正
二元
年度
夏冬
作作
試驗
成績

(種藝部)

大正元年度冬作

目次

第一	全種類試驗	其一	一
二	春蒔大麥種類試驗	其二	二
三	雪害豫防試驗		三
四	石灰加用試驗		四
五	智利硝石肥効試驗		五
六	畦幅對播種量試驗		六
七	肥料反應試驗		七
八	石灰窒素肥効試驗		八
九	土掛試驗		九
〇	播床幅試驗		〇
一	播種法試驗		一
二	人工雜種種類試驗		二
三	小麥		三
四	全種類試驗	其一	四
五		其二	五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇
一			一
二			二
三			三
四			四
五			五
六			六
七			七
八			八
九			九
〇			〇

三	人工雜種種類試驗	二十九頁
第三	麥作豐凶考照試驗	二十頁
第四	油 菜	二十三頁
一	種類試驗	二十四頁
二	畦幅株間對苗數試驗	二十五頁
三	肥料配合法試驗	二十六頁
四	移植對褐紋病關係試驗	二十七頁
五	豐凶考照試驗	二十八頁
大正二年度夏作		
第一	水稻	三十一頁
一	種類試驗	三十三頁
二	全上	三十七頁
三	澆水地對種類試驗	四十四頁
四	豐凶考照試驗	四十五頁
五	耕起期試驗	五十二頁
六	肥料反應試驗	五十三頁
七	種子交換試驗	五十四頁
八	直播對種類試驗	五十七頁
九	追肥期試驗	五十九頁

一〇	種類對肥料施用量試驗	六十一頁
一一	石灰種類比較試驗	六十八頁
一二	耕起法試驗	六十九頁
一三	石灰窒素施用法試驗	七十一頁
一四	人工雜種品種試驗	七十二頁
一五	品種改良試驗	七十四頁
第二	陸 稻	七十五頁
一	種類試驗	七十六頁
二	肥料反應試驗	七十七頁
第三	大 豆	七十九頁
一	種類試驗	八十頁
二	全上	八十一頁
三	株數對肥料適量試驗	八十三頁
四	大豆形質調查試驗	八十四頁
第四	落 花生	八十七頁
一	種類試驗	八十八頁
二	播種期試驗	八十八頁

大正元年度冬作試験成績

第一、大 麥

耕種梗概 但シ特殊ノモノヲ除ク
 整地 夏作物收穫後深ク耕起シ置キ播種ノ際ニ至リ土塊ヲ碎キ地均シヲナセリ
 畦幅 二尺二寸五分ノ高畦トス
 撰種 母本ヲ採種シ更ニ比重一、一三ノ鹽水ヲ以テ撰種シ清水ニテ洗滌陽乾セリ
 播種期及播種量 特殊ノモノ、外十月四日ニ反當六升ノ割合ヲ以テ條播セリ
 播種法 播條中ニ肥料ヲ施シ其上ニ播下シ薄ク土ヲ覆ヒ輕ク鎮壓セリ
 肥料 反當用量及ヒ所含三要素量左ノ如シ

肥料名	總用量	元肥	追肥	肥價	所含三要素量		
					窒素	磷酸	加里
堆肥	三四,〇〇〇	三四,〇〇〇	—	三,四〇〇	—	二,一六五	
人尿	二六,〇〇〇	一三〇,〇〇〇	—	三,九〇〇	—	一,五八	
強過磷酸石灰	四,五〇〇	四,五〇〇	—	〇,六一六	—	〇,八一	
葉灰	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	—	〇,三五〇	—	〇,九二	
計				八,二六六	三,六九四	四,二二六	
						三,二六九	

施肥期 元肥ハ移植ノ際ニ追肥ハ春期融雪後四月四日ニ施セリ
 中耕及土寄 第一回ノ中耕ハ春季融雪後四月七日第二回ハ四月三十日ニ行ヒ土寄セハ五月二日之レヲ了セリ

除 草 融雪後四月七日、四月二十九日、五月二十三日ノ三回之ヲ行ヘリ
 病虫害驅除豫防 播種前麥ノ黑穗豫防ノタメ冷水温湯浸法ヲ行ヒ、降雪前十一月六日蝸蝓ノ被害アリ
 シ個所ハ之ヲ補植セリ

一、種類試験 其一 (繼續)

本試験ハ從來本場ニ於テ試験ノ結果最モ優良ニシテ本縣下ニ必過ノ種類ト確定シタル長岡、今朝白、六角シユバリヲ採種配付用トシ殘餘ノ種類ニツキ更ニ試験ヲ繼續シ詳細ニ其優劣ヲ比較シ地方ニ最適スル良種ヲ選抜セントスルニアリ
 供試種類並ニ生育ノ狀況左ノ如シ(作付歩數ハ各區六歩トシ一種類ニツキ二區宛ヲ設ケタリ)

區名	種類名	取寄先	雪害	五月六日狀況		出穗期	收穫期	收穫期ノ狀況		備考
				草丈	分蘗數			稈丈	分蘗數	
一	濠州	秋田縣	無	二、二〇	五、五	五、二四	六、二七	三、四〇	五、〇	蝸蝓害
二	大政	石川縣	少	二、一八	五、七	五、二〇	六、二二	三、三〇	四、七	全割四分
三	赤塚	全	無	二、一八	六、七	五、二〇	六、二〇	三、三三	五、三	全割三分
四	飛騨	岐阜縣	全	一、九〇	五、五	五、二二	六、二五	三、三三	四、一	全割五分
五	雄勝	陸羽支場	全	一、八〇	四、七	五、二三	六、二五	三、一八	三、三	全割六分
六	仙北	全	少	二、〇七	六、六	五、二〇	六、二五	三、五〇	六、五	全割七分

備考 第一區ハ五割方倒伏セリ
 收穫ノ成績左ノ如シ

二、種類試験 其二 (新設)
 本試験ハ各地ヨリ收穫多量品質善良ヲ以テ稱セラル、種類ヲ蒐集栽培シ以テ本縣ノ風土ニ適スルモノヲ選抜セントスルニアリ
 試験區別並ニ生育ノ狀況左ノ如シ(作付歩數ハ各區六歩)

區名	種類名	取寄先	雪害	五月六日狀況		出穗期	收穫期	收穫期ノ狀況		
				草丈	分蘗數			稈丈	分蘗數	
一	魁石	日本農園	全	一、七五	三、六	五、一四	六、二六	一、八〇	一、八〇	柔
二	五畝	全	全	一、七二	三、六	五、一四	六、二六	一、八〇	一、八〇	柔
三	巡禮	全	全	一、七二	三、六	五、一四	六、二六	一、八〇	一、八〇	柔
四	山谷	全	全	一、七二	三、六	五、一四	六、二六	一、八〇	一、八〇	柔
五	六角シユバリ	全	全	一、七二	三、六	五、一四	六、二六	一、八〇	一、八〇	柔
六	ケ	全	全	一、七二	三、六	五、一四	六、二六	一、八〇	一、八〇	剛
七	御膳	全	全	一、七二	三、六	五、一四	六、二六	一、八〇	一、八〇	剛
八	六角	全	全	一、七二	三、六	五、一四	六、二六	一、八〇	一、八〇	剛

九白 麥 群馬縣 全減
 一〇半 芒 全 全
 收穫ノ成績 前記ノ生育狀況ナルヲ以テ收穫ノ成績ヲ見ル能ハス、但シ第六區及ヒ第七區ノ成績ヲアケレハ左ノ如シ

區名	種類名	子實收量	一升重量	芒秤重量	稈重量	稈重量	品質
七御膳	ケイプ	一、〇六八	二五	三、八五〇	二、四〇〇	二、〇五〇	全
六ケ	一	七五	二五	四、五〇〇	二、四〇〇	二、〇五〇	全

三、春蒔大麥種類試驗 (繼續)

本試驗ハ各地ヨリ春蒔大麥ノ種類ヲ集メ其優劣ヲ比較シ當地方ニ適スル良種ヲ撰定セントスルニアリ
 播種期 四月八日 作付歩數 各區六歩
 試驗區別並ニ生育ノ狀況左ノ如シ

區名	種類名	五月六日狀況		出穗期	收穫期	收穫當時ノ狀況		備考
		草丈	分蘗數			稈丈	分蘗數	
一	ゴールドデンメロン	〇、三〇〇	二六	六、二二	七、二三	二、三〇〇	剛	粘蠶害六割
二	スタンドウエル	〇、五〇〇	三〇	六、二四	七、二四	二、五〇〇	全	無
三	獨乙春蒔	〇、三五〇	三三	六、二二	七、一五	二、五五〇	稍柔	無
四	春蒔大麥	〇、五〇〇	三三	六、二三	七、一五	二、七〇〇	剛	無

收穫ノ成績左ノ如シ

四、雪害豫防試驗 (繼續)

本試驗ハ栽培法ノ如何ト雪害ノ多少トヲ究メントスルニアリ
 供試種類 飛彈、作付歩數 各區六歩
 試驗區別左ノ如シ

區名	種類名	子實收量	一升重量	芒秤重量	稈重量	五ヶ年平均收量	品質	區名		備考
								試驗	別	
一	ゴールドデンメロン	一、〇九一	三二〇	九、〇〇〇	六、三〇〇	〇、九一四	一	一	降雪前十二月五日根際ヨリ切除ス	粘蠶害
二	スタンドウエル	一、一六二	二九三	七、一〇〇	六、一〇〇	一、一九九	二	二	高畦ニ條播ス	二割五分
三	獨乙春蒔	一、八四〇	二六三	九、〇〇〇	四、七、五〇〇	一、六九三	二	二	三月十八日撒布ス	全
四	春蒔大麥	一、六九九	二九六	六、五五〇	七、五〇〇	一、四二六	一	一	無肥料播種	二割六分

備考 第一區ハ地上一寸根際ヨリ剪除シタルヲ以テ消雪後ニ至リテハ殘存スルモノ僅少テリシニヨ
 リ其後ノ生育狀況ノ調査ヲ欠ク
 收穫ノ成績左ノ如シ

區名	試驗別	子實收量	一升重量	芒稈重量	稈重量	平均收量	平均收量		
四	鎮壓	多	二〇〇	九二	五、三	六、二四	三、二〇	全	二割七分
五	葉先剪除	無	一、九六	四三	五、三	六、二	三、六八	全	一割五分
六	無肥料播種	少	二、一〇	六	五、三	六、二四	三、七〇	全	一割四分
二	標準區		一、九〇	二九	二九	一〇、三五〇	九、五〇〇		一、八九四
三	土粒撒布		一、四八	二九	二九	八、〇〇〇	七、〇〇〇		一、七三九
四	鎮壓		一、七五	二九	二九	九、四〇〇	一〇、一五〇		一、九五三
五	葉先剪除		一、七六	二九	二九	八、四〇〇	九、二五〇		一、九五三
六	無肥料播種		二、三六	二九	二九	一四、二五〇	二六、〇〇〇		二、一五〇

五、石灰加用試驗 (繼續)
 本試驗ハ本場普通肥料ニ石灰ヲ加用シ大麥ニ對スル效驗ヲ知ルト同時ニ其加用適量ヲ知ラントスルニア
 リ
 供試種類 長岡 作付歩數 各區六歩
 試驗區別並ニ生育ノ狀況左ノ如シ

區名	試驗別	雪害多少	五月六日狀況	出穗期	收穫期	收穫期ノ狀況	備考	
一	石灰無加用	少	二、一〇	七五	五、三	六、三	三、四五	二割三分
二	全二十貫加用	全	二、〇五	八二	五、三	六、三	三、二〇	一割七分
三	全三十貫加用	全	一、八五	九四	五、三	六、二	三、六〇	一割七分
四	全四十貫加用	全	二、四〇	七〇	五、四	六、二四	三、五一	一割一分

收穫ノ成績左ノ如シ

區名	試驗別	子實收量	一升重量	芒稈重量	稈重量	平均收量	平均收量
一	石灰無加用	二、二七	二六八	一一、八〇〇	九四、五〇〇	二、一三四	一
二	全二十貫加用	二、〇四	二七四	一〇、三五〇	八一、〇〇〇	二、〇〇六	三
三	全三十貫加用	一、八七九	二六五	九、八五〇	八〇、〇〇〇	一、八七〇	四
四	全四十貫加用	一、八九七	二六六	一一、一〇〇	九四、〇〇〇	二、〇八九	三

六、智利硝石肥效試驗 (繼續)

本試驗ハ大麥ニ對シ智利硝石ノ肥效ヲ知ルト同時ニ分施回数ニ影響ヲ觀ントスルニアリ
 供試種類 今朝白 作付歩數 各區六歩
 肥料 反當窒素三貫匁、磷酸二貫匁、加里二貫五百匁ノ割合トシ基本肥料トシテ反當堆肥三百貫ヲ施
 シ磷酸ハ強過磷酸石灰、加里ハ葉灰ヲ以テ補給シ窒素ノ不足分ハ供試肥料ヲ以テ補給セリ
 試驗區別左ノ如シ

區名	肥料名	分施回数	施用時期
一	人尿	二回	元肥、四月四日

二 智利硝石
三 全
四 全
生育ノ状況左ノ如シ
元肥、四月四日、五月三日
元肥、十二月十四日、四月四日、五月三日

區名	試驗別	雪害	五月六日狀況		出穗期	收穫期	收穫期ノ狀況		粘蝻害
			草丈	分蘗數			草丈	分蘗數	
一	人尿尿二回分施	少	二、二五	六〇 _本	五月二日	六月三日	三、四六	四九 _本	二割四分
二	智利硝石二回分施	全	二、一〇	五九	五月三日	六月三日	三、五五	四九	一割四分
三	全上三回分施	全	二、一五	六六	五月二日	六月三日	三、四〇	四九	三割二分
四	全上四回分施	全	二、二〇	六三	五月三日	六月四日	三、七〇	六二	三割一分

區名	試驗別	子實收量	一升重量	芒秤重量	稈重量	平均ケ收量
二	智利硝石二回分施	二、四〇八	二七二	一一、六〇〇	九八、五〇〇	一、九六五
三	全上三回分施	二、五七〇	二五六	一三、八〇〇	一〇六、〇〇〇	一、九七四
四	全上四回分施	二、四一六	二六三	一四、五五〇	一〇九、〇〇〇	一、九五八

七、畦幅對播量試驗 (繼續)

本試驗ハ大麥ニ適當ナル畦幅ヲ知ルト同時ニ其畦幅ニ對スル播種ノ適量ヲ知ラントスルニアリ

供試種類 今朝白 作付歩數 各區六步
試驗區別及生育狀況左ノ如シ

區名	試驗別	雪害	五月六日狀況		出穗期	收穫期	收穫期狀況		粘蝻害
			草丈	分蘗數			草丈	分蘗數	
一	二尺畦 五升播	少	二、一三	八四 _本	五月二日	六月二日	三、七五	五〇 _本	五分
二	全 六升播	全	二、一〇	九三	五月二日	六月二日	三、七〇	五〇	七分
三	全 七升播	全	二、二〇	九二	五月二日	六月二日	三、七〇	五〇	七分
四	二尺五寸畦 五升播	全	二、四九	八七	五月二日	六月二日	三、六〇	五〇	九分
五	全 六升播	全	二、〇二	八五	五月二日	六月二日	三、六〇	五〇	七分
六	全 七升播	全	二、三五	八八	五月二日	六月二日	三、六〇	五〇	七分
七	尺畦 五升播	全	二、二三	八二	五月二日	六月二日	三、五〇	五〇	一割二分
八	全 六升播	全	二、二〇	七五	五月二日	六月二日	三、四五	四九	六分
九	全 七升播	全	二、〇五	八二	五月二日	六月二日	三、五〇	四九	五分
一〇	全 點播	全	二、四三	一一三	五月二日	六月二日	三、四〇	四九	三分
一一	全 高畦二條播	全	二、二三	五八	五月二日	六月二日	三、二五	四九	二割三分

區名	試驗別	子實收量	一升重量	芒秤重量	稈重量	平均ケ收量	平均收量
二	全 六升播	二、〇〇七	二七九	九、六〇〇	九四、五〇〇	二、二三〇	二、二三〇

三	全	七升播	二、二八	二六九	一〇、六五〇	九二、五〇〇	二、一〇一
四	二尺五寸畦	五升播	二、〇三	二七八	一一、三〇〇	九〇、〇〇〇	一、九三
五	全	六升播	二、〇〇七	二七二	一〇、六〇〇	九九、五〇〇	二、〇五〇
六	全	七升播	一、八六四	二七五	一一、五五〇	一一、五〇〇	一、九六二
七	三尺畦	五升播	一、七四四	二七七	一二、五五〇	一〇一、〇〇〇	一、八七
八	全	六升播	一、五五二	二七五	八、二〇〇	七五、〇〇〇	一、七二七
九	全	七升播	一、五八	二七二	七、六五〇	六八、五〇〇	一、七五九
一〇	全	畦點播	一、六二	二八一	七、九五〇	一〇九、〇〇〇	一、八一七
一一	全	高畦二條播	二、〇〇二	二四一	一一、四〇〇	七二、〇〇〇	二、〇七
四〇八二九六五七二							

八、肥料反應試驗 (繼續)

本試驗ハ本場ノ如キ土壤ニ於テ肥料反應ノ如何カ大麥ノ生育、收量ニ及ホス影響ヲ知ラントスルニアリ
 供試種類 六角シユバリ 作付歩數 各區六步
 肥料 反當窒素及加里二貫匁、磷酸一貫五百匁ノ割ニ施給セリ
 試驗區別左ノ如シ
 第一、強酸性區 第二、弱酸性區 第三、強鹽基性區 第四、強酸性石灰加用區
 硫酸アンモニヤ 硫酸アンモニヤ 石灰 硫酸アンモニヤ
 強過磷酸石灰 全木全 上灰上 全石灰 強過磷酸石灰
 生育狀況左ノ如シ

區名	試驗別	雪害	五月六日狀況	出穗期	收穫期	收穫期狀況	粘蝻害
區名	試驗別	子實收量	一升重量	芒稈重量	稈重量	收二ヶ年平均量	
一	強酸性區	少	一、八〇	五、四日	六、二日	三、一五	五分
二	弱酸性區	全	二、〇〇	五、三日	六、二日	三、一五	三分
三	強鹽基性區	全	一、八〇	五、三日	六、二日	三、三五	二分
四	強酸性石灰加用區	全	一、九四	五、三日	六、三日	二、九三	二分
一	強酸性區	少	一、〇六九	二、八三	六、五〇〇	五、三〇〇	一、三九九
二	弱酸性區	全	一、五二七	二、九〇	八、六五〇	六、〇〇〇	一、五二
三	強鹽基性區	全	一、八五二	二、五七	九、七五〇	七、〇〇〇	一、九四二
四	強酸性石灰加用區	全	一、三九三	二、八五	七、二〇〇	五、八、五〇〇	一、四九三

九、石灰窒素肥効試驗 (繼續)

本試驗ハ大麥ニ對シ石灰窒素ノ肥効ヲ知ラントスルニアリ(硫酸安母尼亞ヲ對照肥料トセリ)
 供試種類 六角シユバリ 作付歩數 各區六步
 肥料 反當窒素二貫匁、磷酸及加里各一貫五百匁ノ割合
 試驗區別並ニ生育狀況左ノ如シ

五	四	三	二	一
藥人強石 過過 尿磷酸 石	木強石 過過 灰磷酸 石	硫強石 過過 灰磷酸 石	木強石 過過 灰磷酸 石	硫強石 過過 灰磷酸 石
全	全	少	全	無
一、七〇	一、七三	一、五〇	一、三三	一、〇五
四	四	二	二	二
五、二四	五、二五	五、二五	五、三三	五、二五
六、二四	六、二六	六、二九	六、二七	六、二七
三、四〇	三、一〇	三、一〇	二、三〇	二、一〇
三	三	二	一	二
全	全	柔	一 九 稍 柔	剛
一	無	五	一 割 一 分	二 割 三 分

備考 十一月上旬ヨリ第一區ハ酸性被害ノ徵候ヲ呈シ初メタリ、第二區モ稍々其ノ徵候ヲ現ハシ發育他區ニ劣レリ、一般ニ本試驗區ハ他ノ試驗區ヨリモ發育不良ナリキ

五	四	三	二	一
一、九三	一、七六	一、三〇	〇、六七	〇、一〇
二、五九	二、五五	二、六五	二、六八	二、五〇
一、四、三五〇	一〇、八〇〇	一〇、五〇〇	四、六〇〇	一、六五〇
一〇、一五〇	六、一〇〇	五、五〇〇	二、七〇〇	九、〇〇〇
二、一五	一、六九	一、四六	一、八三	一、一〇
一	二	三	四	五

10、土掛試驗 (新設)

本試驗ハ麥ノ葉上ヨリ土粒ヲ撒布スルノ效驗並ニ土掛ケノ適期如何ヲ知ラントスルニアリ
供試種類 長岡 作付歩數 各區六步
試驗區別並ニ生育狀況左ノ如シ

區名	試驗別	雪害	五月六日狀況	出穗期	收穫期	收穫期狀況	備考
一	四月十日土掛	無	一、七三	五月三日	六月三日	四、二 稍柔	粘 一割八分
二	四月廿日全	全	二、三〇	五月三日	六月三日	五、五 全	全五分
三	五月一日全	全	一、八三	五月三日	六月三日	三、五〇 柔	全七分
四	五月十日全	全	二、〇〇	五月三日	六月三日	三、一五 稍柔	全三分

收穫ノ成績左ノ如シ

區名	試驗別	子實收量	一升重量	芒稈重量	稈重量	順收位置
一	四月十日土掛	一、八三四	二、七	九、一五〇	七、〇〇〇	二
二	四月廿日全	一、九六九	二、九二	一、〇〇〇	九、〇〇〇	一
三	五月一日全	一、八二八	二、八九	九、七〇〇	八、五〇〇	三
四	五月十日全	一、六八三	二、七六	八、六五〇	七、五〇〇	四

11、播床幅試驗 (新設)

本試験ハ種子ヲ播下スヘキ播床幅ノ廣狹カ生育並ニ收量ニ幾何ノ差アルヤヲ知ラントスルニアリ
供試種類 長岡 作付歩數 各區六步
試験區別及生育狀況左ノ如シ

區名	試驗別	雪害 多少	五月六日狀況		出穗期	收穫期	收穫期狀況		蝨蟻害
			草丈	分蘗數			草丈	分蘗數	
一	畦幅二尺ノ上ニ四寸 市ニ下種シタルモノ	無	一、七六	五、三	五、三	六、三	三、二〇	三、六	二割六分
二	畦幅二尺ノ上ニ六寸 市ニ下種シタルモノ	全	一、九三	五、三	五、三	六、三	三、五五	四	二割二分

收穫ノ成績左ノ如シ

區名	子實收量	一升重量	芒稈重量	稈重量	順收位置
一	一、六〇	二七〇	八、九五〇	六、〇〇〇	二
二	一、六七〇	二八五	九、六五〇	七、〇〇〇	一

一一、播種法試驗 (新設)

本試験ハ本縣ノ如キ冬季積雪多キ地方ニテハ點播ト條播何レカ可ナルヤヲ確メントスルニアリ
供試種類 長岡 作付歩數 各區六步
試験區別並ニ生育狀況左ノ如シ

區名	試驗別	雪害 多少	五月六日狀況		出穗期	收穫期	收穫期狀況	
			草丈	分蘗數			草丈	分蘗數
一	播	少	一、八〇	六、六	五、四	六、三	三、四五	六、六
二	條	全	一、八五	七〇	五、三	六、三	三、四〇	五、七

備考 第一區ノ分蘗數ハ二株ノ數ニシテ第二區ハ一尺間ノ本數ナリトス
收穫ノ成績左ノ如シ

區名	試驗別	子實收量	一升重量	芒稈重量	稈重量
一	點	一、六六	二七五	九、六五〇	八、三〇〇
二	條	一、六九七	二五七	九、二五〇	八、〇〇〇

一二、人工雜種種類試驗 (新設)

本試験ハ農事試驗場内支場ニ於テ人工雜種ニヨリ作成シタル新品種ノ適否ヲ知ラントスルニアリ
作付歩數 各區一坪 播種期 十月十日
供試種類並ニ生育狀況左ノ如シ

種類名	父母名	雪害多少	出穗期	收穫期	收穫當時ノ狀況	
					丈	稈
甲、一四號	六角シユバ	殆ンド全滅	五、四	六、一〇	二、二〇	剛柔
甲、二一號	丹波白	八割	五、六	六、二	二、七〇	全
乙、二〇五號	獨三	殆ンド全滅	五、八	六、二五	二、一〇	全
甲、二號	獨三	全上	五、〇	六、二〇	二、〇〇	全
乙、一四四號	獨三	全上	五、二八	六、二九	三、二五	剛

三 八 號	二 四 號	四 〇 號	四 五 號
丹波早生	丹波早生	丹波早生	丹波早生
三割	多割	全割	全割
五、一五	五、三	五、四	五、七
六、一四	六、二	六、二八	六、三
二、一五	二、七〇	二、二〇	二、五〇
柔	稍	全	剛

備考 三八號以下ハ昨年度ヨリ試作シタリ、尙ホ前表以外ニ試作シタルモ雪害ノタメ全滅シタルモノ左ノ如シ

種類名	母名	父名	種類名	母名	父名
乙、一五五號	三	獨乙春時	乙、一六五號	ゲープ	杵築早生
甲、二二二號	坊	主ゲープ	乙、一八三號	丹波白	サルトン丹波白
乙、一六〇號	六角シユバリー	坊主			

第二、小 麥

耕種梗概
選種 比重一、二二ノ苦鹽汁ヲ用ユ
播種期 十月八、九兩日 播種量 反當四升
肥料 反當用量及所含三要素量左ノ如シ

肥料名	總用量	元	肥	追	肥	價	格	所含三要素量		
								窒素	磷	酸加里
人堆肥	二四〇,〇〇〇	二四〇,〇〇〇	二四〇,〇〇〇	二四〇,〇〇〇	二四〇,〇〇〇	二、四〇〇	一、五〇〇	二、〇五〇	一、六八〇	〇、四〇
尿肥	二四〇,〇〇〇	二四〇,〇〇〇	二四〇,〇〇〇	二四〇,〇〇〇	二四〇,〇〇〇	二、四〇〇	一、五〇〇	二、〇五〇	一、六八〇	〇、四〇

強過磷酸石灰	四、五〇〇	四、五〇〇	〇、六六	〇、九二	〇、四五〇
灰	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇、三五〇	二、九二	〇、四五〇
計			六、九六		二、五五

一、種類試驗其一(續)

本試驗ハ從來試驗ノ結果最モ優良ニシテ本縣下ニ必適セル種類ト確定シタル横澤、赤皮赤、マーチンア
ンバーノ三種ヲ選抜シ採種配付用トナシ殘餘ノ種類ニツキ更ニ試驗ヲ繼續シ詳細ニ其優劣ヲ比較シ當地
方ニ必適ノ良種ヲ撰定セントスルニアリ
作付歩數 各區六歩
供試種類並ニ生育狀況左ノ如シ

區名	試驗別	雪害	五月六日狀況		出穗期	收穫期	收穫期狀況		備考
			草丈	分蘗數			草丈	分蘗數	
一、ド、オーストラリヤ	無	二、二〇	八五	五月二九	六月二九	三、八〇	七、六	粘壤土	
二、白川	五割	一、五〇	四七	六月一	七月九	四、〇	五、〇	全	
三、赤皮	八割	一、八〇	三三	六月六	七月九	三、八〇	二、六	全	
四、仙北	少	一、八六	四九	六月一	七月五	三、八〇	四、二	全	

ヨリモ劣ルニ至レリ、然レモ各莖ハ強剛ニ生育シタルヲ以テ冬期積雪深クシテ且ツ長カリシニモ拘ラス融雪當時(三月下旬)ノ雪害寧ろ輕少ナリキ而シテ融雪後ハ氣温急ニ上昇シ麥ノ生育ヲ促進シ立夏前ハ稍々莖葉ノ徒長軟弱ノ傾キヲ呈セリ、而シテ立夏當日ノ狀況ハ大麥ニアリテハ草丈、分蘗ニ於テ劣ルモ昨年ト大差ナク、小麥ニアリテハ其ノ差稍々大ナリ

大暑成績報告 (七月廿四日)

本年度麥作期中立夏以後ノ狀況ハ五月中ノ天候兎角雨天多カリシニヨリ大麥ハ莖葉軟弱トナリ出穂期中ハ晴天持續シ又梅雨期モ甚ダシキ霖雨ヲ見スシテ收穫シ得收量ニ於テハ平年ニ優ルノミナラス昨年ニ比シテモ僅少ノ差ヲ見ルニ至レリ然レモ收穫前倒伏甚ダシカリシヲ以テ著シク一升重量ヲ減セリ、小麥ニアリテハ立夏當時ノ生育著シク劣リシカ其後生育ヲ恢復シ殊ニ赤澁病ノ發生極メテ少ナカリシニヨリ平年並ニ昨年ニ比シ著シク増收ヲ來タシ又大麥ノ如ク收穫前倒伏ヲ見サリシニヨリ一升重量ニ於テモ著シキ差ナキ成績ヲ得タリ、今前年及ヒ平年トノ比較對照表ヲ擧クレハ次ノ如シ

種類	年度項目	本年		前年		平年		前年トノ比較		平年トノ比較	
		收量	重量	收量	重量	收量	重量	收量	重量	收量	重量
大長	今朝	一、九八三	二六八	一、九六二	二九一	一、四八七	二七六	(+) 〇、〇三二	(-) 二、三	(+) 〇、四九六	(-) 一、八
	六角	二、〇〇六	二六九	二、〇二八	二八七	一、二九〇	二八二	(-) 〇、〇三三	(-) 一、八	(+) 〇、八六六	(-) 二、三
小	赤皮	一、八二二	二七八	一、八六二	二八二	一、四四二	二八〇	(-) 〇、〇四一	(-) 四	(+) 〇、三七九	(-) 二、三
	横澤	一、九三七	二七二	一、九五二	二八七	一、四〇六	二七九	(-) 〇、〇四四	(-) 二	(+) 〇、五二二	(-) 二、三
麥	平均	一、三三四	三五二	〇、九〇五	三四六	〇、九五九	三六〇	(+) 〇、四七九	(+) 六	(+) 〇、四四四	(-) 二、三
	平均	一、三七一	三五二	一、二三〇	三六一	〇、九一九	三五八	(+) 〇、四七一	(+) 五	(+) 〇、四四二	(-) 二、三
麥	平均	一、一五九	三五八	一、〇八九	三六一	〇、九八九	三五八	(+) 〇、〇七〇	(-) 三	(+) 〇、一七〇	(-) 二、三
	平均	一、三〇五	三四九	一、〇七五	三五六	〇、九五六	三五九	(+) 〇、三三〇	(-) 七	(+) 〇、三四九	(-) 二、三

右表ニヨレハ

- 一、大麥ニアリテハ三種平均反當收量一石九斗三升七合ニシテ前年度ニ比シ七厘五毛強ヲ減シ平年收量ニ比シ三割七分七厘強ヲ増加セリ
- 一、小麥ニアリテハ三種平均收量一石三斗〇五合ニシテ前年度ニ比シ二割一分四厘強ヲ増シ平年作ニ比シ三割六分五厘強ヲ増加セリ

第四、油 菜

耕種梗概(但シ特殊ノモノヲ除ク)

苗 床

整 地 畑地ヲ耕起シ粉碎シ幅二尺、播代一尺五寸ノ苗床ヲ作レリ

肥 料 苗床一坪ニ付キ人尿尿三貫目、糞灰百五十斤ノ割合トシ内元肥トシテ糞灰ノ全量及ヒ人尿尿一貫目ヲ施シ追肥トシテ二貫目ヲ十月二日ニ施セリ

撰 種 收穫ノ際其ノ種類ノ特性ニ基キ母本ヲ撰擇シ十分ニ陽乾シタル後揉ミ落シ風撰及ヒ篩撰ヲナシタルモノヲ用ヒタリ

播種期及播種量 九月十二日 苗床一坪ニツキ一勺ノ割合ニ播下セリ

播種法 苗床面ニ二條ニ足跡ヲ附ケ播條ヲ作り人尿尿ヲ施シ種子ヲ條播シ其上ニ糞灰ヲ施シ薄ク土ヲ覆ヒ輕ク鎮壓セリ

本 畑

管 理 苗床期中ハ隨時除草ヲ行ヒ、又間引ヲナシ、其他害虫驅除ヲ行ヘリ

整 地 夏作物收穫後十月廿五日深ク耕起シ土塊ヲ碎キ地均ラシヲナシ畦ヲ作レリ

畦幅及株間 畦幅二尺、株間五寸

移植期及移植法 十月廿六日 所定ノ株間ニ一株二本宛栽植セリ

肥料名	總用量	元肥	追肥	價格	所含三要素量
堆肥	二四〇,〇〇〇	二四〇,〇〇〇	—	二,四〇〇	一,五〇〇
人尿	三六〇,〇〇〇	一八〇,〇〇〇	一八〇,〇〇〇	五,四〇〇	二,一六〇
強過磷酸石灰	四,五〇〇	四,五〇〇	—	〇,六二六	〇,二六六
葉灰	五,〇〇〇	五,〇〇〇	—	〇,一七五	〇,九一一
計				八,五九一	三,六六六
					三,三三八
					〇,一〇五
					〇,二三五
					二,五二四

施肥期 元肥ハ移植ノ際ニ追肥ハ春季融雪後四月十七日ニ施セリ
 中耕及除草 中耕ハ追肥使用ノ際之ヲ行ヒ、除草ハ四月十七日ニ之レヲ行ヘリ

一、種類試驗 (續)

本試驗ハ從來試驗ノ結果成績佳良ト認メタル四郎丸、ハンパーク、東京早生ノ三種ヲ選抜シテ配付用トシ殘余ノモノニツキ更ニ試驗ヲ繼續シテ其優劣ヲ比較シ當地方ニ最適ノ良種ヲ選定セントスルニアリ
 作付歩數 各區六歩
 試驗區別並ニ生育狀況左ノ如シ

區名	種類名	取寄先	移植當時	五月六日	開花期	收穫期	收穫當時狀況
一三	重	秋田縣	一、四	二、八	五、七	六、八	二、三〇 稍強弱
二坂	井	福井縣	一、二〇	二、七〇	五、七	六、三	三、四八 全

備考 各區共融雪當時ノ狀況ハ地上部全部枯死セルモ其後新芽ヲ發シ開花スルニ至リタルヲ以テ著シク開花期遅延セリ
 收穫ノ成績左ノ如シ

區名	試驗別	子實收量	一升重量	莢重量	稈重量	平均收量	累年收量
一三	重	一、〇八三	三二二	三三、〇〇〇	三七、二五〇	(八)	〇、九二四
二坂	井	〇、五五六	三三〇	一五、二五〇	一八、五〇〇	(八)	〇、八二〇
三青	森	〇、七九	三五	二二、〇〇〇	二六、〇〇〇	(八)	〇、九〇一
四体	菜	〇、五三	三五	一七、二五〇	一六、五〇〇	(三)	〇、八〇六

二、畦幅株間對苗數試驗 (續)

本試驗ハ畦幅及ヒ株間ノ廣狹ト移植本數ノ多少ハ生育及ヒ收穫量ニ如何ナル關係アルヤヲ試ミントスルニアリ
 供試種類 四郎丸 作付歩數 各區六歩
 試驗區別並ニ生育狀況左ノ如シ

區名	試驗別	雪害多少	五月六日	開花期	收穫期	收穫當時ノ狀況
一	畦幅二尺一本植	地上部枯死	三、四〇	五、七	六、三	四、〇〇 稍柔

六	五	四	三	二
全株間八寸上二本植	畦間一尺五寸上二本植	畦間四寸上二本植	畦間二尺上二本植	畦間八寸上二本植
全	全	全	全	全
三、二〇	三、三〇	三、四〇	三、五〇	三、五〇
五、七	五、七	五、七	五、七	五、七
六、二	六、二	六、二	六、二	六、二
四、一五	四、一五	四、四〇	四、〇三	四、五〇
全	全	稍柔	稍剛	全

收穫ノ成績左ノ如シ

區名	試驗別	子實收量	一升重量	莢重量	稈重量	平均收量
一	畦間八寸上二本植	〇、七九〇	三七	一八、五〇〇	三三、二五〇	〇、八七三
二	畦間四寸上二本植	〇、九八三	三八	二四、七五〇	四〇、七五〇	〇、九六六
三	畦間二尺上二本植	〇、九八一	三七	二四、二五〇	四三、七五〇	〇、九六六
四	畦間一尺五寸上二本植	〇、八五〇	三八	二三、七五〇	三五、五〇〇	一、〇二八
五	畦間八寸上二本植	〇、九八六	三七	二三、七五〇	三九、二五〇	〇、九八五
六	畦間八寸上二本植	〇、八八四	三八	二三、五〇〇	三七、五〇〇	〇、九四八

三、肥料配合法試驗 (繼續)

本試驗ハ窒素質肥料ヲ施スニ當リ堆肥ヲ基本トシ之ニ磷酸及加里ヲ配合施用シテ其ノ優劣ヲ比較セントスルニアリ

供試種類 東京早生 作付歩數 各區六歩

肥料 反當窒素三貫目、磷酸及加里各二貫五百匁ノ割合トシ磷酸ハ強過磷酸石灰、加里ハ蓑灰ヲ

以テ配合セリ、而シテ基本トシテ堆肥三百貫ヲ各區ヘ共通施用セリ

施肥法 堆肥、強過磷酸石灰及蓑灰ハ全量ヲ移植ノ際ニ元肥トシ供試肥料ハ元肥及ヒ追肥(四月十七日ノ二回ニ分施セリ

試驗區別並ニ生育狀況左ノ如シ

區名	供試肥料	五月六日	收穫期	收穫期狀況	子實收量	一升重量	莢重量	稈重量	三ヶ年平均收量
一人尿	二、八〇	六、二〇	二、八〇	稍柔	〇、二五二	三三〇	八、〇〇〇	七、五〇〇	〇、七四三
大豆粕	二、九〇	六、二四	三、三〇	全	〇、三五〇	三三四	九、七五〇	一〇、七五〇	〇、六四二
三種粕	二、八〇	六、二四	二、八〇	稍柔	〇、三〇九	三三四	九、二五〇	一〇、〇〇〇	〇、六五三
硫酸安母尼亞	二、八〇	六、二三	三、二五	稍柔	〇、三九二	三三〇	一一、二五〇	一一、五〇〇	〇、七二二
石灰窒素	二、八〇	六、二四	三、八〇	全	〇、五〇九	三三八	一四、五〇〇	一四、七五〇	〇、五五二

備考 移植當時苗ノ狀況ハ苗丈一尺二寸本葉五枚開花ハ五月七日ナリ、雪害ノタメ地上部全部枯死シタルヲ以テ著シク收量ヲ減シタリ

四、移植期對褐紋病關係試驗 (新設)

本試驗ハ移植ノ早晚ト褐紋病發生並ニ收量トノ關係ヲ知ラントスルニアリ

供試種類 四郎丸 作付歩數 各區六歩

試驗區別生育狀況並ニ收穫ノ成績左ノ如シ

區名	試驗別	移植當時苗狀況	五月六日	收穫期狀況	子實收量	一升重量	莢重量	稈重量
苗丈	葉數	日草丈	草丈	稈強弱	子實收量	一升重量	莢重量	稈重量

一	十月十日移植	〇、八〇	三、八〇	三、九〇	柔	〇、九五五	三二二	二五、〇〇〇	四〇、七五〇
二	十月廿日移植	一、二〇	三、八〇	四、二〇	全	〇、九〇三	三二六	二四、〇〇〇	三五、七五〇
三	十一月一日移植	一、三〇	三、八〇	四、二〇	稍柔	〇、八九〇	三二六	二五、二五〇	四、五〇〇
四	十一月十日移植	一、三五	三、八〇	四、四〇	稍剛	〇、八七六	三二八	二四、七五〇	三七、二五〇

備考 本年度ノ試験ニ於テハ病害何レモ少クシテ移植期ノ早晚ト褐紋病ノ多少ニ就キ何等ノ關係ヲモ見出ス能ハサリキ、開花ハ五月七日收穫ハ六月二十三日ナリ

五、豊凶考照試験 (繼續)

本試験ハ毎年同一種類ニツキ普通ノ耕種方法ヲ以テ栽培シ其生育狀況ヲ調査シ以テ其年ニ於ケル油菜作ノ豊凶ヲ豫想スルト同時ニ監督官廳及主務省ヘ報告ノ基礎トスルニアリ
試験區別並ニ生育狀況左ノ如シ

區名	種類名	移植當時狀況		五月六日 草丈	開花期	收穫期	收穫當時狀況	
		苗丈	葉數				稈	丈
一	四郎丸	一、五五	五	三、二四	五月七日	六月八日	三、八〇	稍柔
二	東京早生	一、三〇	五	二、八二	五月七日	六月六日	三、三〇	全
三	ハンバーク	一、〇〇	五	三、六二	五月二日	七月三日	五、二〇	剛
區名	試驗別	子實收量	一升重量	莢重量	稈重量	累年平均收量		
一	四郎丸	〇、八九二	三二二	二二、〇〇〇	四四、五〇〇	(十三)	一、〇一九	

收穫ノ成績左ノ如シ

二	東京早生	〇、八三九	三二八	二二、〇〇〇	二七、〇〇〇	(九)	〇、九三六
三	ハンバーク	一、〇〇一	三〇七	三八、〇〇〇	七、〇〇〇	(十三)	一、〇〇六

今本年度油菜作豊凶ヲ明カナラシメノカ爲メ各期ニ於ケル定期報告ヲ抄録シテ參考ニ供ス
立夏(五月六日)報告

本年度冬作期間ニ於ケル氣象狀態ハ既ニ麥作ノ部ニ述ヘタルカ如ク播種當時ヨリ降雪前ニ至ル間ハ氣温ノ變化甚クシテ莖葉ハ寧ロ強剛ニ生育シタルモ雪害及ヒ病害ノタメ融雪ノ際ハ地上部腐滅スルモノ多ク殘存セシハ僅カニハンバーク種一種ニ過キサル狀態ニシテ其他ノ種類ハ被害輕ロキ殘株ノ再發芽ヲナシタルモノナルニヨリ開花期十日以上ヲ遅延セリ

大暑(七月廿三日)報告

種類名	本年度		前年度		平年		前年比較		平年比較	
	收量	一升重量	收量	一升重量	收量	一升重量	收量	一升重量	收量	一升重量
四郎丸	〇、八九二	三二二	一、三八三	三二一	一、〇五二	三五五	(一)〇、四九二	〇	(一)〇、九五	(一)
東京早生	〇、八四〇	三二八	一、一三八	三五	〇、八六二	三五	(一)〇、二九八	(一)	(一)〇、〇三	(一)
ハンバーク	一、〇〇三	三〇七	一、四三二	三二一	〇、九五四	三三	(一)〇、二八	(一)	(一)〇、三四九	(一)
平均	一、二六七	三二二	一、三二七	三二六	〇、九五六	三二四	(一)〇、一五〇	(一)	(一)〇、三三	(一)

右表ニヨレハ油菜三種平均反當收量一石一斗六升七合ニシテ前年收量ニ比シ一割一分三厘強ノ減收、平年作ニ比シ二割二分強ノ増收ヲナセリ、之レ本年度冬作生育期中ノ天候ハ既ニ麥作部ニ於テ述ヘタルカ如ク油菜ニアツテハ雪害並ニ病害ノタメ地上部枯死シタルモ降雪前ニ於テ根部ノ發育十分ナリシニヨリ春季ニ至リ再發芽シ漸次生育ヲ恢復シ開花成熟ヲ遅延ナラシメタルモ豫想ヨリモ著シキ收量ノ増加ヲ見ルニ至レルモノナリトス

大正二年度夏作試験成績

第一、水 稻

耕種ノ梗概左ノ如シ 但シ特殊ノ試験ヲ除ク

一、苗代ノ部

整地 秋期十一月下旬ニ於テ三四寸ノ深サニ耕起シ排水シ置キ春期融雪後四月上旬再耕シ土塊ヲ碎キ稻株ヲ去リ肥料ヲ施シ播種期ニ至リテ澆水シ叮嚀ニ代掻ヲナシ短冊形ニ播代ヲ作レリ、其方法ハ幅四尺長サ適宜ノ短冊形トナシ周圍ニ幅一尺前後ノ溝ヲ設ケ播床面ノ周圍ニハ繩ヲ張り粉止メヲ設ケタリ

肥料 苗代一步ニ付キ人尿一貫六百匁、糞灰百五十匁、強過磷酸石灰二十匁、即チ窒素坪當十匁、磷酸七匁、加里十匁ノ割合ニ施セリ、

撰種 種 粳ハ比重一、二三糯ハ一、〇八ノ鹽水ニテ撰種シ清水ニテ洗滌セリ

浸種 種 糞俵ニ入レ五日間清水ニ浸漬シ時々俵ヲ反轉シ其後兩三日間ハ水ヨリ引キ上ケ夜間ハ水中ニ浸シ發芽ノ兆アルニ至リ水ヨリ引キ上ケ一夜间水ヲ切り後チ播種セリ

播種量 苗代一步ニツキ浸水前ノ粒四合ノ割合ニテ四月二十日ニ播種セリ

管理 播種後二三日間ハ一寸位ノ淺水トナシ其後温暖ナル日中ニハ時々數時間（午前十時頃ヨリ午後三時頃迄）ヅ、排水シ夜間及雨天ノ日ニハ稍深ク水ヲ注キ苗ノ一寸以上ニ成長シタル際ニハ二三回夜間排水シ其後ハ常ニ一寸前後ノ水ヲ湛ヘ三日乃至四日毎ニ水ヲ排シ田面ヲ乾シ以テ苗ノ強剛ニ生育センコトヲ期シ五月二十四日ニ至リ粉止メヲ除去シ溝ノ泥土ヲ浚ヒ且ツ常ニ病虫害ノ防除ニ努メタリ

二、本田ノ部

整地 春期融雪後四月上旬五六寸ノ深ナニ耕起シ排水シ乾燥セシメ五月上旬ニ至リ再耕シテ土塊ヲ碎キ土地ヲ平坦ニシ植付數日前ニ至リ水ヲ注キ肥料ヲ施シ精細ニ代掻ヲナシ移植ノ準備ヲナセリ

肥料 反當用量左ノ如シ

肥料名	總量		追肥	價格	所含三要素量	
	元肥	追肥			窒素	磷酸
大豆粕	二八,〇〇〇	一八,〇〇〇	一〇,〇〇〇	六,五二四	一,八二六	〇,二二四
強過磷酸石灰	三,七五〇	一,五〇〇	二,二五〇	〇,五二四	—	〇,七九
葉灰	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	—	〇,七〇〇	—	〇,四〇〇
計				七,七三八	一,八二六	一,三九三
						〇,九〇〇
						一,四三九

施肥期 元肥ハ代掻前ニ追肥ハ二番除草ノ際ニ施セリ

移植期 五月三十一日乃至六月三日

株數及本數 一坪ノ株數及ヒ一株ノ本數左ノ如シ

早稻 四十八株 八本植 中稻 四十二株 六本植 晚稻 三十六株 五本植

除草 早、中、晚ヲ通シ四回トシ移植後約十五日目毎ニ之ヲ行ヒ手取リセリ

灌溉、排水 移植後一番除草マテハ一二寸ノ水ヲ澆キ其後ハ每除草ノ際及ヒ其中間ニ一回ヅ、排水シテ一兩日間田面ヲ乾シ出穂期ニハ常ニ澆水シ穂揃謝花後ハ全ク排水シテ田面ノ乾燥ヲ計レリ

病虫害防除 移植後ハ常ニ注意シテ螟卵ノ採集及ヒ被害ノ摘採並ニ浮塵子ノ驅除ヲナセリ

備考 生育期中八月廿七八日ノ洪水ニテ四尺乃至六尺ノ深サニ浸水スルコト四十時間乃至五十時ニ及ヒ當時出穂開花中ナリシ中稻石白種ハ被害最モ甚クシタ、其後モ氣温低ク所謂冷氣早來ノ害ヲ蒙レリ(詳細ハ豊凶考照試驗參照)

一、種類試驗 其一 (繼續)

本試驗ハ從來本場ニ於テ試驗ノ結果成績佳良ト認メタル種類中ヨリ最モ優良ニシテ本縣下ニ必適ノ種類ト確定シタルモノ九種(高田早稻、早坊主、越中坊主、石白、毛石白、霧出錦、美濃坊主、六助坊主、福山)ヲ撰拔シテ採用用件ニ移シ殘餘ノ種類ニツキ更ニ試驗ヲ繼續シ詳細ニ其優劣ヲ比較シ當地方ニ必適スル良種ヲ確定セントスルニアリ

作付歩數、移植期 各區十五歩トシ五月三十一日ニ移植セリ

供試品種並ニ生育狀況、(其一)

區名	種類名(早、中、晚)	移植當時苗狀況			移植日	土用入ノ狀況				
		苗丈	生育	葉色		草丈	一株本數	葉色	生育	螟虫被害多少
一	保村(早)	〇,七〇	良	綠	不整	二,一〇	二,〇	稍々濃	否	少
二	冷水稻(全)	〇,七〇	全	全	不良	二,三	一八,〇	全	整	中
三	早生一本(全)	〇,五七	全	稍々濃	稍々不良	一,三	三五,五	綠	全	少
四	豐後(全)	〇,五五	全	綠	不良	一,七	二六,五	全	稍々否	全
五	波潛(全)	〇,六	稍々否	全	稍々否	一,五	二四,〇	全	整	中
六	龜ノ尾(全)	〇,五五	良	全	否	二,三	二二,五	全	全	少
七	巾着坊主(中)	〇,五五	全	稍々濃	良	一,七	三七,〇	濃	全	全
八	次郎左工門(全)	〇,六〇	全	綠	稍々否	二,〇	三三,〇	綠	全	全
九	小見川(全)	〇,六三	全	全	良	二,一	三三,〇	全	全	全
一〇	常陸錦(全)	〇,七	否	全	全	一,八	二三,〇	濃	全	全
一一	都賀錦(全)	〇,七二	良	全	稍々不良	一,九	二〇,五	綠	全	全

區名	種類名	収量		歩合	摺屑	重量	糞重量	葉重量	平均	年取量	品質
		米	一升重量								
六	龜着坊主	八、八	二、八〇	全	一〇、六	三、〇〇	一七、五	〇、六五	弱		葉卷虫葉切病
七	次郎左工	九、二	二、五五	整	一〇、四	三、〇〇	三、〇〇	〇、七〇	全		葉切病ヤ、ア
八	小見川	八、三	三、二〇	全	一〇、七	三、一〇	二〇、五	〇、七〇	強		葉卷虫、浸水
九	常陸	九、七	三、〇〇	全	一〇、六	三、〇五	一九、五	〇、六三	強		葉切ヤ、ア
一〇	都賀	九、八	二、六〇	全	一〇、三	三、〇五	一七、〇	〇、六八	全		浸水、冷氣害
一一	赤登半	八、三〇	三、五五	全	一〇、三	三、五〇	二二、〇	〇、七五	弱		多クア、浸水害
一二	能登半	九、五	三、二〇	全	一〇、六	三、一〇	一八、〇	〇、七〇	全		葉卷虫ヤ、ア
一三	白能	九、六	三、三五	全	一〇、五	三、四〇	一七、五	〇、六五	強		浸水害多冷氣害
一四	郡	九、八	三、二五	全	一〇、三	三、一〇	二〇、五	〇、六六	全		浸水害多冷氣害
一五	白	九、四	三、二〇	全	一〇、三	三、一〇	二〇、五	〇、六六	全		浸水害多冷氣害
一六	關	九、五	二、九〇	全	一〇、三	三、一〇	二〇、五	〇、六六	全		浸水害多冷氣害
一七	關	九、四	二、九〇	全	一〇、三	三、一〇	二〇、五	〇、六六	全		浸水害多冷氣害
一八	京	九、三	三、四〇	全	一〇、三	三、一〇	二〇、五	〇、六六	全		浸水害多冷氣害
一九	京	九、四	三、四〇	全	一〇、三	三、一〇	二〇、五	〇、六六	全		浸水害多冷氣害
二〇	山	九、九	二、七〇	全	一〇、三	三、一〇	二〇、五	〇、六六	全		浸水害多冷氣害
二一	山	八、二	三、二〇	否	一〇、七	三、三〇	一九、五	〇、七〇	弱		葉切病ヤ、ア
二二	御前	九、一	三、三五	稍々	一〇、六	三、三五	一八、〇	〇、七〇	弱		葉切病ヤ、ア
二三	要	九、二	三、四〇	整	一〇、二	三、五〇	二四、〇	〇、六三	全		冷氣害多

三十五

區名	種類名	出穂期	出穂期状況		收穫期	收穫當時ノ状況		備考
			稈丈	本一數株		稈丈	本一數株	
一	保村	八、九日	三、一九	一五、〇	九、八日	二、六〇	一五、〇	點々ケラ害ア
二	冷水	八、七日	三、一〇	一四、〇	九、八日	三、一五	一四、〇	全
三	早生	八、八日	二、〇〇	二五、〇	九、三日	二、一〇	二六、〇	全
四	豐後	八、二〇	二、六五	一七、五	一〇、五日	三、〇〇	一八、五	浸水害稍多シ
五	波	八、二五	二、二五	二二、五	一〇、六日	二、二五	二二、〇	葉切最多浸水害多

生育狀況(其二)

一	赤	〇、八〇	全	稍々濃	不良	二、二五	二七、〇	全	全
二	能登半	〇、七〇	稍々否	濃	良	一、九二	二四、五	稍々濃	全
三	白	〇、六二	全	綠	全	二、三	一九、五	全	全
四	郡	〇、六二	全	綠	全	二、三	一九、五	全	全
五	益(晚)	〇、五三	全	全	稍々否	一、九五	二四、五	全	全
六	ビツタリ(全)	〇、五三	全	稍々濃	全	一、九〇	二三、〇	全	全
七	關	〇、五三	全	綠	全	一、七五	二四、五	全	全
八	川	〇、五三	全	全	全	一、七五	二四、五	全	全
九	京	〇、五三	全	全	全	二、〇〇	二四、五	全	全
一〇	山	〇、五三	稍々否	全	良	一、七五	二五、〇	全	全
一一	山	〇、五三	否	全	稍々否	二、一〇	二四、〇	全	全
一二	御前	〇、五三	良	濃	全	二、二〇	二四、〇	全	全
一三	要	〇、五三	全	綠	不良	二、二〇	二七、〇	全	全

三十四

二二	御前	二、〇九九	三六〇	二六四	五、八	一、二六七	〇、五〇〇	一五七、四二〇	(二三)	二、四五〇	全
二三	要	一、五〇〇	三五三	二七五	六、一	一、三〇八	一、七五〇	二二八、八二〇	(一一)	二、四九二	上
一	保村	二、二三三	三五五	二六九	五、八	〇、六四〇	二、〇〇〇	二六、三六〇	(一五)	二、二五二	中
二	冷水	二、一四七	三五〇	二六六	五、六	一、三四二	四、〇〇〇	一〇三、五六〇	(一五)	二、四七二	全
三	早生	二、五五六	三六〇	二七四	五、九	一、五〇四	三、二五〇	一九三、三八〇	(一〇)	二、四九九	全
四	豐後	二、五六六	三六三	二八六	六、三	一、三四四	二、二五〇	一三四、三三〇	(七)	二、七二九	全
五	波尾	一、八七六	三六五	二八三	六、三	〇、八九四	三、二五〇	一四八、七六〇	(三)	二、五二四	全
六	龜着	二、五五三	三六三	二七〇	五、九	二、一六三	九、六〇〇	一三八、八三〇	(七)	二、六七六	中
七	巾着	二、五二〇	三六〇	二八五	六、二	一、四九四	三、〇〇〇	一八四、八二〇	(七)	二、八二八	中
八	次郎	二、二五四	三五三	二八五	六、〇	一、九七二	三、〇〇〇	二三四、七六〇	(一〇)	二、七五八	全
九	小見	二、八七三	三六〇	二八五	六、四	一、四九九	四、七五〇	一五一、三七〇	(七)	二、八五九	全
〇	常陸	二、六五七	三六〇	二六一	五、八	一、三七五	一、八五〇	一八四、七七〇	(七)	二、五六三	優
一	都賀	二、一七九	三六〇	二七八	六、二	一、三八八	一、〇〇〇	一九六、五五〇	(七)	二、四九九	上
二	赤登	二、五二五	三六〇	二七五	六、一	一、八五五	六、二五〇	二二一、二八〇	(六)	二、七六二	上
三	能半	二、八七七	三六〇	二八四	六、二	一、〇四四	二、二五〇	一九一、四五〇	(六)	二、八〇二	中
四	白登	二、五九二	三六三	二六五	五、八	一、七八八	二、七五〇	一八一、八六〇	(六)	二、六六九	全
五	郡益	一、七六一	三六三	二七八	六、二	一、一四九	〇、七五〇	一七〇、四七〇	(一〇)	二、六三一	上
六	關ツ	二、七七八	三六〇	二八〇	六、三	一、四二二	三、二五〇	一七八、一七〇	(七)	二、七六三	上
七	關ッ	二、二五一	三六二	二八五	六、三	一、一六二	二、二五〇	二二六、四六〇	(二七)	二、六九五	中
八	京大	二、九四四	三六〇	二八九	六、五	二、一七七	二、五〇〇	一八一、二八〇	(二七)	二、八九六	中
九	京大	二、七〇六	三六〇	二七〇	六、〇	一、八〇四	二、二五〇	一八一、八二〇	(一七)	二、八七〇	中
一〇	山崎	二、〇四九	三六八	二八九	六、四	〇、八八一	〇、七五〇	一九〇、八八〇	(一四)	二、八一九	中
二一	山崎	二、三九七	三五五	二四三	五、二	一、七八八	五、〇〇〇	一五四、五〇〇	(六)	二、三三四	全

二、種類試験其二(繼續)

本試験ハ各地ニ於テ收穫多量品質善良ノ稱アル種類並ニ本場ニ於テ改良シタル品種ヲ集メ其ノ適否優劣ヲ比較研究セントスルニアリ
 作付歩數 各區六歩
 供試品種並ニ生育狀況(其一)左ノ如シ

一	和十郎(早)	富山縣	〇、六〇	綠	良	全	二、二五	二六、五	綠		
二	相馬坊主(全)	青森縣	〇、四〇	全	不良	全	二、六三	二三、五	稍々濃		
三	改良高田早生(全)	本場	〇、五稍々綠	全	良	全	二、一五	三三、〇	稍々淡		
四	改良早生竹成(全)	全	〇、六濃	全	全	二、二五	二九、〇	全	綠		
五	改良早生一本(全)	全	〇、五全	全	全	一、八一	三三、五	全	全		
六	改良蒲原坊主(全)	全	〇、六綠	全	稍不良	二、三〇	三三、五	全	全		
七	赤紅屋(中)	佐賀縣	〇、六稍々濃	不良	全	一、九二	二九、五	全	全		
八	名取坊主(全)	福島縣	〇、五綠	稍不良	全	二、〇三	二三、五	全	全		
九	細川(全)	下新川郡	〇、五濃	良	全	二、一〇	二六、五	濃			
一〇	美濃撰(全)	静岡縣	〇、六綠	全	全	二、二五	二六、〇	綠			
一一	常豐(全)	茨城縣	〇、五稍々濃	全	全	一、七二	二八、五	濃			

區名	種類名	出穂期	出穂期狀況	收穫期	收穫當時ノ狀況	備考	
一二	敷島(全)	山形縣	〇、五 綠	全	一、八三	二、五 全	葉卷虫被害、アリ
一三	紅屋(全)	佐賀縣	〇、五 綠	全	一、七〇	二、五 稍々濃	蝗害アリ
一四	滿藏(全)	北蒲原郡	〇、六 綠	全	二、二八	二、五〇 淡	
一五	岩本(全)	全	〇、六 濃	全	一、九五	三、五 綠	
一六	無芒愛國(全)	畿内支場	〇、五 綠	稍不良	二、〇八	三、五 全	
一七	愛國變種(全)	南蒲原郡	〇、五 全	不良	一、七七	三、〇 稍々濃	
一八	太稗石白(全)	東蒲原郡	〇、六 濃	良	一、七三	二、九〇 綠	
一九	改良福山(全)	本場	〇、五 稍々濃	稍不良	二、一〇	二、八〇 全	
二〇	改良大粒石白(全)	全	〇、五 全	良	二、八三	三、五〇 全	
二一	改良小粒石白(全)	全	〇、七 濃	全	一、九五	二、八〇 全	
二二	改良密次郎左工門(全)	全	〇、四 綠	不良	一、九五	三、〇 全	
二三	白玉(全)	古志郡	〇、六 稍々濃	稍々良	一、八八	三、〇 全	
二四	穀良都(晚)	長崎縣	〇、三 濃	良	二、〇〇	二、六、五 全	
二五	高津(全)	全	〇、六 稍々濃	稍不良	二、一五	二、四、五 全	
二六	水忍(全)	本縣	〇、三 綠	全	二、〇〇	三、〇 全	
二七	八重穗(全)	茨城縣	〇、三 濃	全	一、九〇	四、〇 全	
二八	改良石白(全)	東蒲原郡	〇、五 稍々濃	良	一、八八	四、〇 全	
二九	明殿(全)	大野郡	〇、六 綠	稍不良	二、二〇	三、〇 全	
三〇	玉錦(全)	茨城縣	〇、五 全	全	一、八七	三、〇 全	
三一	改良美濃坊主(全)	本場	〇、四 濃	良	二、一〇	三、七、五 全	
三二	改良美濃一丁(全)	全	〇、七 全	稍不良	二、一〇	三、四、五 全	

生育狀況 (其二)

區名	種類名	出穂期	出穂期狀況	收穫期	收穫當時ノ狀況	備考	
三三	改良竹成(全)	全	〇、六 綠	全	一、九〇	二、七、五 全	
三四	改良大粒關取(全)	全	〇、六 全	良	二、〇五	二、四、五 全	
三五	改良關取撰(密)(全)	全	〇、四 濃	稍不良	二、一七	二、五、五 全	
三六	改良關取撰(大)(全)	全	〇、四 綠	全	二、四四	三、〇 全	
三七	愛國	茨城縣	〇、五 濃	不良	一、五二	二、九、五 濃	
三八	愛國	埼玉縣	〇、五 全	全	一、四八	二、五 稍々濃	
三九	愛國	本場	〇、六 綠	全	一、六八	二、六、〇 濃	
四〇	小田珍	中蒲原郡	〇、七 稍々淡	全	一、八七	三、〇 綠	
四一	水野	東蒲原郡	〇、七 全	全	一、九五	二、七、五 全	
四二	早稻大	古本志	〇、七 全	全	一、九二	二、八、〇 全	移植當時ノ調査ナク
一	和馬坊主	八、二〇	三、〇五 稍濃	九、三〇	三、二五	〇、七〇	中
二	相馬坊主	八、一五	三、二〇 綠	九、三三	三、三〇	〇、七六	稍弱
三	改良高田早生	八、一七	二、七〇 全	九、三〇	二、九〇	〇、六三	全
四	改良早生竹成	八、二〇	三、一〇 稍濃	九、三三	三、〇五	〇、七	稍弱
五	改良早生一本	八、一九	二、五〇 全	九、三〇	二、四五	〇、六〇	全
六	改良蒲原坊主	八、二二	二、七〇 濃	一〇、一〇	三、三五	〇、六五	強
七	赤紅屋	九、三	二、六〇 稍濃	一〇、二七	二、八〇	〇、六三	弱

暴風ノメメ全部倒伏
浸水甚シ

區名	種類名	収量		歩合	屑量	糶重量	藁重量	累年平均収量	品質
		一升重量	一斗重量						
一	和十郎	二、九九七	三五八	五、八	一、八〇九	二、二五〇	一五八、三四〇	(五)	二、七四
二	相馬坊主	一、七九七	三五〇	五、〇	一、八八六	一、二五〇	一三三、〇八〇	(四)	二、二六一
三	改良高田早稻	二、七八五	三五八	六、〇	二、五五三	〇、九五〇	一六一、二四〇	(三)	二、七三五

收穫ノ成績左ノ如シ											
二九	明殿	九、三	二、五五	二五、〇	二、四	二、五〇	二八、五	〇、五八	全	全	冷害甚出穂不十分
三〇	玉錦	九、三	二、五五	二五、〇	二、四	二、五〇	二八、五	〇、五八	全	全	
三一	改良美濃坊主	九、七	二、四三	二九、二	一〇、三〇	二、六五	二七、五	〇、五五	全	中	
三二	改良美濃一(丁)	九、三	二、九〇	二五、五	一〇、三〇	二、九五	二七、五	〇、七〇	全	全	
三三	改良竹成	九、一六	二、六五	二五、五	一一、四	二、六五	二七、五	〇、七〇	全	全	冷害甚
三四	改良大粒關取	九、二	二、九〇	二〇、〇	一〇、三〇	二、九〇	一九、五	〇、七〇	全	中	冷害甚
三五	改良關取撰成	八、二六	二、八五	二二、五	一〇、三〇	三、一〇	二〇、五	〇、六二	全	全	
三六	改良關取撰成	九、三	三、四五	一五、五	一〇、三〇	三、五〇	一五、五	〇、八〇	全	全	
三七	愛國	九、七	二、五五	二四、〇	一〇、三〇	二、六〇	二四、五	〇、六三	全	全	
三八	愛國	九、八	二、四五	二〇、〇	一〇、三〇	二、四五	二四、五	〇、六三	全	全	
三九	愛國	八、八	二、六〇	二〇、〇	一〇、三〇	二、七〇	二四、五	〇、六三	全	全	
四〇	小田珍	八、七	二、一〇	二四、〇	九、七	二、四五	二四、五	〇、五五	全	全	
四一	水野	八、二五	二、九〇	二二、五	一〇、九	二、九五	二二、五	〇、六五	全	全	
四二	早稻大黒	八、二四	三、〇五	二三、五	一〇、九	三、一〇	二三、五	〇、七五	全	全	

八	名取坊主	八、一七	三、〇〇	二、五	一〇、一五	三、〇五	二三、〇	〇、六〇	全	全	葉巻虫害多シ
九	細川	八、二六	三、一〇	二、五	一〇、二六	三、一五	一八、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ
一〇	美濃	八、三〇	三、二〇	二、〇	一〇、二八	三、二五	一九、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ
一一	常豊	八、三〇	二、七五	二、〇	一〇、二九	二、八〇	二四、五	〇、六五	全	全	葉巻虫害多シ
一二	敷島	八、三〇	二、七五	二、〇	一〇、二九	二、八〇	二四、五	〇、六五	全	全	葉巻虫害多シ
一三	白屋	九、三	二、五〇	二、〇	一〇、二八	二、九五	二四、五	〇、六五	全	全	葉巻虫害多シ
一四	満蔵	八、八	三、〇〇	二、〇	一〇、三〇	三、三五	一九、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ
一五	岩本	八、二〇	二、六五	二、五	一〇、三〇	二、五〇	二四、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ
一六	無芒愛	八、一五	二、五〇	二、五	一〇、三〇	二、五〇	二四、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ
一七	愛國變種	八、一六	二、五〇	二、五	一〇、三〇	二、五〇	二四、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ
一八	太石	八、一六	二、五〇	二、五	一〇、三〇	二、五〇	二四、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ
一九	改良福山	八、一六	二、五〇	二、五	一〇、三〇	二、五〇	二四、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ
二〇	改良大粒石白	八、一七	二、七五	二、五	一〇、二八	二、六〇	二四、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ
二一	改良小粒石白	八、一七	二、七五	二、五	一〇、二八	二、六〇	二四、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ
二二	改良次郎左工門	八、一七	二、七五	二、五	一〇、二八	二、六〇	二四、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ
二三	白玉	八、一七	二、七五	二、五	一〇、二八	二、六〇	二四、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ
二四	穀津	八、一七	二、七五	二、五	一〇、二八	二、六〇	二四、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ
二五	高津	九、一六	三、〇五	一、八	一〇、二九	三、二〇	一九、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ
二六	水忍	九、一五	二、九〇	二、五	一〇、二九	三、二〇	一九、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ
二七	八重	九、一六	二、八〇	二、五	一〇、二九	三、二〇	一九、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ
二八	改良石白	八、一六	二、六五	二、五	一〇、二八	二、七〇	二四、五	〇、七〇	全	全	葉巻虫害多シ

二四	穀	良	都	二、三〇九	三六三	二七八	六、一	一、一三六	三、二五〇	一八五、二〇〇	(五)	二、六八二
二三	白	密	成	二、二六五	三五八	二七五	六、一	一、二〇七	二、〇〇〇	一八六、三四〇	(二)	二、四八三
二二	改	良	小	二、三三四	三六〇	二七五	六、二	〇、五六五	三、〇〇〇	一〇三、一三〇	(二)	二、五三二
二一	改	良	大	二、三三四	三六〇	二七五	六、二	〇、七一一	一、〇〇〇	一七四、七七〇	(二)	二、六二五
二〇	改	良	大	一、九五九	三六三	二七八	六、二	〇、七一一	一、〇〇〇	一七四、七七〇	(二)	二、九五〇
一九	太	稗	石	三、〇六四	三六五	二七八	六、〇	七、五六九	四、二五〇	一六五、四三〇	(二)	二、九五〇
一八	愛	國	變	二、〇〇四	三五五	二八〇	六、二	〇、八八〇	三、〇〇〇	一九六、三三〇	(二)	二、九五〇
一七	無	芒	愛	二、八三二	三六〇	二九〇	五、七	〇、九八〇	一、七五〇	一四九、三四〇	(二)	二、五三三
一六	岩	本	藏	二、八九七	三六〇	二七〇	五、八	二、六〇六	六、七五〇	一五四、七六〇	(二)	二、六二一
一五	滿	屋	島	二、九〇七	三六〇	二七〇	五、八	一、五〇三	三、二五〇	一四七、一四〇	(二)	二、八五八
一四	白	紅	豐	二、六四五	三五八	二八〇	六、二	一、〇六七	七、七五〇	一五五、三〇〇	(二)	二、六〇三
一三	敷	島	豐	二、三八七	三六八	二七一	六、〇	一、五九二	四、七五〇	一八五、二七〇	(二)	二、六一五
一二	常	撰	撰	二、八九七	三七〇	二七〇	五、九	〇、九八二	二、五〇〇	一三三、八三〇	(三)	二、七三三
一一	美	濃	撰	二、四八〇	三七〇	二七四	六、一	〇、九四五	三、七五〇	一六一、二九〇	(三)	二、五七八
一〇	九	名	取	二、六二二	三七〇	二六六	五、八	二、〇〇四	四、五〇〇	二一五、七四〇	(五)	二、七三五
九	八	名	取	二、五五九	三六〇	二六八	六、一	〇、九四四	六、五〇〇	一六五、七二〇	(五)	二、七三七
八	七	赤	紅	二、三八八	三六〇	二六八	五、七	二、七三三	七、〇〇〇	一四一、九四〇	(五)	二、六七六
七	六	改	良	二、二七六	三六〇	二六八	五、九	〇、五六九	三、七五〇	一七四、〇五〇	(五)	二、七三二
六	五	改	良	二、九六一	三五三	二八四	六、三	二、一五	九、〇〇〇	一七九、三二〇	(五)	二、七三二
五	四	改	良	三、〇二二	三五八	二六〇	五、六	二、六九七	〇、四五〇	一五九、〇〇〇	(五)	二、六九一
四	三	改	良	二、九八	三六〇	二七九	六、一	一、六八〇	〇、四〇〇	一五八、三五〇	(五)	二、六九一

二五	高	津	二、三四五	三五八	二七八	六、二	一、六〇六	四、〇〇〇	二二二、五二〇	(五)	二、六九一
二六	水	忍	二、四七七	三六八	二八一	六、二	〇、八九九	一、二五〇	二〇八、五三〇	(六)	二、六七六
二七	八	重	一、三五三	三六〇	二八八	六、三	〇、五三六	〇、一五〇	二四四、二二〇	(五)	二、五〇一
二八	改	良	二、三七六	三六〇	二八一	六、三	〇、七五五	〇、五〇〇	一九四、七二〇	(五)	二、四八二
二九	明	殿	一、一三九	三五五	二七五	六、三	〇、六三三	〇、七五〇	二四四、五〇〇	(五)	二、四八二
三〇	玉	錦	二、四九六	三六五	二八四	六、四	一、二六七	二、五〇〇	一九八、〇六〇	(二)	二、六六二
三一	改	良	二、六四四	三六八	二八一	六、三	一、三六四	三、〇〇〇	一九一、七二〇	(二)	二、七八三
三二	改	良	二、三八二	三六〇	二九二	六、五	〇、七三三	一、五〇〇	二八八、三七〇	(三)	二、一〇九
三三	改	良	一、〇六六	三七〇	二九三	六、四	〇、一六六	〇、七五〇	二八八、三七〇	(三)	二、一〇九
三四	改	良	二、五四九	三六〇	二七八	六、二	一、〇二七	三、二五〇	一七三、三二〇	(三)	二、一〇九
三五	改	良	二、四三〇	三七〇	二七三	六、〇	一、九二四	二、七五〇	二二〇、二〇〇	(三)	二、一〇九
三六	改	良	二、三二〇	三六五	二六〇	六、一	一、一三六	四、〇〇〇	二〇三、九九〇	(三)	二、一〇九
三七	愛	國	一、四三一	三七三	二七〇	五、八	〇、六七〇	一、七五〇	一一〇、二〇〇	(三)	二、一〇九
三八	愛	國	一、八七九	三七〇	二九五	六、〇	一、四一六	一、二五〇	一三五、二〇〇	(三)	二、一〇九
三九	愛	國	二、三九四	三六八	二八一	六、四	一、五〇〇	一、五〇〇	一五八、七二〇	(三)	二、一〇九
四〇	小	田	二、三九六	三五五	二七〇	五、八	一、二三九	二、七五〇	九九、七六〇	(三)	二、一〇九
四一	水	野	二、六三〇	三六八	二九一	六、三	一、〇四〇	三、五〇〇	一五一、二五〇	(三)	二、一〇九
四二	早	稻	二、七二六	三六〇	二八八	六、三	一、六一六	四、二五〇	一六〇、一六〇	(三)	二、一〇九

備考 本年ハ水害ノ爲メ品質ニ稍々不良ノ點アリシモノモアリタレド尙累年ノ成績ニ鑑ミ多少ノ酌
酌ヲナシテ等級ヲ附シタリ

三、湛水地對種類試驗 (繼續)

本試驗ハ各地ニ於テ湛水地ニ恰適スト稱セラレツ、アル種類ヲ集メ其優劣ヲ比較シ湛水地ニ適スル良種類ヲ撰定セントスルニアリ、但シ試驗地ハ塲内特設ノ湛水田ヲ以テシ常ニ七八寸乃至一尺ノ深サニ水ヲ湛エタリ

作付歩數 各區六坪 四月二十日播種 六月十八日移植
供試種類並ニ生育狀況(其一)左ノ如シ

區名	種類名(晚、中)	取寄先子	移植當時苗狀況		土用入ノ狀況		備考
			苗丈	葉色	草丈	一株本數	
一	江戸早稻(早)	茨城縣	一、三〇	綠	二、五〇	二、五〇	生育良好
二	上總コボレ(全)	全右	一、五〇	稍淡	二、九〇	二、五〇	生育良好
三	切立(全)	大野井縣	一、七〇	綠	三、二〇	九、〇	全上
四	八東(中)	本野縣	一、三〇	稍淡	二、八〇	九、五	全上
五	美濃撰出(全)	田方縣	一、二〇	綠	二、五〇	九、〇	全上
六	三尺涌谷(全)	宮城縣	一、〇七	稍濃	二、三〇	九、五	全上
七	三尺涌谷(中)	北蒲原郡	一、四〇	濃	三、〇五	七、〇	生育良好

生育狀況(其二)

區名	種類名	出穗期	出穗期狀況		收穫期	收穫當時ノ狀況		備考					
			稈丈	本數		稈長	稈太						
一	江戸早稻	八、二〇	二、八五	一五、〇	濃	一〇、八	三、三五	一五、五	〇、八〇	一	稍弱	稍太	

收穫ノ成績左ノ如シ

區名	種類名	取量	一升重量		歩合	糶重量	屑重量	葉重量	平均收量	品質
			米	糠						
二	上總コボレ	一、七四五	三、五〇	九、五	一〇、二八	三、三五	一〇、〇	〇、八〇	一、六八七	二
三	切立	九、二	四、六五	一一、〇	一〇、一八	四、六五	一一、〇	〇、七五	一、五五四	三
四	八東	九、二	三、五五	一二、五	一〇、三〇	三、九〇	一三、〇	〇、八〇	一、〇二七	四
五	美濃撰出	九、一	二、九〇	八、〇	一〇、二六	三、一五	一三、五	〇、七〇	一、四二五	三
六	三尺涌谷	八、二五	三、〇	一三、〇	一〇、八	四、四〇	七、五	〇、七〇	一、四〇五	四
七	三尺涌谷	八、三〇	四、三五	八、〇	一〇、二九	四、四〇	七、五	〇、七〇	一、四〇五	四

四、豊凶考照試驗 (繼續)

本試驗ハ毎年同一ノ土地ニ於テ同一種類早、中、晚各三種ニツキ本塲普通ノ耕種方法ニヨリ栽培ヲナシ一定ノ期日ニ生育狀況ヲ調査シ以テ其年ノ稻作豊凶ヲ豫想スルト同時ニ監督官廳及ヒ主務省ヘ報告ノ基

礎トナスニアリ、而シテ從來本試験ハ乾田地ニ於テノミ施行セシモ本縣下實際ノ狀況ニ鑑ミ明治四十三年度ヨリ乾田ノ外濕田ニ於テ同一試験ヲ施行シ兩試験ノ狀況ヲ對照シ可成縣下一般ノ狀況ニ近キ豫想ヲナスノ基礎トセリ

作付歩數 乾田ハ各區十二歩、濕田ハ六歩、播種期 四月二十日、移植期 六月一日

供試種類及生育狀況(其一)左ノ如シ

區名	種類名	移植當時苗ノ狀況		移植廿日後狀況		土用入ノ狀況		備考
		苗丈	葉色	草丈	一株本數	草丈	一株本數	
一	高田早稻	〇、六五	綠	一、二五	一〇、五	二、〇〇	三、五	整
二	早坊主	〇、六五	全	一、二〇	一六、五	二、〇三	二、五	全
三	冷水稻	〇、八五	全	一、三〇	一四、三	二、〇五	二、五	全
四	石白	〇、六四	全	一、二五	一七、三	二、二五	三、五	全
五	六助坊主	〇、六四	全	一、三五	一五、〇	二、三五	一、七五	全
六	小見川	〇、七五	全	一、五〇	一五、五	二、三五	二、九〇	全
七	稻川	〇、七五	全	一、二〇	一六、三	二、一〇	二、〇五	全
八	關取	〇、七五	全	一、一〇	一五、五	二、一〇	二、六五	全
九	京大黒	〇、七〇	全	一、一〇	一五、五	二、四〇	二、五	全

生育狀況(其二)

區名	種類名	出穗期	出穗期狀況		收穫期	收穫期狀況		備考
			稈長	本數		稈長	本數	
一	高田早稻	八、一七	二、七〇	二、七〇	九、二九	二、七五	〇、六五	暴風ニテ全部倒伏
二	早坊主	八、一〇	二、六五	二、六五	九、二九	二、五〇	〇、六八	暴風ニテ倒伏
三	冷水稻	八、一〇	二、七〇	二、七〇	九、三〇	三、一〇	〇、七〇	暴風ニテ倒伏
四	石白	八、二七	二、九〇	二、九〇	九、一六	三、一〇	〇、六五	葉卷虫ヤ、アリ、鼠害アリ
五	六助坊主	八、二七	二、九〇	二、九〇	九、一七	三、〇五	〇、六五	葉卷虫ヤ、アリ、鼠害アリ
六	小見川	八、二二	二、九〇	二、九〇	九、一七	三、〇五	〇、六五	葉卷虫ヤ、アリ、鼠害アリ
七	稻川	八、二二	二、九〇	二、九〇	九、一七	三、〇五	〇、六五	葉卷虫ヤ、アリ、鼠害アリ
八	關取	八、二二	二、九〇	二、九〇	九、一七	三、〇五	〇、六五	葉卷虫ヤ、アリ、鼠害アリ
九	京大黒	八、二二	二、九〇	二、九〇	九、一七	三、〇五	〇、六五	葉卷虫ヤ、アリ、鼠害アリ

區名	種類名	収量米	一升重量		歩合摺	糶重量	重屑量	葉重量	收累年	年試驗
			支	米						
一	高田早稻	二,五五五	二,七五	二,六六	五,五	四,六〇九	一三五,三七五	二,七〇四	一七	冷氣早來出穂不十分
二	早坊主	二,七三三	二,八〇	二,六四	五,六	四,六八七	一三六,〇〇〇	二,六五八	一七	上
三	冷水稻	二,六〇三	二,七四	二,六三	六,〇	二,〇一六	一四三,六五五	二,七二七	一七	上
四	石白	二,四三七	二,七〇	二,六三	五,四	五,三〇一	一三五,二五〇	二,七一九	一七	上
五	六助坊主	二,二五〇	二,七九	二,五九	六,二	〇,七四八	一〇八,三七五	二,五三五	一七	上
六	小見川	二,〇二八	二,七〇	二,七四	六,〇	〇,六〇〇	一〇九,一〇〇	二,二二二	一七	上
七	川	一,六九六	二,八〇	二,七四	五,七	〇,七四八	一〇八,三七五	二,五三五	一七	上
八	關取	二,一七〇	二,七〇	二,七〇	六,三	〇,五三八	一六一,二五〇	二,七六三	一七	上
九	京大黒	二,五〇一	二,七〇	二,七〇	六,〇	〇,五三八	一六一,二五〇	二,七六三	一七	上

收穫成績左ノ如シ

八	關取	乾田	九,九	二,七五	二八,〇	全	一,一,三	二,八	〇,六四	冷氣早來出穂不十分
九	京大黒	乾田	九,三	二,六五	二九,〇	全	一,一,二	二,九,〇	〇,六八	上
九	京大黒	濕田	九,三	三,五五	二〇,五	全	一,一,二	二,一〇	〇,七三	冷氣害アリ
九	京大黒	濕田	九,三	三,二〇	二〇,〇	全	一,一,二	二,一〇	〇,七三	上

今本年度稻作豊凶ヲ明カナラシメンカタメ右ノ結果ニ基キ定期報告ヲ抄録シテ参考ニ供ス

(イ) 大暑(七月廿四日)報告

立夏以來大暑前日ニ至ルノ氣候ハ五月上旬ヨリ中旬ニ至ル間温度低ク爲メニ苗ノ伸長ヲ阻害シ其後天候恢復ニヨリ苗ノ生育ヲ恢復シタルモ苗代期ノ大半ハ平年ニ比シ低温ナリシタメ苗ノ生育劣リ插秧當時草丈ニ於テ平均四分内外ヲ減セリ

移植後土用入一週間前マテハ氣温低カリシタメ生着、生育ヲ遅延シタリ、其後著シク氣温高ク日照亦多ク大暑前日ニ至ル間ハ申分ナキ狀態ナリシニヨリ稻ノ生育大ニ恢復シ殊ニ晚稻ノ分蘗ヲ促シタリ、今大暑當日ニ於ケル生育狀況ヲ表示セハ左ノ如シ

種別	年度項目	本年度		前年度		前五ヶ年平均		前年トノ比較		前五ヶ年トノ比較	
		草丈	本一數株	草丈	本一數株	草丈	本一數株	草丈	本一數株	草丈	本一數株
早稻	三種平均	二,三六	二,三四	二,七五	二,五八	二,四六	二,五,六	(一)	(一)	(一)	(一)
中稻	全	二,二三	三〇,〇	二,五六	三〇,二	二,二三	三〇,〇	(一)	(一)	(一)	(一)
晚稻	全	二,三六	三〇,六	二,七七	二九,八	二,二五	二六,四	(一)	(一)	(一)	(一)

(ロ) 二百十日(九月一日)報告

大暑後八月上旬中晴天打テ續キ日照時間多ク氣温亦高ク、加フルニ時々潤雨ヲ得二百十日一週間前迄ハ稻作上申分ナキ天候ニシテ稻禾ノ生育頗ル良好トナリ草丈ニ於テハ早、中、晚ヲ通シ一般ニ短カシト雖モ

分蘖數ニアリテハ中晩稻ニ於テ却ツテ増加ヲ見、出穂期モ早稻ニ於テ遅レタルモ中、晩稻ニアリテハ平年ト大差ナカリキ

然ルニ八月廿七日朝來暴風ニ加フルニ豪雨甚タシク縣下各地ノ諸川爲メニ増水シ場内試験地ノ如キモ翌廿八日朝ノ如キハ四尺以上六尺ノ浸水ヲ見、冠水時間長キハ五十時間以上、短カキモ尙ホ四十時間ニ及ヒタルヲ以テ恰モ出穂開花中ナリシ中稻殊ニ石白ノ如キハ被害甚タシカリキ、今二百十日當時ニ於ケル稻ノ生育狀況ヲ表示セハ左ノ如シ

種類別	年度	本		大正元年		大正元年比較増減		明治四十四年		明治四十四年比較増減	
		草丈	本一	草丈	本一	草丈	本一	草丈	本一	草丈	本一
早稻三種平均	本年	二、九八	一九、一	二、九八	二〇、六	(一)	二、九〇	(一)	二、〇、五	(一)	二、〇、三
	前年	三、〇四	二四、八	二、九三	二二、九	(十)	三、九〇	(一)	二、〇、五	(一)	二、〇、三
	前四ヶ年平均	三、三三	二四、〇	二、九三	二二、九	(十)	三、九〇	(一)	二、〇、五	(一)	二、〇、三
中稻全上	本年	三、三三	二四、〇	三、三三	二二、九	(十)	三、九〇	(一)	二、〇、五	(一)	二、〇、三
	前年	三、三三	二四、〇	三、三三	二二、九	(十)	三、九〇	(一)	二、〇、五	(一)	二、〇、三
	前四ヶ年平均	三、三三	二四、〇	三、三三	二二、九	(十)	三、九〇	(一)	二、〇、五	(一)	二、〇、三
晚稻全上	本年	三、三三	二四、〇	三、三三	二二、九	(十)	三、九〇	(一)	二、〇、五	(一)	二、〇、三
	前年	三、三三	二四、〇	三、三三	二二、九	(十)	三、九〇	(一)	二、〇、五	(一)	二、〇、三
	前四ヶ年平均	三、三三	二四、〇	三、三三	二二、九	(十)	三、九〇	(一)	二、〇、五	(一)	二、〇、三

(ハ) 秋分(九月二十三日)報告

二百十日ノ天候ハ日照多カリシモ氣温著シク低カリシヲ以テ出穂成熟ヲ不整ナラシメタルノミナラス平年ニ比シ一週間餘ヲ遅延セリ、爲メニ晩稻ハ殊ニ稔實ヲ阻害シタリ、然レモ早、中、晩稻共病虫害ノ發生尠ナク、又倒伏スルモノヲ見サリキ、而シテ八月廿七、八日ノ浸水ノ被害ハ當時出穂半ハニアリシ中稻殊ニ石白種ノ被害著シク早稻七分、中稻二割、晩稻一割二分内外ノ減收ヲ豫想セリ、今秋分當日ニ於ケル生育狀況ヲ記セハ左ノ如シ

種類別	年度	本		前		前四ヶ年平均		前年トノ比較増減		前四ヶ年トノ比較増減	
		草丈	本一	草丈	本一	草丈	本一	草丈	本一	草丈	本一
早稻三種平均	本年	二、九八	一九、一	二、九八	二〇、六	(一)	二、九〇	(一)	二、〇、五	(一)	二、〇、三
	前年	三、〇四	二四、八	二、九三	二二、九	(十)	三、九〇	(一)	二、〇、五	(一)	二、〇、三
	前四ヶ年平均	三、三三	二四、〇	三、三三	二二、九	(十)	三、九〇	(一)	二、〇、五	(一)	二、〇、三

(ニ) 大雪(十二月八日)報告

本年度稻作期中ニ於ケル天候ハ各期ノ報告ニ記述セルカ如ク、苗代期ノ大半ハ低温ナリシニヨリ苗ノ生育ヲ阻害シ插秧當時ノ苗丈ハ平年ニ比シ減シ生着期モ氣温低ク生着ヲ遅延セシメ、分蘖期ニ至リテモ温度低ク、分蘖後期ニ至リ天候漸ク恢復シ土用入十日前ヨリ氣温著シク上昇シ日照亦頗ル多ク中、晩稻ノ分蘖ヲ促シ七月末ヨリ八月中旬マテハ氣温稍々低カリシモ晴天多ク時々潤雨ヲ得タメニ稻禾ノ生育ヲ恢復シ各莖ハ強剛トナリ病虫害少ナク平年ノ收量アランヲ豫想セリ、然ルニ八月廿七日ノ暴風雨、浸水ノタメ早、中、晩共被害ヲ受ケ殊ニ當時出穂開花中ナリシ中稻就中石白種ノ被害甚シク、而シテ其後氣温著シク降下シ早稻ハ其成熟進行ヲ阻ケ一升重量ヲ減シタルモ收量ニハ著シキ影響ナク、中、晩稻ハ出穂不整遅延シタリ

秋分以後ハ晴天稍々多カリシモ一般ニ温度低ク中稻ノ結實期、晩稻ノ成熟、結實ヲ不良ナラシメ中、晩稻ノ玄米收量並ニ一升重量ヲ減スルニ至レリ、今實收成績ヲ擧クレハ左ノ如シ

種類別	年度	本		前		平		本年ト平年トノ比較増減	
		草丈	本一	草丈	本一	草丈	本一	草丈	本一
早稻三種平均	本年	二、五、七	三五、五	二、六、五	三五、二	二、五、〇	三五、〇	(一)	二、〇、三
	前年	二、四、四	三三、六	二、七、五	三三、三	二、七、三	三三、九	(一)	〇、三、五
	前四ヶ年平均	二、四、一	三三、一	二、五、八	三三、三	二、六、七	三三、八	(一)	〇、三、五
中稻全上	本年	二、四、四	三三、六	二、七、五	三三、三	二、七、三	三三、九	(一)	〇、三、五
	前年	二、四、一	三三、一	二、五、八	三三、三	二、六、七	三三、八	(一)	〇、三、五
	前四ヶ年平均	二、四、一	三三、一	二、五、八	三三、三	二、六、七	三三、八	(一)	〇、三、五
晚稻全上	本年	二、四、四	三三、六	二、七、五	三三、三	二、七、三	三三、九	(一)	〇、三、五
	前年	二、四、一	三三、一	二、五、八	三三、三	二、六、七	三三、八	(一)	〇、三、五
	前四ヶ年平均	二、四、一	三三、一	二、五、八	三三、三	二、六、七	三三、八	(一)	〇、三、五
總平均	本年	二、四、五	三三、一	二、六、九	三三、四	二、六、七	三三、四	(一)	〇、一、九
	前年	二、四、一	三三、一	二、五、八	三三、三	二、六、七	三三、八	(一)	〇、三、五
	前四ヶ年平均	二、四、一	三三、一	二、五、八	三三、三	二、六、七	三三、八	(一)	〇、三、五

前表ニヨリ之ヲ觀レバ本年度ノ收穫ハ平年作ニ比シ七分三厘弱昨年度ニ比シ七分八厘弱ノ減收ナリトス

五、耕起期試験（繼續）

本試験ハ當地方ノ如ク冬期積雪多キ地方ニアリテハ秋耕春耕ノ何レヲ可トスルヤヲ試ミントスルニアリ
 作付歩數 各區六歩 供試稻種 中稻石白 秋耕ハ十二月七日 春耕ハ四月十二日ニ耕起セリ
 而シテ移植當時ノ苗丈ハ六寸六分ニシテ各區同様ノモノヲ使用セリ
 (其一)試驗區別並ニ生育狀況左ノ如シ

區名	試驗別	移植廿日後生育狀況	土用入ノ狀況	
			草丈	一株本數
一	秋耕無肥料	葉色淡綠ナレト生育不良ナラス	一、六二	三〇、〇
二	全普通肥料	生育良好	一、八五	三九、〇
三	春耕無肥料	葉色濃綠ナレト生育稍不良	一、四五	二七、〇
四	全普通肥料	生育良好第二區トノ優勢顯メラレズ	一、八二	三七、五

生育狀況（其二）

區名	試驗別	出穗期	出穗期狀況		收穫期	收穫當時狀況		備考
			稈丈	本一數株		色澤	整出否	
一	秋耕無肥料	八月二七	二、四〇	二、三五	十月二六	二、四〇	二、四〇	中央部稍倒伏
二	全普通肥料	八月二七	二、九〇	三、一〇	十月二六	三、〇〇	三、一〇	中央部稍倒伏
三	春耕無肥料	八月二七	二、三〇	二、四〇	十月二六	二、三〇	二、三、五	中央部稍倒伏
四	全普通肥料	八月二七	二、八五	三、〇〇	十月二六	二、九〇	二、九、五	中央部倒伏

收穫成績左ノ如シ

六、肥料反應試驗（繼續）

本試験ハ肥料反應ノ稻作ニ及ホス影響ヲ確メントスルニアリ而シテ窒素ハ反當ニ貫目、磷酸及加里各一貫目ノ割合ニ施シ、各區六坪、中稻石白ヲ用ヒ、六月七日移植セリ
 試驗區別並ニ生育狀況（其一）左ノ如シ

區名	試驗別（肥料名）	移植廿日狀況	土用入ノ狀況		生育狀況	螟虫被害	
			草丈	一株本數			
一	弱酸性區 (硫酸安母尼亞)	生育良好	二、一〇	四二、五	稍々濃	生育整否	少
二	強酸性區 (硫酸安母尼亞)	全	一、九七	四一、〇	全	稍々不整葉 卷虫害アリ	全
三	弱鹽基性區 (硫酸安母尼亞)	全	一、八八	三七、五	全	全	全
四	強鹽基性區 (石灰窒素)	全	一、七五	四〇、五	全	全	全

生育狀況（其二）左ノ如シ

區名	試驗別	出穗期	出穗期狀況		收穫期	收穫期狀況		備考
			稈丈	本數株		稈丈	本數株	
一	弱酸性區	八、二九	三、一五	三、五	一〇、二六	三、一〇	三、〇、七三	中央部出來過
二	強酸性區	八、二九	二、九〇	三、〇、五	一〇、二六	二、九〇	〇、七二	各區中生育最良
三	弱鹽基性區	八、二九	二、八〇	二、八〇	一〇、二六	二、七五	〇、七三	
四	強鹽基性區	八、二九	二、六五	二、九、五	一〇、二六	二、七〇	〇、七三	
一	弱酸性區	二、二五	三、六〇	二、八四	六、四	一、一四	三、五〇〇	(1)
二	強酸性區	二、五〇	三、六〇	二、八九	六、五	〇、九六	二、七五〇	
三	弱鹽基性區	二、七六〇	三、六〇	二、七六	六、二	一、九〇六	一、七、七五〇	
四	強鹽基性區	二、二五〇	三、六三	二、七九	六、二	〇、九〇七	一、七、七五〇	

七、種子交換試驗 (繼續)

本試驗ハ種子交換ノ効果ヲ具體的ニ究メントスルニアリテ本縣原種(高田早稻、石白、中生高宮、二二三)ヲ以テ之ニ供試シ各區六坪トセリ

試驗區別並ニ生育狀況(其一)左ノ如シ

區名	試驗別	出穗期	出穗期狀況		收穫期	收穫期狀況		備考
			稈長	本數株		稈丈	本數株	
一	高田早稻本場產	六、三	良	全	一、九二	三、二五	稍整	
二	全上原種田產	六、三	全	全	一、九八	三、五五	全	
三	全上原種田產	六、三	全	全	一、九〇	三、五五	全	
四	石白本場產	六、三	全	全	一、八五	三、六〇	全	
五	全上原種田產	六、三	全	全	一、七〇	四、〇五	稍整	生育他區ヨリ稍劣
六	全上原種田產	六、三	全	全	一、七〇	四、〇五	中	
七	全上原種田產	六、三	全	全	一、七六	二、八五	少	
八	全上原種田產	六、三	全	全	一、九〇	四、五五	全	生育他區ヨリ稍良
九	全上原種田產	六、三	全	全	一、八八	四、〇〇	全	葉卷虫害アリ
〇	高宮本場產	六、三	全	全	二、〇五	三、二五	全	
一	全上原種田產	六、三	全	全	二、〇六	二、八〇	全	
二	全上原種田產	六、三	全	全	二、〇五	二、七〇	全	
三	全上原種田產	六、三	全	全	二、〇五	二、七〇	全	
四	全上原種田產	六、三	全	全	二、〇五	二、七〇	全	
五	二本場產	六、三	稍良	全	二、〇〇	三、三、五	全	生育他區ヨリ優ル 葉切病葉卷虫害アリ
六	全上原種田產	六、三	全	全	一、七五	三、三、五	全	
七	全上原種田產	六、三	全	全	一、七〇	四、三、五	全	
八	全上原種田產	六、三	全	全	一、七〇	四、三、五	全	

生育狀況(其二)

本試験ハ直播ニ適スル種類ヲ撰定センカタメ左記各種類ヲ供用シ、各區六歩、早稻ハ四十八株(當坪)六

八、直播對種類試驗 (繼續)

一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一
全上	全上	全上	二本	全上	全上	全上	全上	高宮	全上	全上	全上	全上	石白	全上	全上	全上	高田早稻
原種	原種	原種	本種	原種	原種	原種	原種	本種	原種	原種	原種	原種	本種	原種	原種	原種	本種
田産	田産	田産	場産	田産	田産	田産	田産	場産	田産	田産	田産	田産	場産	田産	田産	田産	場産
二、四一八	二、三三三	二、三八〇	一、三三八	二、四〇七	二、五九〇	二、四七〇	二、四七八	二、四五一	二、三三七	二、二七〇	二、〇六四	二、三三四	一、九三八	二、五四八	二、五〇六	二、四六二	二、五〇四
三、五八	三、五六	三、五五	三、五一	三、五八	三、五八	三、六〇	三、五八	三、五八	三、六〇	三、六三	三、六〇	三、六三	三、六三	三、五八	三、五五	三、五八	三、六〇
二、六四	二、五五	二、七一	二、六〇	二、八五	二、七四	二、七九	二、七六	二、八一	二、七五	二、七五	二、七八	二、九〇	二、八三	二、八一	二、七六	二、七九	二、七二
五、九	五、七	六、一	五、八	六、四	六、一	六、二	六、二	六、二	六、二	六、一	六、三	六、三	六、一	六、一	六、一	六、二	五、九
一、六三九	一、三三二	二、二四四	一、五五三	一、八八〇	一、六四五	一、四九四	一、四九八	一、八三一	一、二二〇	一、四八八	〇、九九九	〇、九七五	〇、九四四	二、二九九	一、六七〇	二、〇八六	一、四八三
五、〇〇〇	二、二五〇	二、二五〇	〇、六〇〇	三、二五〇	二、四〇〇	五、二五〇	五、二五〇	五、〇〇〇	二、五〇〇	一、二五〇	二、〇〇〇	一、七五〇	三、〇〇〇	七、二五〇	八、七五〇	一、七五〇	七、七五〇
一、五二、八三〇	一、四四、〇〇〇	一、三九、八一〇	一、〇四、一八四	一、三九、三六〇	一、四〇、五五〇	一、四四、一〇〇	一、三九、三九〇	一、四三、六六〇	一、五五、〇九〇	一、六二、一五〇	一、七六、八九〇	一、八四、五三〇	一、七二、七一〇	一、三三、〇〇〇	二、二九、八九〇	一、四三、〇〇〇	一、二六、九〇〇
二、五〇九			二、〇一八	二、五三三	二、二六七			二、五七七	二、四八二	二、四八六			二、一九五		二、四八三		二、五〇六

收穫ノ成績左ノ如シ

區名	試驗別	収量	玄米	一升重量	歩合	重量	屑量	糶重量	平均収量
一八	全上	八、二五	二、六〇	三、三五	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	二、五〇九
一七	全上	八、二五	二、五〇	三、三五	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	
一六	全上	八、二五	二、六〇	三、三五	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	
一五	二本	九、二五	二、六五	三、三七	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	
一四	全上	八、二五	二、五〇	三、三五	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	
一三	全上	八、二五	二、五〇	三、三五	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	
一二	全上	八、二五	二、五〇	三、三五	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	
一一	全上	八、二五	二、五〇	三、三五	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	
一〇	高宮	八、二五	二、五〇	三、三五	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	
九	全上	八、二五	二、五〇	三、三五	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	
八	全上	八、二五	二、五〇	三、三五	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	
七	全上	八、二五	二、五〇	三、三五	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	
六	全上	八、二五	二、五〇	三、三五	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	
五	石白	九、二五	二、六五	三、三七	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	
四	全上	八、二五	二、五〇	三、三五	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	
三	全上	八、二五	二、五〇	三、三五	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	
二	全上	八、二五	二、五〇	三、三五	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	
一	高田早稻	八、二五	二、五〇	三、三五	整	一〇、一〇	二、六五	七、七五	

粒、中稻ハ四十二株五粒、晚稻ハ三十六坪四粒、四月廿三日ニ直播セリ
供試稻種及ビ生育狀況(其一)左ノ如シ

區名	種類名	六月五日狀況		六月廿五日狀況		土用入ノ狀況		備考
		草丈	葉色	生育	葉色	生育	生育	
一	高田早稻(早)	〇、五	稍々淡	良	生育稍不整	一、六	三、〇	肥不足
二	早坊主(全)	〇、六	綠	全	生育良好	二、〇	二、四、五	葉卷虫害アリ
三	中生高宮(中)	〇、六	全	不良	生育稍不整	二、〇	二、九、〇	
四	二本三(全)	〇、六	全	良	生育良好	一、八、〇	四、〇	
五	美濃坊主(晚)	〇、六	全	稍不良	生育良好	一、八、〇	四、〇	
六	福山(全)	〇、六	全	全	生育良好	二、二、五	三、五	
七	神力(全)	〇、六	全	全	生育良好	一、七、六	五、〇	
八	晚白(全)	〇、六	全	全	生育良好	一、七、〇	四、〇	
九	須賀一本(全)	〇、六	全	全	生育良好	二、〇、二	四、五	分蘖頗ル多シ

生育狀況(其二)

區名	種類名	出穂期	出穂期狀況		收穫期	收穫期ノ狀況		備考
			出穂期	出穂期		收穫期	收穫期	
一	高田早稻	八、二	本一	綠	九、二	本一	二、五、〇	
二	早坊主	八、二	本一	綠	九、二	本一	二、五、〇	
三	中生高宮	八、二	本一	綠	九、二	本一	二、五、〇	
四	二本三	八、二	本一	綠	九、二	本一	二、五、〇	
五	美濃坊主	八、二	本一	綠	九、二	本一	二、五、〇	
六	福山	八、二	本一	綠	九、二	本一	二、五、〇	
七	神力	八、二	本一	綠	九、二	本一	二、五、〇	
八	晚白	八、二	本一	綠	九、二	本一	二、五、〇	
九	須賀一本	八、二	本一	綠	九、二	本一	二、五、〇	

收穫成績左ノ如シ

區名	種類名	收量	一升重量		歩合	摺屑重量	糶重量	藁重量	平均收量
			米	糠					
一	高田早稻	二、二九四	三五〇	二七三	五、九	三、二	八、〇〇〇	一一三、〇〇〇	二、六四五
二	早坊主	二、三六六	三三三	二七三	六、一	一、二六六	二、〇〇〇	一一三、〇〇〇	二、三六五
三	中生高宮	二、四六九	三三三	二七三	六、一	一、二六六	二、〇〇〇	一一三、〇〇〇	二、四二三
四	二本三	二、五五	三五八	二八九	六、四	一、〇六一	二、七五〇	一一三、〇〇〇	二、六〇五
五	美濃坊主	二、五〇九	三五五	二八五	五、九	一、二二五	一、七五〇	一一三、〇〇〇	二、八三四
六	福山	二、七九〇	三六八	二八五	六、四	〇、八七二	一、五〇〇	一一三、〇〇〇	二、八七八

九、追肥期試験(繼續)

本試験ハ追肥施用ノ時期ト稻ノ生育並ニ收量ニ及ボス影響ヲ知ラントスルニアリテ、各區六歩トツ中稻石白ヲ以テ試験ニ供セリ、而シテ追肥ハ大豆粕拾貫目、強過磷酸石灰二貫二百五十匁ヲ左記時期ニ施シ元肥トシテ大豆粕十八貫目、糞灰二十貫目ヲ施用セリ
試験區別及ビ生育狀況(其一)左ノ如シ

區名	試驗別	出穂期	出穂期狀況		收穫期	收穫期狀況		備考
			稈丈	本一畝株數		稈丈	本一畝株數	
一	七月一日追肥	八、二七	二、七〇	二八、五	稍濃	稍不良	二、七〇	中央部稍倒伏
二	七月十日追肥	八、二七	二、七〇	二七、五	全	全	二、七〇	
三	八月一日追肥	八、二七	二、七〇	二七、五	全	全	二、七〇	
四	八月一日追肥	八、二七	二、七〇	二七、五	全	全	二、七〇	
一	七月一日追肥	二、三六	三、六〇	二八、二	六、三	一、三三二	二、五〇〇	二、三六
二	七月十日追肥	二、三六	三、六〇	二八、二	六、三	一、三三二	二、五〇〇	二、三六
三	八月一日追肥	二、三六	三、六〇	二八、二	六、三	一、三三二	二、五〇〇	二、三六
四	八月一日追肥	二、三六	三、六〇	二八、二	六、三	一、三三二	二、五〇〇	二、三六

收穫成績左ノ如シ

10、種類對肥料施用量試驗 (繼續)

本試驗ハ從來本場ニ於テ試驗ノ結果最モ優良ニシテ本縣ニ必適ト認定セシ左記早、中、晚十二種ニツキ肥料施用量ノ増減ト稻ノ生育収量トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ各區六歩トシ本場所定ノ普通肥料ヲ以テ標準量トナセリ

備考 各施肥量ニ對スル反當價格ヲ舉グレバ左ノ如シ
 三割減肥料 五圓四拾壹錢七厘 普通肥料 七圓七拾參錢八厘
 三割増肥料 拾圓五錢九厘 六割増肥料 拾貳圓參拾八錢

區名	種類	施肥量	移植廿日後狀況	土用入ノ狀況		備考
				草丈	一株本數	
一	高田早稻	三割減	葉色淡ニシテ生育モ他區ニ劣ル	一、七二	二九、五	整
二	全	普通	生育良好	二、一〇	三八、五	全
三	全	三割増	全上	二、三五	四三、五	稍不良
四	全	六割増	全上	二、二二	三三、五	整
五	早坊	三割減	他三區ニ比シ株張劣ル	一、九〇	一九、〇	全
六	全	普通	生育良好	二、一三	二六、〇	全
七	全	三割増	全上	二、一〇	二五、五	全
八	全	六割増	全上	二、一一	二七、〇	全
九	越中坊	三割減	他ノ三區ニ比シ劣リ葉色モ淡シ	一、九二	一八、五	全
一〇	全	普通	生育良好	二、一五	二七、五	全

移植廿日後ハ肥料ノ多キモノハ漸次葉色

區名	種類名	施肥量	出穂期	出穂期狀況		收穫期	收穫期狀況		備考
				釋丈 本數株	葉色 整否		釋丈 本數株	穗長 稈強弱	
三二	全	六割増	全上	一、八七	四、〇〇	全	全		
三三	中	三割減	生育他區ヨリ劣ル	一、九八	三、五〇	全	全		
三四	全	普通	生育良好	二、〇五	三、五〇	全	全		
三五	全	三割増	全上	一、九七	三、五〇	全	全		
三六	全	六割増	全上	二、二	三、五〇	全	全		
三七	美	三割減	他區ヨリ多少劣ル ルモ其差少ナシ	一、七〇	二、七五	全	全		
三八	全	普通	生育良好	一、八〇	三、五〇	全	全		
三九	全	三割増	全上	一、七	三、五〇	全	全		
四〇	全	六割増	全上	一、八八	三、五〇	全	全		
四一	六	三割減	三割増ニ比シ稍 良好	一、八五	二、五〇	全	全		
四二	全	普通	全上	一、八三	二、六〇	全	全		
四三	全	三割増	生育良好	二、〇五	三、五〇	全	全		
四四	全	六割増	全上	二、一八	三、五〇	全	全		
四五	福	三割減	生育三割増ニ比 シ稍良好	二、一〇	二、六五	全	全		
四六	全	普通	全上	二、一五	二、五〇	全	全		
四七	全	三割増	生育良好	二、一八	二、九〇	全	全		
四八	全	六割増	全上	二、二	二、七五	全	全		

區名	種類名	施肥量	出穂期	出穂期狀況		收穫期	收穫期狀況		備考
				釋丈 本數株	葉色 整否		釋丈 本數株	穗長 稈強弱	
三一	全	三割増	全上	一、七五	三、七五	全	全		
三〇	全	普通	生育良好	一、八〇	四、〇	全	全		
二九	二	三割減	他區ニ比シ不良	一、七三	三、七五	全	全		
二八	全	六割増	全上	二、一五	三、〇	全	全		
二七	全	三割増	生育良好	二、〇〇	三、五〇	全	全		
二六	全	普通	全上	二、〇五	三、五〇	全	全		
二五	上	三割減	生育ハ三割六割 増ノ者ヨリ劣ル	二、一〇	三、〇	全	全		
二四	全	六割増	全上	二、一〇	三、九五	全	全		
二三	全	三割増	全上	二、二	三、五〇	全	全		
二二	全	普通	生育良好	一、九〇	四、〇	全	全		
二一	霧	三割減	他ノ三區ニ比シ 稍劣	一、九七	三、〇	全	全		
二〇	全	六割増	全上	一、八九	四、五	全	全		
一九	全	三割増	全上	一、八〇	四、五	全	全		
一八	全	普通	生育良好	一、八八	四、五	全	全		
一七	毛	三割減	他ノ三區ニ比シ 稍不良	一、七六	二、九〇	全	全		
一六	全	六割増	全上	一、八七	四、〇	全	全		
一五	全	三割増	全上	一、七三	三、七〇	全	全		
一四	全	普通	生育良好	一、九五	四、〇	全	全		
一三	石	三割減	生育他ノ三區ニ 比シ劣ル	一、六八	二、八〇	全	全		
一二	全	六割増	全上	二、〇八	三、〇	全	全		
一一	全	三割増	全上	二、〇二	二、六〇	全	全		

濃緑ナリ、各區トモ
螟虫被害少シ

前全斷

前全斷

移植廿日後ノ葉色ハ
各區共差ナシ螟虫ハ
二一區ト二四區ハ他
區ヨリ多シ

移植後廿日ノ葉色ハ
各區共始ンド差ナシ
螟虫モ各區トモ少ナ
シ

區名	試驗別	土用入狀況	出穗期	出穗期狀況	收穫期	收穫期狀況	備考
三三	中生高宮	三割減	二、三、七	六、一	〇、六、八	三、五、〇	二、五、四
三四	全	普通	二、三、七	六、二	一、七、〇	二、二、五	二、六、四
三五	全	三割増	二、七、三	六、二	一、三、七	一、〇、五	二、七、七
三六	全	六割増	二、八、四	六、二	二、一、八	八、〇、〇	二、八、四
三七	美濃坊	三割減	二、八、四	六、二	〇、八、四	〇、七、五	二、四、七
三八	全	普通	二、八、五	六、三	〇、七、九	〇、七、五	二、六、〇
三九	全	三割増	二、八、五	六、三	一、二、四	〇、七、五	二、七、九
四〇	全	六割増	二、八、五	六、三	〇、九、一	一、〇、〇	二、七、八
四一	助坊	三割減	二、八、六	六、四	〇、二、六	一、五、〇	二、四、三
四二	全	普通	二、八、六	六、四	〇、二、六	一、五、〇	二、四、三
四三	全	三割増	二、八、六	六、四	〇、四、七	一、五、〇	二、九、〇
四四	全	六割増	二、八、六	六、四	〇、四、七	一、五、〇	二、九、〇
四五	福	三割減	二、八、七	六、一	〇、六、七	二、二、五	二、九、四
四六	全	普通	二、八、七	六、一	一、二、七	〇、五、〇	二、七、一
四七	全	三割増	二、八、七	六、二	一、三、六	一、五、〇	二、八、九
四八	全	六割増	二、八、七	六、二	一、二、九	〇、七、五	三、一、六

一一、石灰種類比較試驗 (新設)

本試驗ハ普通石灰ト能登特産石灰トノ効果優劣ヲ見ントスルニアリテ各區ヲ六歩トナシ中稻石白種ヲ以テ試驗セリ、但シ石灰ハ移植前二日(六月八日)整地ノ際施用セリ

試驗區別並ニ生育狀況(其一)左ノ如シ

區名	試驗別	土用入狀況	出穗期	出穗期狀況	收穫期	收穫期狀況	備考
一	普通石灰反當二十貫	二、二、三	八、二、九	二、八、五	一〇、二、七	二、九、〇	螟虫被害ハ各區共少ナシ
二	全 上 四十貫	二、二、五	八、三、〇	二、八、〇	一〇、二、七	三、〇、〇	
三	特産石灰反當二十貫	二、二、五	八、三、〇	二、七、五	一〇、二、七	三、〇、〇	
四	全 上 四十貫	一、九、五	八、三、〇	二、七、五	一〇、二、七	二、七、五	
五	石灰無加用	一、九、七	八、三、〇	二、六、五	一〇、二、七	二、六、〇	

備考 七月上旬ノ生育狀況ハ第四區及ビ第二區葉振リ宜シカリシモ大差ナク、七月下旬ヨリ八月上旬ニ至リテハ第五區ハ生育稍劣リ、又普通石灰區ハ能登特産石灰區ヨリモ生育稍々優リタリ而シテ水害ハ五區最モ多ク四區三區之レニ次ギ二區一區ハ少ナカリキ

收穫成績左ノ如シ

一一、耕起法試驗 (繼續)

本試験ハ耕起ノ方法ヲ異ニシタル際ノ稻ノ生育並ニ収量ニ及ボス關係ヲ知ラントスルニアリテ各區六歩トシ中稻石臼種ヲ用キ無肥料ヲ以テ試験セリ其試験區別左ノ如シ(五月五日耕起、六月五日移植)

區名

試

驗

別

- 一 一坪四個ノ割合ニテ打チ起シタル株ヲ高サ二尺五寸ニ積ミ上ゲタルモノ
- 二 五株通リテ畦形ニ打チ起シタルモノ
- 三 平打チニシタルモノ

生育狀況左ノ如シ

區名	試驗別	移植日	土用入狀況		出穗期	收穫期	收穫期狀況		備考
			草丈	葉色			稈長	穗長	
一	塚形耕起	普通施肥區ト異ナラス生育良好	一、五五	三、五	八、二七	二、五〇	二、五〇	生育期中一般ニ第一區ヨリ順次ニ生育劣	
二	畦形耕起	前者ヨリ劣ル	一、五五	二、四〇	八、二七	二、三〇	二、〇五		
三	平打	前者ヨリ尙劣ル	一、五三	二、三〇	八、二七	二、一〇	一、九五		

收穫成績左ノ如シ

區名	試驗別	收量	一升重量		歩合	摺屑重量	糶重量	藁重量	平均收量
			米	糠					
一	塚形耕起	二、五七三	三、六三	二、八一	六、三	一、〇二一	一、五〇〇	一、六二二	二、六二
二	畦形耕起	二、二八八	三、六〇	二、八三	六、四	〇、七六八	一、〇〇〇	一、三八七	二、四七六
三	平打	一、八六六	三、六三	二、八二	六、三	〇、五九三	〇、七五〇	一、二〇二	二、〇八五

備考 本試験ハ半乾田ニテ行ヒタルモノナリ

一三、石灰窒素施用法試験 (繼續)

本試験ハ石灰窒素ヲ施用スルニ當リ窒素成分ノ全量ヲ之レニテ施給スルト其一部ヲ他ノ窒素質肥料ヲ以テ配合施用スル場合トノ效顯ラ比較シ併テ石灰窒素ノ適當ナル施用法ヲ知ラントスルニアリ、作付歩數各區六歩トシ中稻石臼種ヲ以テセリ、但シ反當窒素二貫目、磷酸及加里各一貫五百匁ノ割合トシ供試肥料中ニ含有スル磷酸及ビ加里ノ不足分ハ強過磷酸石灰及ビ糞灰ヲ以テ補給セリ

備考 石灰窒素ハ移植十二日前其他ノ肥料ハ移植前全量ヲ元肥トシテ一回ニ施セリ、而シテ第二區以下ハ反當石灰窒素七貫匁ヲ施シ不足分ヲ他ノ肥料ニテ配合セリ

試驗區別並ニ生育狀況(其一)左ノ如シ

區名	試驗別	土用入狀況		出穗期	出穗期狀況		收穫期	收穫期狀況	
		草丈	本數株		稈長	穗長			
一	石灰窒素單用	二、一〇	四、五〇	九、一	三、〇〇	三、六五	一、〇二七	三、〇〇	三、〇〇
二	石灰窒素廐肥	二、〇三	四、一五	九、一	二、九五	三、三〇	一、〇二七	二、九〇	三、〇〇
三	石灰窒素大豆粕	一、九七	三、九〇	九、一	三、〇五	三、二〇	一、〇二七	二、八〇	三、〇〇
四	石灰窒素人尿	二、一〇	四、二五	九、一	二、九〇	三、三五	一、〇二七	二、九五	三、〇〇

備考 收穫當時第一區及ビ第四區ハ一都倒伏セリ、又螟虫被害ハ各區共少ナカリキ
收穫ノ成績左ノ如シ

區名	試驗別	收量	一升重量		歩合	摺屑重量	糶重量	藁重量	平均收量
			米	糠					
一	石灰窒素單用	二、三三四	三、六〇	二、九〇	六、六	〇、九七二	一、七五〇	一、七五〇	二、五七一

二	石灰窒素厩肥	二、三九四	三六五	二八八	六、四	一、〇三九	〇、二五〇	一九九、二五〇	二、四四一
三	石灰窒素大豆粕	二、一三五	三六三	二八四	六、四	〇、九一七	一、二五〇	一九三、〇〇〇	二、三七〇
四	石灰窒素人尿尿	二、〇八〇	三六三	二八六	六、五	〇、五六〇	一、七五〇	一九六、五〇〇	二、三七五

一四、人工雜種品種試驗 (繼續)

本試驗ハ農事試驗場内支場ニ於テ人工交配ニヨリ作成シタル左記品種ノ本縣ノ風土ニ適スルヤ否ヤヲ試ミントスルニアリテ本縣在來ノ石白及ヒ高田早稻ヲ以テ比較對照セリ、但シ作付歩數各區三坪六月三日移植セリ
供試品種並ニ收穫當時ノ生育狀況左ノ如シ

區名	品種名(母名)	出穗期	收穫期	收穫當時ノ狀況			備考
				稈丈	本一穗數	種長	
一	畿内早稻一號(大信州金子場)	八、三	一〇、二八	二、六五	〇、六一	稍々弱	多少望ミアリ
二	全廿三號(穀長)	九、九	一〇、二四	二、六〇	〇、六七	強	晚稻望ナシ
三	全卅六號(大信州金子場)	八、五	一〇、二七	二、九〇	〇、六八	弱	有
四	全卅七號(信州金子)	九、六	一〇、三〇	三、一五	〇、六七	強	有望ナルモ稍遲シ
五	全五十七號(信州金子)	九、九	一〇、三〇	二、七〇	〇、六〇	全	晚稻見込少ナシ
六	全六十一號(愛神)	九、九	一〇、三〇	二、七五	〇、五九	全	全上
七	全七十一號(愛神)	八、七	一〇、一	二、六五	〇、六〇	全	全
八	全七十二號(信州金子)	八、二	一〇、一	二、七〇	〇、六〇	全	稍々細
九	全七十四號(穀長)	九、一	一〇、三	三、〇〇	〇、六八	全	多少望ミアリ
一〇	全九十一號(愛神)	八、六	一〇、二	二、七〇	〇、六〇	全	晚稻ノ見込ナシ

區名	品種名	收穫量	一升重量		歩合	摺層重量	糞重量	藁重量	品質	平均收穫量
			米	粉						
一	全七號(關神)	九、九	一〇、三〇	二、七〇	二四、五	〇、六〇	全	中	出穂不整見込ナシ	二、三九四
二	全廿五號(穀長)	八、二六	一一、二	三、一〇	二五、〇	〇、六〇	全	中	晚クレモ多少望ミアリ	二、五二三
三	全四十號(福郡)	九、八	一〇、三	三、〇〇	一八、五	〇、六六	強	中	有望	二、四〇七
四	全六十四號(愛神)	八、三	九、三〇	二、六〇	二六、〇	〇、六三	強	中	有	二、四〇七
五	全七十三號(愛神)	九、三	一〇、三〇	二、九〇	一九、五	〇、六〇	全	中	晚クシテ望ミ少ナシ	二、四〇七
六	全卅八號(信州金子)	九、二	一〇、三	二、九〇	二四、五	〇、六五	全	中	望ミ少ナシ	二、四〇七
七	全五十九號(竹二)	八、七	九、三〇	二、六五	二三、五	〇、六五	全	中	望ミ少ナシ	二、四〇七
八	全六號(神)	九、二	一〇、三	三、二五	二二、五	〇、六五	全	中	晚クテ望少シ	二、四〇七
九	全高田早稻	八、二七	九、二九	二、九五	三二、五	〇、六五	強	中	晚クテ望少シ	二、四〇七
一〇	石白	八、二六	一〇、二六	二、七〇	二七、五	〇、七〇	強	中	晚クテ望少シ	二、四〇七

收穫ノ成績左ノ如シ

區名	品種名	收穫量	一升重量	歩合	摺層重量	糞重量	藁重量	品質	平均收穫量
一	畿内早稻一號	二四、六	三六〇	二七、五	五、八	二、〇八一	五、四	二	二、三九四
二	全二十三號	二、七八	三六五	二八〇	五、八	一、六八九	二、五〇〇	二	二、五二三
三	全三十六號	二、五五〇	三六〇	二七、三	五、八	三、七三七	四、〇〇〇	三	二、四〇七
四	全三十七號	二、七六九	三六〇	二七、〇	六、三	三、五二六	四、〇〇〇	三	二、四〇七
五	全五十七號	二、六三二	三六五	二七、〇	六、四	一、八三〇	二、〇〇〇	五	二、四〇七
六	全六十一號	二、五四二	三六八	二八、五	五、八	〇、九六六	一、五〇〇	四	二、四〇七
七	全七十一號	二、六三五	三五五	二六、三	五、七	三、〇〇五	四、〇〇〇	二	二、四〇七

八	全七十二號	二、六三八	三六〇	二八〇	六、三	二、五二	四、〇〇〇	一三、五六〇	二、五三
九	全七十四號	二、四三二	三六五	二六五	五、五	一、三三	一、五〇〇	一七、八六〇	二、三九
一〇	全九十一號	二、六六六	三六〇	二七三	六、一	一、五四	二、五〇〇	一七、〇六〇	二、七〇九
一一	全二十七號	二、二六六	三五五	二八〇	六、二	二、三九七	二、〇〇〇	一〇、五〇〇	二、七〇九
一二	全二十五號	一、四三二	三五〇	二八五	六、〇	四、四二	五、五〇〇	二〇、五〇〇	二、七〇九
一三	全四十四號	二、六四九	三五五	二八三	六、一	四、二六	一、〇〇〇	一八、四一〇	二、七〇九
一四	全六十四號	二、七四五	三三八	二六二	五、九	二、三七	三、〇〇〇	一六、四八〇	二、七〇九
一五	全七十三號	二、六〇五	三七〇	二七八	五、九	一、二四	五、五〇〇	一八、〇六〇	二、三三
一六	全三十八號	一、九四七	三六〇	二七八	六、〇	二、三三	三、〇〇〇	一九、八〇〇	二、三三
一七	全五十九號	二、五三三	三五五	二七〇	五、六	一、八〇九	六、五〇〇	一四、二八〇	二、七〇九
一八	全六號	二、七三三	三六〇	二八三	六、三	二、一六九	二、五〇〇	二〇、七四〇	二、七〇九
一九	高田早稻	二、六四九	三五五	二八三	六、三	一、二六二	二、〇〇〇	一九、五〇〇	二、五三五
二〇	石白	二、九一〇	三五〇	二七三	五、九	二、七二三	八、〇〇〇	一四、六六〇	二、五三五

一五、品種改良試驗 (繼續)

本試驗ハ個性變化及偶然變化ヲ利用シ縱來栽培セル種類ノ有スル特質中特ニ或ル点ニツキ改良ヲ加ヘ或ハ在來種ト形質ノ異ナルモノヲ選擇シ良品種ヲ育成セントスルニアリ、而シテ改良ノ效果著シキモノハ既ニ第二種類試驗中ニ編入シタリ、尙ホ今年度繼續中ノモノハ左ノ如シ

區名	種類名	改良目的	區名	種類名	改良目的
一	高田早稻	有芒	一	關取撰	有芒
二	全上	大粒	二	關取撰	大粒
			二	御前糯	密成

第二陸稻

三	全上	大穗	一三	美濃撰出	全上	二三	要	糯	全上
四	豐後	密成	一四	全上	有芒	二四	曲	玉	早熟
五	蒲原坊主	白芒	一五	都賀錦	密成	二五	玉	光	全上
六	早生一本	白芒	一六	美濃一	小粒	二六	福	山	無芒
七	次郎左工門	密成	一七	全上	大粒密	二七	全	上	分蘖多
八	全上	大穗	一八	全上	大粒長形	二八	全	上	短莖
九	關取撰	密成	一九	全上	大穗	二九	愛	國	莖黃色
一〇	全上	大穗	二〇	腰八俵	長芒	三〇	全	上	粗皮白色

耕種梗概(但シ特殊ノモノハ之レヲ除ク)
四月下旬畑地ヲ耕起シ土塊ヲ碎キ播種期ニ至リ再耕シ土塊ヲ細碎シ地均ラシヲナシ播種ノ準備ヲナセリ
種子ハ比重一、一〇ノ鹽水ニテ擇種シ清水ニテ洗滌シ俵ニ入レ二日間水中ニ浸漬シ、反當四升ノ割合ニテ畦幅二尺ノ畦ニ種類試驗ハ五月十二日其他ハ全月十九日ニ條播セリ、肥料反當用量左ノ如シ(但シ元肥ハ播種當時追肥ハ七月二日之ヲ施セリ)

肥料名	施用量		價格		所含三要素量	
	總量	元肥	追肥	價格	空素	磷酸
堆肥	三〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	—	三,〇〇〇	一九一	二、七
人尿	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇	二,七〇〇	一〇、五八	〇、三三
強過磷酸石灰	三、七五〇	三、七五〇	—	六、三三三	二、九六九	三、二二五
計	—	—	—	—	—	—

中耕ハ六月廿七日及ビ七月廿八日、除草ハ六月廿五日、七月廿四日ノ二回之ヲ行ヘ發育不良ノ部分ハ六月廿五日補種セリ

備考 生育期中八月廿七、八日ノ洪水ノタメ浸水シ其ノ深サ二尺ニ及ビ且ツ水田ノ蝗虫蝻集シ食害セラレ著シキ被害ヲ受ケタリ

一、種類試驗 其二(繼續)

本試驗ハ各地ヨリ優良ノ種類ヲ蒐集シ其優劣ヲ比較シ本縣ニ適スル良種ヲ撰定セントスルニアリテ作付歩數ヲ各區六坪トセリ
供試種類左ノ如シ

區名	種類名	早、中、晚	種子取寄先	區名	種類名	早、中、晚	種子取寄先
一	江曾島糯	中	栃木縣農事試驗場	五	戰捷	中	神奈川縣農事試驗場
二	尾張糯	全	東京府全	六	凱旋糯	全	栃木縣農事試驗場
三	大畑全	全	埼玉縣全	七	凱旋糯	全	茨木縣農事試驗場
四	尾張糯全	全	東京府全	八	黑髭撰出	晚	本場撰出

區名	土用入ノ狀況		出穗期	出穗期狀況		收穫期	收穫狀況	
	草丈	間本數		稈長	間本數		稈長	芒長短
一	一、八〇	四三	八、二六	四六	四六	九、二八	四七	短
二	一、五〇	三六	九、四	四八	四八	一〇、一〇	四七	少
三	一、八〇	三三	九、四	二六	二六	一〇、一〇	四八	全
四	一、七五	四〇	九、四	二六	二六	一〇、一〇	四八	全

收穫ノ成績左ノ如シ

區名	種類名	玄米收量	一升重量		歩合	摺層重量	糶重量	藁重量	平均收量
			玄米	糶					
一	江曾島糯	〇、六七五	三四五	二四八	五、三	〇、五二〇	六、〇〇〇	四五、三五〇	一、五〇四
二	尾張糯	〇、七八八	三五〇	二五〇	五、四	〇、七八一	三、〇〇〇	四八、九〇〇	一、六六四
三	大畑糯	〇、八九九	三五五	二六三	五、七	一、〇一三	六、二五〇	一〇八、九〇〇	一、四九三
四	戰捷糯	一、〇〇六	三五〇	二五三	五、一	二、四六六	三、七五〇	六四、九八〇	一、五五〇
五	凱旋糯	〇、六〇四	三五五	二六三	五、七	〇、五〇〇	六、七五〇	六二、一四〇	一、五五七
六	凱旋糯	〇、八四〇	三五〇	二五三	五、四	〇、三一一	五、五〇〇	六〇、六〇〇	一、六〇一
七	凱旋糯	〇、六八二	三五五	二五〇	五、四	〇、九四四	五、二五〇	五八、八〇〇	一、四〇六
八	黑髭撰出	〇、五八六	三四〇	二五五	五、四	一、四一〇	〇、八五〇	九四、六五〇	—

備考 種類試驗其一ハ發芽一般ニ不良ニシテ雀害ヲ被リタルニ加ヘテ發芽後虫害ヲ甚シク被リ更ニ八月廿六日夜來ノ豪雨ノ爲河川ノ破堤ニ依リ水田ノ蝗全部畑作物ニ蝻集シ特ニ陸稻ハ慘害ヲ被リ爲ニ其目的ヲ達シ得ザル状態トナリシ爲遂ニ放棄スルノ止ムナキニ至レリ

三、肥料反應試驗 (繼續)

本試験ハ肥料ノ反應ト生育並ニ收穫量ノ關係ヲ觀ントスルニアリテ黒髭種ヲ用井各區六坪宛トナシ左記
試験別ニヨリ試験セリ、但シ肥料ハ反當窒素二貫匁燐酸及加里各一貫匁ノ割合ヲ以テ施給セリ
試験區別並ニ生育狀況(其一)左ノ如シ

區名	試驗別(肥料名)	土用入ノ狀況		生育整否	螟虫被害多少	備考
		草丈	一尺畦間本數			
一	強酸性區 硫酸安母尼亞 硫酸加里	二、三五	三三本	濃	整	
二	弱塩基性區 硫酸安母尼亞 トマス燐肥	二、一五	二七本	綠	全	
三	強塩基性區 石灰窒素 トマス燐肥	一、九〇	二五本	全	不整	石灰窒素ハ移植前 二週間施セリ
四	弱酸性區 硫酸安母尼亞 木燐酸石灰	一、三〇	二六本	濃	全	

區名	試驗別	出穗期	出穗期狀況		收穫期	收穫期狀況	
			釋長	一尺畦間本數		釋長	一尺畦間本數
一	強酸性區	九、二六	二、八五	綠	一〇、三二	二、九〇	〇、七三
二	弱塩基性區	九、二六	二、八〇	全	一〇、三一	二、八五	〇、七三
三	強塩基性區	九、一九	二、七〇	全	一一、三	三、〇〇	〇、七〇
四	弱酸性區	九、一八	二、八〇	全	一一、一	二、九〇	〇、七〇

生育狀況(其二)左ノ如シ

收穫ノ成績左ノ如シ

第三大 豆

耕種梗概(但シ特殊ノモノハ之レヲ除ク)
 整地 前年ノ秋期ニ於テ畑地ヲ耕起シ置キ播種前ニ至リ再耕シ土塊ヲ碎キ地均ラシヲナシ播種ノ準備ヲナセリ
 畦間及株間 幅二尺二寸五分ノ高畦トシ株間ハ早生七寸中生九寸晩生一尺一寸トナセリ
 播種 大粒正形ノモノヲ撰別シ五月十七日ニ播種セリ
 播種法 高畦ノ表面ニ行ニ一株三粒宛五ノ目ニ點播シ發芽後引キテ二本立トセリ
 肥料 反當用量左ノ如シ

區名	種類名	収量米	一升重量		歩合摺	重屑量米	枇重量	莖重量	平均収量
			玄米	一升重量					
一	強酸性區	〇、六七	三四	二四五	五、〇	二、四三	四、七五	一一六、七五	一、三七九
二	弱塩基性區	〇、八〇	三四九	二三二	四、六	二、五二	二、七五	一一三、二五	一、二七七
三	強塩基性區	〇、六七	三四五	二四三	五、〇	一、六七	〇、七五	九七、二五	一、一三六
四	弱酸性區	〇、六八	三四〇	二三五	四、八	一、六〇	九、二五	一一〇、〇〇	〇、七五五

肥料名	施用量	價格	所含三要素量		
			窒素	磷	酸
人尿	三〇、〇〇	〇、八七五	—	—	—
灰	二五、〇〇	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

施肥期 播種當時ハ無肥料ニテ播下シ發芽後六月十二日ニ至リ全量ヲ一回ニ施セリ
 中耕及除草 中耕ハ六月十六日、七月十四日ノ二回、除草ハ六月十日、七月十三日ノ二回ニ之ヲ行ヘリ
 補植 各試験區共發芽良好ノタメ殆ント補植ノ必要ナカリシモ六月十一日之ヲ行ヘリ

一、種類試驗 其一 (續)

本試驗ハ從來本場ニ於テ試驗ノ結果佳良ト認定シタル種類ヲ撰拔シ更ニ試驗ヲ繼續シ詳細ニ其優劣ヲ比較シ地方ニ最適スル良種ヲ確定セントスルニアリテ作付歩數各區六歩供試種類左ノ如シ

區名 種類名 早、中、晚 種子取寄先 區名 種類名 早、中、晚 種子取寄先

一	水	潜	早	本縣古志郡	六	岩	船	中	本縣岩船郡
二	刈	瀧	全	刈羽郡	七	砂	糖	晚	岩手縣
三	生	娘	全	全北蒲原郡	八	鈴	子	全	全
四	上	總	中	群馬縣	九	晚	大	全	本縣北蒲原郡
五	八	入	全	本縣古志郡	一〇	赤	莢	全	全南蒲原郡

生育ノ狀況左ノ如シ

區名	種類名	開花期	開花期狀況		收穫期	收穫狀況	
			莖丈	莖生		莖丈	莖細太
一	水	七、六	一、五〇	整	九、八	一、三〇	中
二	刈	七、五	二、〇〇	否	九、四	一、八〇	中
三	生	七、五	一、八〇	全	九、二〇	一、五〇	稍少
四	上	八、一	二、二〇	稍否	九、三〇	一、八〇	多
五	八	八、二	一、五〇	全	一〇、四	一、六〇	少

收穫ノ成績左ノ如シ

區名	種類名	子實收量	一升重量	屑豆重量	莢莖重量	累年收量	順位上
六	岩	八、二	二、〇〇	一〇、二	一、八五	〇、二	中
七	砂	八、一	二、〇〇	一〇、一〇	一、五〇	〇、五	密
八	鈴	八、六	二、七〇	一〇、一七	二、四〇	〇、三	稍密
九	晚	八、七	二、八〇	一〇、二	二、八五	〇、四	疎
一〇	赤	八、七	二、七〇	一〇、二	二、八五	〇、三	稍密

二、種類試驗 其二 (續)

區名	種類名	子實收量	一升重量	屑豆重量	莢莖重量	累年收量	順位上
一	水	〇、九七九	三、六〇	〇、五〇〇	四、五〇〇	一、六二七	六
二	刈	一、二五〇	三、六〇	三、一五〇	五、五〇〇	一、五九九	八
三	生	一、〇七〇	三、六〇	〇、五〇〇	四、〇〇〇	一、三六五	一〇
四	上	〇、八一四	三、五〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一、六〇五	七
五	八	〇、三五七	三、五〇	〇、七五〇	二、九二五	一、六八〇	九
六	岩	〇、六六四	三、五〇	〇、八〇〇	五、〇〇〇	一、五六六	一
七	砂	一、二二〇	三、四五	二、五〇〇	二、七五〇	一、九三四	二
八	鈴	〇、八四五	三、五五	二、七五〇	五、八七五	一、八三一	三
九	晚	〇、六四三	三、五〇	二、三〇〇	七、五〇〇	一、八二四	四
一〇	赤	〇、五五〇	三、五〇	五、〇〇〇	六、二五〇	一、七九六	五

本試験ハ各地方ヨリ品質佳良收穫多量ナル種類ヲ集メ其ノ優劣ヲ比較シ當地方ニ適スル良種ヲ撰定セン
トスルニアリ、但シ作付歩數各區六歩トシ供試品種ハ左ノ如シ

區名 種類 名 早、中、晚 種子取寄先 區名 種類 名 早、中、晚 種子取寄先

一 毛 振 早 宮城縣 六 銀 小 晚 長崎縣
二 鬼 裸 中 群馬縣 七 地 小 中 茨城縣
三 玉 造 全 宮城縣 八 地 小 早 茨城縣
四 出 來 全 宮城縣 九 兄 地 中 全 秋 田
五 mゴレ 豆 全 長崎縣 〇 秋 田 全 秋 田

生育狀況左ノ如シ

區名	種類	名	開花期	開花期狀況		收穫期	收穫期狀況	
				莖丈	莖生		莖丈	莖細太
一	毛	振	七月二日	二、三〇	整	九月二日	中	〇、三
二	鬼	裸	七月三日	二、二五	稍否	九月四日	太	〇、二
三	玉	造	八月二日	二、四〇	全	九月六日	全	〇、二
四	出	來	八月四日	二、四〇	全	九月六日	全	〇、二
五	ヨ	過	八月六日	二、八〇	全	九月七日	少	〇、二
六	銀	豆	八月六日	二、八〇	全	九月七日	少	〇、二
七	小	福	七月三日	二、二〇	全	九月三日	多	〇、二
八	地	塚	七月三日	二、二〇	全	九月三日	多	〇、二
九	兄	田	七月三日	二、二〇	全	九月三日	多	〇、二
〇	秋	田	七月三日	二、二〇	稍否	九月三日	中	〇、二

收穫ノ成績左ノ如シ

區名	種類	名	子實重量	一升重量	屑豆重量	莢稈重量	累年收量	順全位上
二	鬼	裸	〇、九三七	三五五	一、五〇〇	七二、〇〇〇	(五)	一、一〇〇
三	玉	造	〇、九五〇	三五五	三、二五〇	六二、七五〇	(五)	一、四〇〇
四	出	來	〇、九七〇	三五五	〇、五五	七一、五〇〇	(五)	一、三〇〇
五	ヨ	過	〇、七九	三五五	二、五〇〇	六二、五〇〇	(五)	一、二〇〇
六	銀	豆	〇、七九	三五五	二、五〇〇	六二、五〇〇	(五)	一、二〇〇
七	小	福	一、〇二	三六〇	一、七五〇	八四、〇〇〇	(三)	一、四五四
八	地	塚	一、〇七九	三五〇	三、〇〇〇	六七、〇〇〇	(三)	一、二九
九	兄	田	〇、九三	三五五	一、四〇〇	六一、〇〇〇	(三)	一、二三四
〇	秋	田	一、三五九	三五五	一、〇〇〇	六九、二五〇	(三)	一、一三四

三、株數對肥料適量試驗 (續)

本試験ハ從來早生種ハ多クノ場合ニ出來不足ノ傾キアルヲ以テ肥料及ヒ株數ヲ增加セハ果シテ如何ナル
結果ヲ來タスヤヲ觀ントスルニアリ(供試種類ハ水澁ヲ用ヒ作付歩數ハ各區六歩)
試驗區別並ニ生育狀況左ノ如シ

區名	試驗別	七月五日狀況		開花期	開花期狀況		收穫期	收穫期狀況	
		莖色	莖丈		莖丈	莖生		莖丈	莖生
一	毛	青	整	七月二日	整	九月二日	中	整	
二	鬼	青	整	七月三日	整	九月四日	太	整	
三	玉	青	整	八月二日	整	九月六日	全	整	
四	出	青	整	八月四日	整	九月六日	全	整	
五	ヨ	青	整	八月六日	整	九月七日	少	整	
六	銀	青	整	八月六日	整	九月七日	少	整	
七	小	青	整	七月三日	整	九月三日	多	整	
八	地	青	整	七月三日	整	九月三日	多	整	
九	兄	青	整	七月三日	整	九月三日	多	整	
〇	秋	青	整	七月三日	稍否	九月三日	中	整	

區名	種類名	莢色	粒形	粒大小	粒色	芽ノ濃淡	芽ノ大小	反實收當量	備考
一三	秋田德	淡	圓	大	帶黃澤少	淡	中	一五五	
二	川越	全	全	全	光澤澤	極淡	全	一三五	
三	借入金	全	全	大ノ中	光澤澤	濃	稍大	一七五	
四	八ノ道	全	全	全	全	全	全	一二九〇	
五	兄白	全	全	全	帶黃澤	全	全	一六八〇	
六	銀成	中	圓	全	帶青澤	甚濃	全	一四九三	莖葉ノ狀態砂糖豆ト似タリ
七	鈴子	全	全	大ノ小	光澤澤	淡	中	一四五四	
八	砂糖	全	全	中ノ大	全	全	稍大	一八三二	
九	玉造	赤褐	全	大ノ小	全	全	中	一九三四	
〇	出來	赤褐	全	全	光澤澤	淡	稍小	一三七〇	
一	旭過	濃	全	全	全	濃	全	〇七八九	
二	目白	濃	全	中ノ大	全	全	全	一〇二四	
三	晚大	中	稍扁圓	中ノ中	光澤澤	全	全	一八四	
四	岩船	淡	全	全	光澤澤	全	稍小	一五六	上總ニ莖葉狀態似タリ
五	毛振	全	全	全	全	稍濃	全	一三〇	生娘、水潜ニ似タリ
六									

第四 落花生

一七	ヨゴレ豆	濃	圓	全	帶青澤少	淡	稍大	一二四	水潜ト似ルモ莢面粗ナリ
一八	生娘(本縣)	淡	稍扁圓	中ノ小	光澤澤	中	中	一三五	
一九	赤莢	赤褐	圓	全	全	全	稍大	一七九六	
二〇	生娘(茨城)	淡	稍扁圓	全	全	全	中	一四四	
二一	上總	全	全	全	全	全	中	一六七	
二二	水潜	全	全	小ノ大	全	全	中	一六二七	
二三	刈谷	中	全	全	全	全	中	一五九九	
二四	小福	淡	稍扁圓	小ノ中	全	全	全	一二九	地塚ニ似ルモ毛茸ハ長クシテ棘ナリ
二五	鬼裸	中	全	全	全	全	全	一二〇〇	
二六	地塚	全	全	全	全	全	全	一三四	

耕種梗概

整地 秋期耕起セル畑地ヲ五月上旬ニ至リ再耕シ土塊ヲ碎キ地均ラシヲナシ作畦セリ

畦間及校間 直立性ノモノハ畦幅二尺株間一尺、匍匐性ノモノハ畦間四尺株間二尺トセリ

肥料、反當 堆肥百貫目、強過磷酸石灰三貫目、葉灰二十貫目ヲ全部元肥トシテ施用セリ

播種期及播種法、五月十五日莢ヲ取リタル儘ノ種子ヲ一株二粒宛點播セリ

備考

- 一、開花期成熟期ハ最近五ヶ年ニ於ケルモノヲ標準トシテ其中庸ヲ擧ケタリ
- 一、草丈モ年ニヨリ其ノ差甚クシケレハ最近五ヶ年ノモノヲ平均セリ
- 一、反當子實收量欄ノ()内ニ數字ヲ記入シタルハ試驗年數ヲ表ハス
- 一、莢色ハ成熟後ノモノトス

中耕及除草 中耕ハ七月十二日、八月二十三日、除草ハ六月十四日、七月十二日、八月二十三日ノ三回ニテ行ヘリ
補植 發芽不良ノ部分ハ六月十四日豫備苗ヲ以テ補植セリ

一、種類試驗 (繼續)

本試驗ハ直立性ノモノト匍匐性ノモノトノ優劣ヲ觀ントスルニアリテ作付歩數ハ區六歩トセリ
試驗ノ結果左ノ如シ

區名	試驗別	開花期	開花期狀況		收穫期	收穫期狀況		収子量實	重一升	二平均	ケ年
			莖丈	整否		莖丈	整否				
一	直立性 本場産	八、三	〇、七〇	稍整	二、五	一、〇〇	整	一、三三	二、五	二、五	七、二五〇
二	全上 神奈川縣産	八、三	〇、八〇	不整	二、五	〇、八〇	稍否	一、〇三	二、五	二、五	七、〇〇〇
三	全上 静岡縣産	八、三	〇、七五	全	二、五	〇、七〇	全	〇、八四	二、五	二、五	五、〇〇〇
四	匍匐性 本場産	八、三	〇、九〇	全	二、五	二、二〇	否	〇、三六	九〇	九〇	二、七五〇

備考 本年度ハ水害ヲ蒙リ且ツ收穫前ニ至リ菌核病ノ被害ヲ受ケ尙ホ氣候一般ニ温度低キタメ結果不良ナリキ

二、播種期試驗 (繼續)

本試驗ハ落花生ヲ直播スル場合ニ於ケル適當ナル播種期ヲ確メントスルニアリ
試驗區別並ニ其ノ結果左ノ如シ

區名	試驗別	發芽期	開花期	開花當時莖丈	收穫期	収量	重一升	二平均	ケ年
一	四月二十五日播	五、二	八、三	〇、七〇	二、五	一、〇〇	二、五	二、五	二、四七〇
二	五月五日播	五、二六	八、三	〇、七五	二、五	一、二五六	二、五	二、五	三、四七
三	五月十五日播	五、三〇	八、三	〇、八〇	二、五	一、六〇〇	二、五	二、五	三、三六
四	五月二十五日播	六、五	八、三	〇、八五	二、五	一、七九	二、五	二、五	二、四六

備考 前試驗ト全様水害、菌核病其他ノ被害ノタメ不結果ニ終レリ

委托試驗成績

(種藝部)

水稻種類試驗

佐渡郡ハ他ノ郡市ト風土ノ異ナルコト著シキヲ以テ越後ニ適スル水稻必ズシモ佐渡ニ適スルモノト斷ズベカラズ、是レ本試驗ノ目的ニシテ本場ニ於テ認メタル優良稻種ト佐渡在來種トノ比較ヲ試ミントスルニアリ

依託試驗地、畑野村大字後山、

作付歩數 各區拾五歩

肥料 反當用量左ノ如シ

大豆 粕 二十貫目

強過磷酸石灰 四貫目

硫酸安母尼亞 二貫目
木灰 拾貫目

播種及移植期 四月十日播種五月三十日移植セリ

株數及一株苗數 一坪ニ付キ早稻五十六株一株五本、中稻四十九株一株四本、晚稻四十二株一株四本植トセリ

供試稻種左ノ如シ

區名	種類名	種子取寄先	區名	種類名	種子取寄先
一 竹	成(晩)	本場産	六	高田早稻(早)	本場産
二 石	白(中)	全場産	七	越中坊主(早)	全場産
三 水	島(早)	佐渡産	八	越前(早)	佐渡産
四 毛石	白(中)	本場産	九	全上(六十四株植)	全場産
五 豐	後(早)	佐渡産	一〇	高田早稻(六十四株植)	本場産

生育狀況(其一)左ノ如シ

區名	種類名	生育狀況(其二)	移植當時苗ノ狀況		土用入ノ狀況		備考
			整否	草丈	草丈	一株本數	
一	竹成	不整	〇、七	剛	一、八〇	一四、四	不整
二	石島	全整	〇、七	剛	一、八〇	三〇、一	全整
三	水石	稍整	〇、七	剛	一、九〇	二六、五	全整
四	豐田	不整	〇、六	柔	一、九二	二五、四	稍整
五	高田	全整	〇、七	剛	一、九六	二六、七	全整
六	越中	全整	〇、七	剛	一、九七	二六、七	全整
七	越中	全整	〇、七	剛	一、九七	二六、七	全整
八	越中	全整	〇、七	剛	一、九七	二六、七	全整
九	全上	全整	〇、七	剛	一、九七	二六、七	全整
一〇	高田早稻	不整	〇、六	柔	一、九六	二六、七	不整

區名 種類名 出穂期 出穂期狀況 收穫期 收穫期狀況

一 竹成 九月二日 三、三〇 濃 十一月二日 三、二〇 稍強弱 稍細太
 二 石島 八月三日 三、三〇 淡 十一月二日 三、二〇 弱 細太
 三 水石 八月三日 三、三〇 淡 十一月二日 三、二〇 弱 細太
 四 豐田 八月三日 三、三〇 淡 十一月二日 三、二〇 弱 細太
 五 高田 八月三日 三、三〇 淡 十一月二日 三、二〇 弱 細太

區名	種類名	收穫成蹟左ノ如シ	一升重量		歩合摺	重屑	糶重量	藁重量	平均收量
			米	米					
一	竹成	八、一八	三、三〇	二、三〇	四、五	一〇、二〇	四、二〇	二、四八	
二	石島	八、二〇	三、三〇	二、三〇	五、八	一〇、〇〇	一、〇〇〇	二、四九	
三	水石	八、二〇	三、三〇	二、三〇	五、八	一〇、〇〇	一、〇〇〇	二、三〇	
四	豐田	八、二〇	三、三〇	二、三〇	五、八	一〇、〇〇	一、〇〇〇	二、三〇	
五	高田	八、二〇	三、三〇	二、三〇	五、八	一〇、〇〇	一、〇〇〇	二、三〇	
六	越中	八、二〇	三、三〇	二、三〇	五、八	一〇、〇〇	一、〇〇〇	二、三〇	
七	越中	八、二〇	三、三〇	二、三〇	五、八	一〇、〇〇	一、〇〇〇	二、三〇	
八	越中	八、二〇	三、三〇	二、三〇	五、八	一〇、〇〇	一、〇〇〇	二、三〇	
九	全上	八、二〇	三、三〇	二、三〇	五、八	一〇、〇〇	一、〇〇〇	二、三〇	
一〇	高田早稻	八、一八	三、一〇	二、〇六	六、〇	〇、九〇〇	〇、七〇〇	二、八八	

區名 種類名 收穫成蹟左ノ如シ

一 竹成 〇、九〇 三、五〇 二、四〇 四、五 一〇、二〇 四、二〇 二、四八
 二 石島 二、五〇 三、八 二、九 五、八 一〇、〇〇 一、〇〇〇 二、四九
 三 水石 二、三二 三、八 二、九 五、八 一〇、〇〇 一、〇〇〇 二、三〇
 四 豐田 二、三二 三、八 二、九 五、八 一〇、〇〇 一、〇〇〇 二、三〇
 五 高田 二、三二 三、八 二、九 五、八 一〇、〇〇 一、〇〇〇 二、三〇
 六 越中 二、三二 三、八 二、九 五、八 一〇、〇〇 一、〇〇〇 二、三〇
 七 越中 二、三二 三、八 二、九 五、八 一〇、〇〇 一、〇〇〇 二、三〇
 八 越中 二、三二 三、八 二、九 五、八 一〇、〇〇 一、〇〇〇 二、三〇
 九 全上 二、三二 三、八 二、九 五、八 一〇、〇〇 一、〇〇〇 二、三〇
 一〇 高田早稻 二、八六 三、七 二、九 六、〇 〇、九〇〇 〇、七〇〇 二、八八

備考 竹成ハ冷氣早來ノタメ登熟甚不完全、石白ハ分蘗盛ナルヲ以テ肥料不足ノ感アリキ

大正元年度冬作大正貳年度夏作試驗成績
(園藝之部)

第十三	七	六	五	四	三	二	一	第十二	一	第十	三	二	一	第九	一	第八	三
馬鈴薯	入播諸增收ノ實驗	品質對肥料反應試驗	支柱ノ實驗	接蔓ノ實驗	株間距離試驗	播種法試驗	續品種試驗	甘藷	品種試驗	燕菁	間引時期試驗	間引苗表徵試驗	春蒔牛蒡	品種試驗	萊菔	品種試驗	枝豆
四十二頁	四十一頁	四十一頁	三十九頁	三十八頁	三十八頁	三十六頁	三十六頁	三十五頁	三十五頁	三十四頁	三十三頁	三十三頁	三十二頁	三十一頁	三十一頁	二十八頁	二十七頁

第十四	二	一	第十五	一	第十六	一	第十七	二	一	第十八	二	一	第十九	二	一	第二十	二
里芋	播種法試驗	薯蕷	品種試驗	秋播葱頭	品種試驗	秋播葱	品種試驗	葱苗假植試驗	秋播甘藍	品種試驗	石灰窒素肥効試驗	春播甘藍	品種試驗	石灰窒素肥効試驗	苾類	結球性白菜品種試驗	不結球性苾類品種試驗
四十四頁	四十四頁	四十六頁	四十六頁	四十七頁	四十八頁	四十八頁	四十九頁	五十頁	五十頁	五十一頁	五十二頁	五十三頁	五十四頁	五十五頁	五十五頁	五十九頁	六十頁

大正元年度冬作試験成績

第一、甜瓜

耕種梗概。(特殊ノ試験ヲ除ク外左記標準ニ據レリ)

苗床踏込。苗床ハ木框ヲ用キ其幅四尺長サ二間ニシテ三月卅一日踏込ヲナセリ其法最底部ニ藁ヲ水ニテ浸シタルモノヲ四寸厚サニ敷キ其上ニ馬糞一分ニ對シ糞藁二分ノ割合ニ交ヘタルモノヲ七寸程踏ミ込ミ更ニ半熟堆肥約三寸厚サニ置キ尙ホ苗床一坪ニ對シ米糠二升人糞尿一荷ヲ水ニ薄メテ撒布シ完熟堆肥約二寸床土二寸ヲ置キ床面ヲ平坦トナシ其上ヲ菰類ニテ掩ヒ攝氏二十二三度ニ達シタル時菰ヲ除キ播條ヲ作リテ播下シ種子ノ見エザル程ニ細土ヲ篩ヒ掛ケ後一面ニ砂ヲ撒布シ鎮壓ヲ行ヒ藁ヲ蔽ヒ發芽スルニ至リ之レヲ除去シタリ

苗床管理。發芽後日中ハ菰ヲ除去シ夜間及雨天其他寒冷ノ日ニハ菰ヲ覆ヒ時々灌水ヲ行ヒ専ラ苗ノ發育ニ努メタリ

本圃ノ整地。前年秋季圃地ヲ深耕シ防霜作トシテ大麥ヲ播種セリ大麥ノ畦幅ハ二尺ニシテ二畦隔テニ一畦ヲ空存シ置キ翌春此ノ畦ニ甜瓜ヲ移植セリ大麥ノ元肥ハ人糞尿二百六十貫過磷酸石灰六貫藁灰十貫ヲ施シ五月六日該畦を耕起細碎シ五月九日移植スベキ個處ニ穴ヲ堀リ之レニ原肥ヲ施シ土塊ト能ク混シ其上ニ周圍ヨリ土ヲ盛り直徑一尺許リナル小高キ圓形ノ坪ヲ造リ移植ノ準備ヲナセリ

播種及定植。四月五日催芽法ヲ行ヒテ前陳苗床ニ播種シ四月二十五日假植ヲ行ヒ六月四日畦幅六尺株間三尺ニ本圃ヘ定植セリ

肥料。一反步當リ肥料用量並ニ代價所含三要素左ノ如シ

堆肥	肥料名	總量	原肥		價	三要素		
			一回	二回		窒素	磷酸	加里
肥		500,000	1	1	5,000	2,500	3,000	2,000

強過磷酸石灰	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	〇、八三三	一、二六六
石 灰	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	〇、三〇〇	一、一三四
米 糠	三〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	四、五〇〇	〇、六三四
人 糞	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇、三五〇	〇、二一〇
合 計	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一四、四七三	六、二一〇
				四、九三六	四、一七七

追肥中耕及除草。六月十六日、六月二十七日ニ追肥中耕ヲ行ヒ除草亦數回施行セリ
 敷 藁。第二回中耕ノ際ハ大麥ノ收穫ヲナシ麥畦ヲ耕起反轉シテ既定ノ畦幅トナシ第二回ノ追肥ヲ終リ
 六月三十日畦上一面ニ藁ヲ敷キタリ
 摘 蒞。第一回ハ五月二十一日温床内ニ於テ第一回ノ摘心ヲナシ其後本圃ニ定植シテ六月二十六日、七
 月六日、七月十六日、七月廿二日ノ數回ニ摘心セリ
 病虫害驅除豫防。炭疽病豫防ノ爲メボルドー液ヲ五月廿四日(温床内ニテ)七月三日、七月廿八日、ノ三回
 ニ澆注セリ

一、甜瓜品種試驗

目的。本試驗ノ目的ハ各地ニ於テ品質優劣若クハ產額多量ヲ以テ稱セラル、品種ヲ試栽シ當地方ニ適
 スル良種ヲ選擇セントスルニアリ
 試驗區別。種子取寄先原產地並ニ生育狀況左ノ如シ(作付歩數各區ニ歩宛)

區名	品 種 名	種子取寄先	原 產 地	發 芽	定 植 後 ノ 狀 况
一 菊 甜 瓜	全 本 場	英國清國雜種	四月十日	不 良	整 整 稍濃綠
二 支 那 香 港 全	全 本 場	英國清國雜種	四月九日	不 良	整 整 稍濃綠

其 二

三 札 幌 金 甜 瓜	全	北海 道	四月十日	不 良	整 整 淡綠	良
四 鳴 子 甜 瓜	全	在 來	四月十日	不 良	整 整 濃綠	良
五 江 戶 甜 瓜	全	本 縣 刈 羽 郡	四月十日	不 良	整 整 濃綠	良
六 梨 野 甜 瓜	本 場	愛 知 縣	四月十日	不 良	整 整 稍強	良
七 天 野 甜 瓜	本 場	本 縣 中 蒲 原 郡	四月十日	不 良	整 整 濃綠	良
八 蜜 柑 瓜	本 縣 中 蒲 原 郡 橋 越 村 二 本 木 澁 谷 貫 一 郎	全	四月十日	不 良	整 整 最濃綠	良

區名	品 種 名	第一回追肥當時狀況	開 花 始 (雄 花) 當 時 狀 况	一 番 雌 花
一 菊 甜 瓜	弱	不 整	七、〇三	七、一五
二 支 那 香 港	強	整 濃綠	六、二八	七、一六
三 札 幌 金 甜 瓜	強	整 稍淡綠	六、二八	七、一三
四 鳴 子 甜 瓜	強	整 濃綠	七、〇三	七、一五
五 江 戶 甜 瓜	強	整 濃綠	六、二八	七、一三
六 梨 野 甜 瓜	強	稍 整	七、〇三	七、一五
七 天 野 甜 瓜	強	整 濃綠	六、二八	七、一五
八 蜜 柑 瓜	強	整 濃綠	六、二八	七、一八

收穫ノ成績左ノ如シ

區名	品 種 名	收 穫 日 始	收 穫 日 終	總 收 量 一 個 高 數	一 顆 平 重 量	一 株 平 均 結 顆 數
一 菊 甜 瓜	弱	不 整	不 良	七、〇三	七、一五	七、一六
二 支 那 香 港	強	整 濃綠	良	六、二八	七、一六	七、一三
三 札 幌 金 甜 瓜	強	整 稍淡綠	良	六、二八	七、一三	七、一五
四 鳴 子 甜 瓜	強	整 濃綠	良	七、〇三	七、一五	七、一三
五 江 戶 甜 瓜	強	整 濃綠	良	六、二八	七、一三	七、一五
六 梨 野 甜 瓜	強	稍 整	良	七、〇三	七、一五	七、一三
七 天 野 甜 瓜	強	整 濃綠	良	六、二八	七、一五	七、一三
八 蜜 柑 瓜	強	整 濃綠	良	六、二八	七、一八	七、一五

一	菊甜瓜	八、一八	八、三〇	二九、七〇	三、三〇	九、一	五、五
二	支那香港	八、〇四	八、三〇	二七、六〇	三、二四〇	八、四	五、四
三	札幌金甜瓜	八、〇四	八、三〇	四三、八〇	四、三〇〇	一〇、三	七、四
四	鳴子甜瓜	八、〇九	八、三五	二三、三五〇	二、四〇〇	九、七	四、〇
五	江戶甜瓜	八、〇四	八、三五	三〇、九〇〇	二、一六〇	一、四三	三、六
六	梨野瓜	八、一三	八、三〇	二〇、九六〇	三、二四〇	六、三	五、四
七	天野瓜	八、〇四	八、三五	三九、七〇〇	四、三〇〇	九、三	七、一
八	蜜柑瓜	八、〇四	八、三〇	三三、五〇〇	三、九〇〇	八、五	六、五

第二、胡瓜

備考。八月廿七八日浸水ノ爲メ被害アリシト雖モ收穫末期ナリシヲ以テ甚シキ影響無カリキ

耕種梗概左ノ如シ
 苗床、甜瓜苗床ニ準ズ
 本圃整地。前年秋季蒔菜ノ跡地ヲ耕起シ四月二十四日更ニ土塊ヲ細碎シ四月三十日畦立ヲナシ既定ノ株間ニ穴ヲ堀リ原肥ヲ施シ土塊ト能ク混シ其上ニ周圍ヨリ土ヲ盛り直徑七八寸ノ小高キ圓形ノ坪ヲ造リ移植ノ準備ヲナセリ

播種及定植。四月六日催芽法ヲ行ヒテ苗床ニ下種シ四月二十一日五月一日ノ二回假植シ五月十四日畦幅三尺株間一尺五寸ニ定植セリ

肥料。反當用量並ニ代價、所含三要素左ノ如シ

肥料名	總量	原肥		價格	三要素	
		追肥	一回肥		窒素	磷酸

堆肥	四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—
強過燐酸石灰	四、〇〇〇	四、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—
葉灰	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—
米糠	一〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
人糞	三〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
石灰	六、〇〇〇	六、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—

追肥中耕及除草。五月廿六日、六月九日ノ二回ニ追肥中耕ヲ行ヒ除草亦數回行ヒリ

摘心。全部節成種ナルヲ以テ摘心セズト雖モ脇蔓ハ全部摘除セリ但シ結願セザル節ヨリ出デタル脇蔓ハ雌花ノ結成セルヲ見テ一葉上リニテ摘心セリ

手入。五月卅一日蔓ノ倒伏ヲ防ガンガ爲メニ棒立ヲヲナシ六月十二日支柱ヲ構成セリ、六月十三日下葉ノ葉裏ニ附着セル泥土ヲ洗滌シ六月廿九日蔓ノ結付ヲナセリ

病虫害驅除豫防。炭疽病豫防ノ爲メ三斗式石灰ボルドー液ヲ第一回ハ五月廿四日、第二回ハ七月三日、第三回ハ七月廿八日ニ撒布セリ

一、胡瓜品種試驗

目的。本試驗ノ目的ハ各地ニ於テ品質優良若クハ收穫多量ヲ以テ稱セラル、品種ヲ試裁シ當地方ニ適スル其種ヲ選擇セントスルニアリ

試驗區別。種子取寄先原産地及ビ生育狀況左ノ如シ(昨付歩數各區三步宛)

區名	品種名	種子取寄先	原産地	發芽	定植後ノ狀況	第一回追肥當時ノ狀況	第二回追肥當時ノ狀況
----	-----	-------	-----	----	--------	------------	------------

區名	品 種 名	開 花 日 期	草 勢	初 當 時 狀 况	一 番 雌 花	收 穫 期
一	鈴 成	六、九	強	整 濃 綠	六、九	六、三
二	白 節 成	六、三	強	整 淡 綠	六、三	六、三
三	愛 知 節 成	六、三	強	整 淡 綠	六、三	六、三
四	庄 内 早 生 節 成	五、三	強	整 淡 綠	六、一	六、三
五	成 瀨 節 成	六、三	強	整 淡 綠	六、三	六、三
六	聖 護 院 節 成	六、一	強	整 淡 綠	六、一	六、三
七	刈 羽 節 成 (甲)	六、三	強	整 淡 綠	六、三	六、三
八	全 (乙)	六、五	強	整 淡 綠	六、五	六、三

備考。五月廿四日第一回ボルドー液撒布ノ爲メ白節成、愛知節成、成瀨節成、刈羽節成多少ノ被害アリ

其 二

區名	品 種 名	重 量	個 數	重 量	個 數	重 量	個 數	重 量	個 數	重 量	個 數	重 量	個 數
一	鈴 成	一、三九	一、〇〇五	二、〇〇〇	三、五〇〇	八、三	七、〇〇〇	三、五	五、〇〇〇	七、四〇〇	五、三	一、〇	七
二	白 節 成	一、四一	一、〇〇三	二、三	四、一〇〇	九、九	一、〇〇二	二、〇	五、五〇〇	七、一〇〇	四、七	一、二	八
三	愛 知 節 成	一、四三	一、〇〇七	三、五	五、〇〇〇	八、四	二、〇〇四	二、七	五、〇〇〇	七、六〇〇	五、八	一、〇	五
四	庄 内 早 生 節 成	一、四八	一、〇〇四	三、五	五、〇〇〇	九、三	一、〇〇三	二、〇	五、〇〇〇	七、六〇〇	五、八	一、〇	五
五	成 瀨 節 成	一、六二	一、〇〇三	一、八	三、四〇〇	一、二	五、〇〇〇	二、九	九、〇〇〇	八、二〇〇	五、一	一、三	一
六	聖 護 院 節 成	一、六四	一、〇〇〇	一、五	三、六〇〇	九、七	一、〇〇二	一、〇	三、七〇〇	六、〇〇〇	四、五	一、三	一
七	刈 羽 節 成 (甲)	一、八四	一、〇〇四	三、四	六、八〇〇	七、六	一、〇〇二	二、〇	三、八〇〇	六、六〇〇	四、八	一、〇	三
八	全 (乙)	一、二四	一、〇〇四	一、〇	九、七〇〇	九、七	一、〇〇一	一、七	八、〇〇〇	六、六〇〇	五、二	一、一	六

備考。七月三日調査當時炭疽病ノ被害アリシハ鈴成、白節成、愛知節成、庄内早生、刈羽節成等ニシテ成瀨最モ强健ナリ
收穫ノ成績左ノ如シ

第三 南 瓜

耕種梗概左ノ如シ
苗 床。甜瓜苗床ニ準ズ

本圃整地。前年秋季前作タル春蒔葱、里芋、枝豆等ノ跡地ヲ耕起細碎シ防霜作トシテ甜瓜ト同様ノ方法ニヨリ四月廿四日空畦ヲ耕起細碎シ四月三十日移植スベキ個處ニ穴ヲ堀リ之レニ元肥ヲ施シ土塊ト能ク混ジ其上ニ周圍ヨリ土ヲ盛り直徑一尺許リナル小高キ圓形ノ坪ヲ造リ移植ノ準備ヲナシ畦幅六尺株間三尺

ニ五月八日定植セリ
 播種及定植。四月五日催芽法ヲ行ヒ苗床ニ下種シ四月十九日五月二日ノ二回假植ヲ行ヒ五月八日畦幅六尺
 株間三尺ニ本圃へ定植セリ
 肥料。反當肥料ノ用量、價格並ニ所含三要素左ノ如シ。

肥料名	總量	原肥		追肥		價格	所含三要素
		一	二	一	二		
堆肥	400,000					4,000	2,548
強過磷酸石灰	4,000					0,548	3,438
米糠	10,000					0,821	0,821
人糞	30,000					0,350	0,350
石灰	300,000			150,000		4,500	0,634
合計	6,000	6,000		150,000		4,500	1,764
						14,196	4,936
							5,805
							4,177

追肥中耕及除草。五月二十一日、六月十六日ニ追肥中耕シ除草ハ隨時數回施行セリ
 摘心。六月四日第一回ノ摘心ヲナシ七月六日第二回ヲ行ヒ爾後側芽ハ見當リ次第摘除セリ
 手入。五月八日定植翌日結霜ノ爲メ甚シク衰弱セルヲ以テ之レガ恢復ノ爲メ反當硫酸アンモニニア五百
 匁ヲ水ニ稀釋シテ施シタリ、六月十六日第二回中耕ニ際シ大麥ヲ收穫シ其ノ殘株ヲ耕起反轉シテ既定ノ
 畦幅トナシ追肥ヲ施シ藪敷セリ

一、南瓜品種試驗

目的。本試驗ノ目的ハ各地ニ於テ品質優良若クハ收穫多量ヲ以テ稱セラル、品種ヲ試裁シ當地方ニ適

スル良種ヲ選擇セントスルニアリ而シテ既ニ成績ノ判明セル良品種ハ之レヲ省キタリ
 試驗ノ區別。種子取寄先原產地並ニ生育狀況左ノ如シ(作付步數各區五步宛)

區名	品種名	種子取寄先	原產地	發芽	定植	當時ノ狀況
一	雉子	本場	本縣新潟市	四、二〇 良	五、五 整	二、二 綠
二	關屋早生	全日本農園	東京府	四、二〇 良	五、五 整	二、二 綠
三	早生黑皮	東京上澁谷廿四勸農社	東京府	四、二〇 良	五、五 整	二、二 綠
四	砂糖	本場	本縣中頸城郡	四、二〇 良	五、五 整	二、二 綠
五	大貫	本場	本縣中頸城郡	四、二〇 良	五、五 整	二、二 綠
六	村上(大)	全	本縣岩船郡	四、二〇 良	五、五 整	二、二 綠
七	見附	全	靜岡縣	四、二〇 良	五、五 整	二、二 綠

備考。居木橋、鹿ヶ谷菊座ハ既ニ試驗ヲ結了セリ
 五月九日朝ノ結霜ニヨリ被害セラレ左表ノ通り五月十二日補植セリ但シ補植本數八十本ニ對スル割合
 ナリ

其二

區名	品種名	補植數	第二回追肥當時狀況	開花初當時狀況
一	雉子	四本	整	六、二三 強
二	關屋早生	四本	整	六、二六 強
三	早生黑皮	六本	不整	六、二三 強

區名	品	種	名	葉ノ特微	莖ノ特微	草勢	色	果	形	特微
全對照	鹿	居	ケ	濃綠全上ノ白斑最著明	大	長	細	盛	濃綠地ニ淡綠斑	不正瓢形小瘤起アリ
七	見	木	ケ	濃綠全上ノ白斑點	大	短	太	盛	暗綠地ニ淡綠斑	扁圓淺キ條溝
六	村	上(大)	附	濃綠全上ノ白斑點	小	長	細	旺	淡綠地ニ淡綠斑	扁圓肩狹シ淺キ條溝
五	大	貫	糖	濃綠全上ノ白斑點	小	短	細	盛	淡黃綠滑澤	扁圓梗部小淺キ條溝
四	砂	貫	糖	濃綠全上ノ白斑點	大	長	細	旺	濃黑綠滑澤	扁圓肩部ニミ條溝アリ
三	早	皮	生	濃綠全上ノ白斑點	小	短	細	盛	濃黑綠滑澤	扁圓深キ條溝並ヒニ大瘤狀
二	關	早	子	稍淡綠葉脈分岐點白斑著	大	短	太	旺	淡黃綠多數ノ小斑	圓形淺キ條溝
一	雉	早	子	濃綠全上ノ白斑點	巨	短	太	旺	淡黃綠多數ノ小斑	圓形深キ條溝

備考。六月十二日夜半ヨリ翌朝ニ亙ル豪雨ノ爲メ莖葉ニ甚シク泥土附着セルヲ以テ灌水洗滌セリ

其 三 (莖葉並ニ稚果ノ特性)

區名	品	種	名	始收	終收	總收	均一	顆平	一株平均
全對照	鹿	居	ケ	八、〇九	八、三〇	一、〇四八、五〇〇	一、二〇〇	八七四	二、〇
七	見	木	ケ	八、〇九	八、三〇	一、〇四八、五〇〇	一、二〇〇	八七四	二、〇
六	村	上(大)	附	八、〇九	八、三〇	一、〇四八、五〇〇	一、二〇〇	八七四	二、〇
五	大	貫	糖	八、〇九	八、三〇	一、〇四八、五〇〇	一、二〇〇	八七四	二、〇
四	砂	貫	糖	八、〇九	八、三〇	一、〇四八、五〇〇	一、二〇〇	八七四	二、〇
三	早	皮	生	八、〇九	八、三〇	一、〇四八、五〇〇	一、二〇〇	八七四	二、〇
二	關	早	子	八、〇九	八、三〇	一、〇四八、五〇〇	一、二〇〇	八七四	二、〇
一	雉	早	子	八、〇九	八、三〇	一、〇四八、五〇〇	一、二〇〇	八七四	二、〇

目的ヲ達セズ左記成績モ亦此浸水ノ影響ヲ受クルコト尠カラズ

收穫ノ成績左ノ知シ

區名	品	種	名	始收	終收	總收	均一	顆平	一株平均
全對照	鹿	居	ケ	八、〇九	八、三〇	一、〇四八、五〇〇	一、二〇〇	八七四	二、〇
七	見	木	ケ	八、〇九	八、三〇	一、〇四八、五〇〇	一、二〇〇	八七四	二、〇
六	村	上(大)	附	八、〇九	八、三〇	一、〇四八、五〇〇	一、二〇〇	八七四	二、〇
五	大	貫	糖	八、〇九	八、三〇	一、〇四八、五〇〇	一、二〇〇	八七四	二、〇
四	砂	貫	糖	八、〇九	八、三〇	一、〇四八、五〇〇	一、二〇〇	八七四	二、〇
三	早	皮	生	八、〇九	八、三〇	一、〇四八、五〇〇	一、二〇〇	八七四	二、〇
二	關	早	子	八、〇九	八、三〇	一、〇四八、五〇〇	一、二〇〇	八七四	二、〇
一	雉	早	子	八、〇九	八、三〇	一、〇四八、五〇〇	一、二〇〇	八七四	二、〇

二、 依托品種試作

目的。本試作ハ農商務省農事試驗場興津園藝部ヨリ種子ヲ配布セラレ且ツ調査ヲ依托セラレタルモノ

試作ノ區別。種子取寄先原產地並ニ生育狀況左ノ如シ(作付歩數各區ニ歩宛)

區名	品	種	名	種子取寄先	原產地	發芽	當時ノ狀況
一	縮	ミ	全	興津園藝試驗場	鳥取縣	四、一〇日	整
二	シ	キ	全	興津園藝試驗場	愛知縣	四、一〇日	整

三	四	五	六	六	六
瓢	須	大	大	大	大
形(變形)	縮	縮	縮	縮	縮
全	全	全	全	全	全
長崎縣	神奈川縣	三重縣	朝鮮水原	朝鮮水原	朝鮮水原
四、〇	四、〇	四、〇	四、〇	四、〇	四、〇
不良	良	良	良	良	良
六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
不整	整	整	整	整	整
三	三	三	三	三	三
六	六	六	六	六	六
綠	綠	綠	綠	綠	綠
不良	最良	最良	最良	最良	最良

備考。五月九日朝ノ結霜ニヨリ被害セラレ左表ノ通り枯死シタルモ豫備苗無キ爲メ補植セズ

區名	品	種	名	被	害	第	二	回	追	肥	當	時	狀	開	花	初	當	時	狀
一	縮	シ	ミ	本	數	草	勢	整	否	色	澤	發	育	月	日	草	勢	整	否
三	瓢	形(變形)	キ	三	〇	強	強	整	否	淡	綠	良	良	六、二〇	六、二〇	強	整	否	整
二	縮	シ	ミ	三	〇	強	強	整	否	淡	綠	良	良	六、二〇	六、二〇	強	整	否	整
一	縮	シ	ミ	三	〇	強	強	整	否	淡	綠	良	良	六、二〇	六、二〇	強	整	否	整

備考。六月十二日夜半ヨリ翌朝ニ亘ル豪雨ノ爲メ莖葉ニ甚シク泥土附着セルヲ以テ灌水洗滌セリ

區名	品	種	名	葉	色	特	徵	莖	ノ	特	徵	草	勢	色	雜	果	澤	形	特
一	縮	シ	ミ	濃	綠	白	斑	少	大	節	間	太	旺	淡	黃	白	斑	扁	圓
二	縮	シ	ミ	濃	綠	白	斑	殆	小	節	間	太	盛	暗	綠	地	扁	圓	淺
三	瓢	形(變形)	キ	淡	綠	白	斑	少	巨	大	節	間	盛	鮮	綠	網	狀	扁	圓

區名	品	種	名	始	收	終	期	重	量	個	高	均	一	均	一	均	一	均
一	縮	シ	ミ	八、二五	八、二五	八、三〇	八、三〇	九、八四、〇〇〇	一、〇五〇	一、〇〇〇	一、〇五〇	九、三七	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
二	縮	シ	ミ	八、二五	八、二五	八、三〇	八、三〇	六、六八、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	六、六八	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
三	瓢	形(變形)	キ	八、二五	八、二五	八、三〇	八、三〇	一、八〇〇、〇〇〇	〇、六〇〇	〇、六〇〇	〇、六〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
四	須	賀	賀	八、二五	八、二五	八、三〇	八、三〇	一、三九三、五〇〇	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇	一、三三七	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇
五	大	縮	緬	八、三〇	八、三〇	八、三〇	八、三〇	一、一〇五、〇〇〇	〇、六〇〇	〇、六〇〇	〇、六〇〇	一、八四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
六	大	縮	緬	八、二五	八、二五	八、三〇	八、三〇	一、〇四五、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇四五	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

備考。八月廿七八ノ洪水ノ爲メ成績ニ影響少カラズ

第四、越 瓜

耕種梗概左ノ如シ
 苗 床。甜瓜苗床ニ準ズ
 本圃整地。前年春播甘藍ノ跡地ヲ秋季ニ於テ充分耕起細碎シ防霜作トシテ甜瓜ト同様ノ方法ニヨリ大麥ヲ栽培シ五月六日畦ヲ耕起細碎シ五月九日畦立ヲナシ既定ノ株間ニ元肥ヲ施シ直徑一尺許リナル圓形ノ植坪ヲ作り定植ノ準備ヲナセリ
 播種及定植、四月六日催芽法ヲ行ヒテ苗床ニ下種シ四月二十五日假植ヲ行ヒ六月十日畦幅六尺株間二尺ニ

肥料名	總量	原肥		追肥		價格	室素		磷要		酸加	
		一回	二回	一回	二回		三	四	五	六	七	八
堆肥	200,000					4,000						
強過磷酸石灰	6,000					0,822						
米糠	300,000					4,500						
人糞	300,000					0,634						
石炭灰	10,000					4,500						
合計	6,000					0,350						
						1,473						
						0,300						
						1,473						
						4,936						
						6,210						
						4,177						

本圃へ定植セリ
肥料。反當肥料ノ用量、價格並ニ所含三要素左ノ如シ

追肥。中耕及除草。六月十九日、六月廿七日、追肥中耕シ除草ハ隨時數回施行セリ
摘心。五月廿一日温床内ニ於テ第一回ノ摘心ヲナシ六月廿六日第二回ヲ、七月六日第三回ヲ七月二十一日第四回摘心ヲ行ヒタリ
手入。六月廿六日大麥ヲ收穫シ其ノ殘株ヲ耕起反轉シテ既定ノ畦幅トナシ第二回ノ追肥ヲ施シ六月三十日敷藁ヲナセリ
病虫害驅除豫防。炭疽病豫防ノ爲メ三斗式石灰ボルドー液ヲ第一回ハ五月廿四日温床内ニ終テ第二回ハ七月二十八日日本圃ニ於テ撒布セリ

一、越瓜品種試驗
目的。本試驗ノ目的ハ各地ニ於テ品質優良若クハ産額多量ヲ以テ稱セラル、品種ヲ試栽シ當地方ニ適スル良種ヲ選擇セントスルニアリ

試驗區別。種子取寄先原産地及生育狀況左ノ如シ(作付歩數各區三步宛)

區名	品種名	種子取寄先	原産地	發芽	定植當時狀況	第一回追肥當時狀況
一	桂瓜	本場	京都府	四、三	稍整濃綠	整濃綠
二	青大越瓜	全	東京府	四、三	稍整濃綠	整濃綠
三	高田越瓜	本縣高田越瓜採種組合	本縣高田市	四、三	不整濃綠	稍整淡綠
四	早生越瓜	本場	東京府	四、六	整淡綠	整淡綠
五	山越瓜	全	本縣中蒲原郡	四、六	整濃綠	整濃綠

備考、五月廿四日温床内ニ於テ撒布セルボルドー液ノ爲メ各區共被害セラル(濃度三斗式當日ノ天氣ハ晴後曇ナリシ)其ノ狀況左表ノ如シ

其二、

區名	品種名	ボルドー液	雄花開花初當時ノ狀況	雌花(一番)開花期
一	桂瓜	被害甚大	七、三 強	七、八
二	青大越瓜	被害甚大	七、四 稍強	七、一〇
三	高田越瓜	被害甚大	七、四 強	七、一〇
四	早生越瓜	被害少シ	七、三 強	七、八
五	山越瓜	被害少シ	七、三 強	七、八

一	桂瓜	八、三	八、三	六、二九、五〇〇	三、四〇〇	一、八三	三、八
二	青大瓜	八、三	八、三	四一、〇〇〇	三、三〇〇	一、三五	三、七
三	高田越瓜	八、三	八、三	六七〇、〇〇〇	四、一〇〇	一、六三	四、五
四	早生越瓜	八、三	八、三	四五七、五〇〇	五、一〇〇	九〇	五、七
五	米山越瓜	八、三	八、三	六〇九、〇〇〇	四、六〇〇	一、三三	五、一

備考。八月廿七八日ノ洪水ニヨリ甚大ノ被害アリ爾後ノ收穫皆無ニ歸シタルヲ以テ成績ニ影響少カラズ

二、越瓜支柱ノ實驗

目的。本實驗ノ目的ハ越瓜ノ栽培上從來ノ如ク其ノ蔓ヲ地上ニ匍匐セシメタルモノト支柱ヲ與ヘテ纏絡セシメタルモノトガ收量ニ如何ナル差違アルヤヲ試ミントスルニアリ

實驗ノ區別 (供試品種ハ桂瓜ニシテ作付歩數ハ各區三步宛トス)

區名	實 驗 別	實 驗 方 法		收 穫 成 績 左 ノ 如 シ
		一 標	二 標	
一 標	實 驗 別	在來法ニヨリ地上ニ匍匐セシメタルモノ	細竹ヲ以テ地上四尺ノ高サニ垣根狀ノ支柱ヲ作り之レニ蔓ヲ纏絡セシメタルモノ	收穫成績左ノ如シ
二 標	實 驗 別	同上	同上	同上
一 標	立 準	八、三	八、三	八、三
二 標	立 準	八、三	八、三	八、三
一 標	始 期	八、三	八、三	八、三
二 標	終 期	八、三	八、三	八、三
一 標	重 量	六、二五、〇〇〇	六、二五、〇〇〇	六、二五、〇〇〇
二 標	個 數	四、二〇〇	四、二〇〇	四、二〇〇
一 標	一 顆 平 均 重 量	一、四〇	一、四〇	一、四〇
二 標	結 顆 數	一、六二	一、六二	一、六二
一 標	一 株 平 均 結 顆 數	七、七	七、七	七、七
二 標	一 株 平 均 結 顆 數	一〇、〇	一〇、〇	一〇、〇

備考、成育狀況ハ品種試驗第一區ト略同様ナルヲ以テ省略セリ

第五、茄 子

耕種梗概左ノ如シ
苗 床。甜瓜苗床ニ準ズ
本圃整地。前年秋季葉叢ノ跡地ヲ耕起細碎シ防霜作トシテ大麥ヲ播種セリ大麥ノ畦幅ハ三尺トシ基肥ニハ人糞尿百三十貫強過燐酸石灰四貫藪灰十貫ヲ追肥ニハ人糞尿百三十貫ヲ施セリ翌春畦間ヲ耕起シ六月二日既定ノ株間ニ原肥ヲ施シ定植ノ準備ヲナセリ
播種及定植。四月五日催芽法ヲ行ヒテ苗床ニ下種シ四月三十日五月十四日五月二十八日ノ三回ニ假植ヲナシ六月十日畦幅三尺株間二尺ニ本圃ヘ定植セリ
肥 料。反常肥料ノ用量、價格所含三要素左ノ如シ

肥料名	總 量	原 肥	追 肥			價 格	所 含 三 要 素		
			一 回	二 回	三 回		窒 素	磷 素	酸 加 素
堆肥	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇				六、〇〇〇	三、八三	五、四三	四、二〇〇
強過燐酸石灰	四、〇〇〇	四、〇〇〇				〇、五四八		〇、八一	
油粕	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇				二、七〇〇		〇、五五	〇、一三〇
藪灰	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇				一、〇五〇		〇、六三〇	〇、一三〇
人糞	四五〇、〇〇〇					六、七五〇		二、六四六	一、三〇〇
米糠	二〇、〇〇〇					三、〇〇〇		〇、四二六	〇、七五六
合 計	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	二〇、〇四八	七、三八九	七、八七三	六、六七一

追 肥。六月十六日、七月十三日、八月廿三日
中 耕。六月十六日、六月廿四日、七月十三日、八月廿三日
除 草。八月十三日

手入。早魃ノ爲メ六月十日、全十二日灌水ヲナシ六月十三日及ビ七月廿三日ニ支柱ヲ立テ數回マサリ
 ヲ攝キ歪狀ニ整枝セリ、六月十六日大麥ノ收穫ヲナシ第一回ノ追肥ヲ施シ土寄せヲナシタリ
 病虫害驅除豫防。五月廿四日三斗式ボルドー液ヲ温床内ニ於テ撒布シ六月二日蚜虫驅除ノ爲メ石鹼水ヲ六
 月九日除虫菊加用石鹼水ヲ撒布セリ

一、茄子品種試驗

目的。本試驗ノ目的ハ各地方ニ於テ收穫多量若クハ品質優良ヲ以テ稱セラル、品種ニ就キ當地ニ適ス
 ル良種ヲ選擇セントスルニアリテ既ニ成績ノ判明セル良品種ハ之レヲ省キタリ
 試區別及種子取寄先。原產地及生育狀況左ノ如シ(作付歩數各區三步宛)

區名	品種名	種子取寄先	原產地	發芽 月日 良否	葉 色 形	莖 色 細太	刺	節間	草勢
一	大 芹川	本場	京都府	四月二日	濃綠 楕圓	紫 稍太	多	短	中
二	魚 沼着	南魚沼郡城内 午勢茄子採種組合	本縣南魚沼郡	四月二日	濃綠 楕圓	紫 稍細	少	短	中
三	晚 生丸	本場	京都府	四月二日	濃綠 楕圓	紫 最太	少	短	中
四	小 芹川	全	京都府	四月三日	紫 長楕圓	紫 稍太	最太	短	中
五	バイオレーロン	興津國立園藝試驗場	國	四月九日	淡綠 楕圓	淡紫 稍細	少	長	細長
六	アラツクビユチ	全	佛國	四月八日	淡綠 楕圓	淡綠 太	少	短	短太

備考。蔓細千成、早生山茄子、中生山茄子、晚生山茄子、中生丸茄子、晚生丸茄子、博多長茄子、清國
 大圓、南部長茄子等ハ試驗終了セリ
 莖葉其他ノ特性ハ六月十日移植當日ノ調査ナリ
 其 二

區名	品種名	定植 補植本數	草勢	後 整 否	狀 色 澤	現 發 育	第二回追肥當時狀況	發 育
一	大 芹川	一	稍強	整	濃紫	良	整	良
二	魚 沼着	二	強	整	濃紫	良	稍整	良
三	晚 生丸	一	強	整	綠紫	良	整	良
四	小 芹川	一	強	整	濃紫	良	整	良
五	バイオレーロン	〇	強	整	淡綠	旺	整	旺
六	アラツクビユチ	〇	強	整	淡綠	盛	整	盛

其 三

區名	品種名	一番花 開花月日	落花月日	花當時 草勢	狀況	收 始月日	終月日	病害發生狀況
一	大 芹川	七月三日	七月六日	強	整	七月一日	七月六日	病害ニ罹レルモノナシ
二	魚 沼着	七月三日	七月六日	強	整	七月一日	七月六日	病害ニ罹レルモノナシ
三	晚 生丸	七月五日	七月九日	強	不整	七月七日	七月六日	七月廿八日一株枯死ス
四	小 芹川	七月三日	七月六日	強	整	七月七日	七月六日	七月十四日二株枯死ス
五	バイオレーロン	七月三日	七月六日	強	整	七月七日	七月六日	病害ニ罹レルモノナシ
六	アラツクビユチ	七月三日	七月六日	強	整	七月七日	七月六日	八月二日二株枯死ス

備考。八月廿七、八日洪水ノ爲メ浸水約二晝夜ニ亘リ最高水量地上二尺ニ達セルヲ以テ發育非常ニ阻害
 セラレ收穫量ニ影響甚カラズ
 收穫ノ成績左ノ如シ

區名	品種名	總收穫 重量 個數	七月 重量 個數	八月 重量 個數	九月 重量 個數	十月 重量 個數	一畝平均 均重量 均個數
一	大 芹川	七、〇三	七、〇六	七、〇一	一、〇〇六	一、〇〇六	
二	魚 沼着	七、〇三	七、〇六	七、〇一	一、〇〇六	一、〇〇六	
三	晚 生丸	七、〇五	七、〇九	七、〇七	一、〇〇六	一、〇〇六	
四	小 芹川	七、〇三	七、〇六	七、〇一	一、〇〇六	一、〇〇六	
五	バイオレーロン	七、一三	七、一六	七、三一	一、〇〇六	一、〇〇六	
六	アラツクビユチ	七、二〇	七、二五	七、二八	一、〇〇六	一、〇〇六	

區名	試驗別	試驗ノ方	法
一 大芥川	標準	前々年來茄子ヲ栽培セル圃地ニ於テ何等ノ處理ヲモ施サズ	一、二八六、〇〇〇 二、四〇〇、〇〇〇 三、一〇〇、〇〇〇 四、九〇〇、〇〇〇 五、五〇〇、〇〇〇 六、八〇〇、〇〇〇
二 魚沼巾着	標準	同上	一、七〇〇、〇〇〇 二、三〇〇、〇〇〇 三、一〇〇、〇〇〇 四、五〇〇、〇〇〇 五、二〇〇、〇〇〇 六、六〇〇、〇〇〇
三 晚生丸	標準	同上	一、三〇〇、〇〇〇 二、一〇〇、〇〇〇 三、五〇〇、〇〇〇 四、三〇〇、〇〇〇 五、四〇〇、〇〇〇 六、七〇〇、〇〇〇
四 小芥川	標準	同上	一、五〇〇、〇〇〇 二、二〇〇、〇〇〇 三、六〇〇、〇〇〇 四、四〇〇、〇〇〇 五、三〇〇、〇〇〇 六、八〇〇、〇〇〇
五 小芥川	標準	同上	一、四〇〇、〇〇〇 二、三〇〇、〇〇〇 三、七〇〇、〇〇〇 四、五〇〇、〇〇〇 五、六〇〇、〇〇〇 六、九〇〇、〇〇〇
六 小芥川	標準	同上	一、三〇〇、〇〇〇 二、四〇〇、〇〇〇 三、八〇〇、〇〇〇 四、六〇〇、〇〇〇 五、五〇〇、〇〇〇 六、七〇〇、〇〇〇

第二、茄子連作試験

目的。本試験ノ目的ハ茄子ヲ連作スルニハ果シテ如何ナル處理ヲナサバ可ナルヤヲ知ラントスルニアリ
 試驗ノ區別左ノ如シ(供試品種中生山茄子作付歩數各區一步半宛)

區名	試驗別	開花	草勢	初狀	收	病	害	發	生	狀
一 標	試驗別	七月三日	弱	不整	七月十日	七月廿八日	八月二日	八月廿四日	八月廿四日	八月廿四日
二 燒	標準	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
三 木	標準	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
四 石	標準	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
五 石	標準	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
六 藁	標準	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

生育狀況左ノ如シ(六月十日定植迄ノ狀況ハ各區共四月五日播種全十日發芽シ發育整一佳良ナリシ)
 備考。八月廿七日八日ノ洪水ニ際シ浸水約二晝夜ニ亘リ地上最高二尺ノ浸水ノ爲メ發育大ニ阻害セラレ成
 績ニ影響甚カラズ
 收穫ノ成績左ノ如シ

區名	試驗別	總收高	七	八	九	十	一
一 燒	標準	七、〇三	九、三〇〇	三、六〇〇	二、八〇〇	三、三〇〇	一、五〇〇
二 木	標準	七、〇三	九、三〇〇	三、六〇〇	二、八〇〇	三、三〇〇	一、五〇〇
三 石	標準	七、〇三	九、三〇〇	三、六〇〇	二、八〇〇	三、三〇〇	一、五〇〇
四 石	標準	七、〇三	九、三〇〇	三、六〇〇	二、八〇〇	三、三〇〇	一、五〇〇
五 石	標準	七、〇三	九、三〇〇	三、六〇〇	二、八〇〇	三、三〇〇	一、五〇〇
六 藁	標準	七、〇三	九、三〇〇	三、六〇〇	二、八〇〇	三、三〇〇	一、五〇〇

備考。八月廿七日八日ノ洪水ニ際シ浸水約二晝夜ニ亘リ地上最高二尺ノ浸水ノ爲メ發育大ニ阻害セラレ成
 績ニ影響甚カラズ
 收穫ノ成績左ノ如シ

區名	試驗別	總收高	七	八	九	十	一
一 燒	標準	七、〇三	九、三〇〇	三、六〇〇	二、八〇〇	三、三〇〇	一、五〇〇
二 木	標準	七、〇三	九、三〇〇	三、六〇〇	二、八〇〇	三、三〇〇	一、五〇〇
三 石	標準	七、〇三	九、三〇〇	三、六〇〇	二、八〇〇	三、三〇〇	一、五〇〇
四 石	標準	七、〇三	九、三〇〇	三、六〇〇	二、八〇〇	三、三〇〇	一、五〇〇
五 石	標準	七、〇三	九、三〇〇	三、六〇〇	二、八〇〇	三、三〇〇	一、五〇〇
六 藁	標準	七、〇三	九、三〇〇	三、六〇〇	二、八〇〇	三、三〇〇	一、五〇〇

耕種梗概左ノ如シ
 整地。九月八日甜瓜ノ跡地ヲ耕起シ十一月十二日更ニ土塊ヲ細碎シ地均シヲナシ畦ヲ作り十一月廿一
 日原肥ヲ施シ播種ノ準備ヲナセリ

第六、豌豆

播種。畦幅二尺四寸、株間五寸(但シ矮性種ハ條播ヲナシ發芽後間引キテ株間三寸トナス)トシ一株三粒宛十一月二十一日點播セリ

肥料。反當肥料ノ用量、價格及所含三要素左ノ如シ

肥料名	總量	原肥	一回肥		價格	三要素	
			量	價		窒素	磷酸
堆肥	200,000	100,000			2,000	1,274	1,200
人糞	30,000	30,000			1,500		1,300
強過燃酸石灰	200,000		100,000	100,000	3,000	1,261	0,384
石合計	30,000	30,000			1,500		0,811
合計	30,000	30,000			8,000	2,535	3,084

追肥中耕及除草。四月十六日、五月十二日ニ追肥シ四月十六日、五月五日ニ中耕シ除草ハ數回之レヲ行ヒタリ

手入。五月五日間引キテ一株二本立テトナシ全十日、十一日十二日ニ直リテ支柱ヲ立テ繩ヲ張り伸長スルニ從テ蔓ノ結付ヲナセリ

目的。各地ニ於テ品質優良若クハ收穫多量ヲ以テ稱セラル、品種ニ就キ當地ニ適スル其種ヲ選擇セントスルニアリ

一、豌豆品種試驗

作付歩數。各區二坪四分宛トシ試驗ノ區別、種子取寄先、原產地及生育狀況左ノ如シ

區名	品名	種子取寄先	原產地	發芽	開花初當時狀況	收穫期
一	アメリカン チャンピオン	本場	米國	二、二〇	不良	五、二六
二	佛國大莢	全	佛國	二、二〇	良	五、二七
三	エスエスゼム	全	札幌植産園	二、二〇	良	五、三三
四	鎌倉	全	神奈川縣	二、二〇	最良	五、三三
五	在來	全	本縣	二、二〇	最良	五、三五

蔓其他ノ特性左ノ如シ

區名	品名	蔓性	葉ノ特徵	花	莢	形狀	色澤
一	アメリカン チャンピオン	高太 五尺五寸	濃綠白斑	白大	軟	扁廣長大	淡綠
二	佛國大莢	高太 五尺五寸	稍濃綠白斑	紫大	軟	扁廣長	淡綠
三	エスエスゼム	二尺五寸	濃綠白斑	紫小	軟	扁廣長	淡綠
四	鎌倉	三尺五寸	綠白斑	淡紫小	軟	扁廣長	濃綠
五	在來	四尺五寸	濃綠白斑	白小	軟	扁廣長	濃綠
號外	札幌青手無	二尺三寸	濃綠白斑	白小	稍硬	圓短	濃綠
全一	ヘチードボーア	五尺	濃綠白斑	白中	硬	圓短	濃綠
全二	テレフオーン	五尺五寸	濃綠白斑	白中	硬	圓短	濃綠
全三	ポアドサルベツト	五尺	濃綠白斑	白中	硬	圓短	濃綠
全四	チャンピオン	三尺五寸	濃綠白斑	白小	硬	扁稍長	淡綠
全五	チャンピオン	三尺五寸	濃綠白斑	白小	硬	扁稍長	淡綠
全六	ヘロイン	六尺	濃綠白斑	白大	硬	扁稍長	淡綠

收穫ノ成績左ノ如シ

一	アメリカンチャンピオン	七二、七五〇	三八八、三七五	三二四、三七五
二	佛國大莢	七〇六、二五〇	三〇六、二五〇	四〇〇、〇〇〇
三	エスエスゼム	三〇九、三七五	二八一、二五〇	二八一、二五〇
四	エスエスゼム	一七五、二五〇	一三四、六三五	四〇〇、六三五
五	在鎌倉	三九五、八七五	二五九、六三五	一三六、二五〇

第七、蠶豆

耕種梗概左ノ如シ
 整地。九月廿八日甘藍ノ跡地ヲ耕起シ十月廿一日更ニ土塊ヲ細碎シ均シヲチ畦ヲ作り十月廿三日原肥ヲ施シ能ク土塊ト混ジ播種ノ準備ヲナセリ
 播種。畦幅二尺株間八寸(但シ矮性種ハ五寸)ニ十一月十二日(但切目莢ハ全月二十一日)播種セリ
 肥料。反當肥料ノ用量、價格並ニ所含三要素左ノ如シ

肥料名	總量	原肥	補肥		價格	三要素	磷	酸	加里
			一回	二回					
堆肥	二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇			二,〇〇〇	一,二七四	一,七四四	一,四〇〇	
強過磷酸石灰	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇			一,〇五〇		〇,六三〇	一,三〇〇	
人糞	二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇			〇,五四八		〇,八二一		
石灰	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇	一,一七六	〇,一四八	〇,三三八	
合計	二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	七,五九八	二,四五〇	三,三〇三	三,〇三八	

追肥中耕及除草。四月十六日、五月七日ニ追肥中耕五月十八日除草セリ
 病虫害驅除。六月四日褐斑病豫防ノ爲メ砂糖ボルドー液三斗式ヲ撒布セリ

一、蠶豆品種試験

目的、本試験ノ目的ハ各地方ニ於テ收穫多量若クハ品質優良ヲ以テ稱セラル、品種ヲ試栽シ當地方ニ適スル良種ヲ選擇セントスルニアリ
 試験ノ區別種子取寄先並ニ原産地及生育狀況ハ左ノ如シ(作付歩數各區ニ歩宛)

區名	品種名	種子取寄先	原産地	發芽	鼠害ニテ道	開花期	病虫害發生ノ狀況
一	於多福寸	本場	大坂府	月日 良否	播セル割合	五月二日	褐斑病ノ被害毫モ無シ
二	切目多	全	京都府	二、三 不良	二割	五、三〇	褐斑病僅カニ發生セリ
三	在來種	全	和歌山縣	四、二〇 良	二割弱	五、一五	褐斑病僅カニ發生セリ
四	在來種	全	東京府	一、三 不良	五分弱	五、一七	褐斑病ノ被害著シ
五	早生	全	北海道	一、三 稍良	五分位	五、一九	褐斑病ノ被害最モ劇シ
六	グリーザイアント	東京園藝商會	英國	一、三 最良		五、一七	褐斑病稍多シ

備考、前年秋季ニ於テ發芽セルモノハ冬期間野鼠ノ喰害ヲ被リシヲ以テ四月十日追播ヲナシ五月十九日前後發芽セリ
 收穫ノ成績左ノ如シ

區名	品種名	始收	終期	總收穫	高目	重	一升	付
一	於多福寸	七月三日	七月三日	一五、六〇〇	〇、六〇〇	二六〇	二六〇	六四〇
二	切目多	七月三日	七月三日	二四、九〇〇	一、〇一〇	二四四	二四四	五九〇
三	在來種	七月三日	七月三日	二九、四〇〇	〇、九〇〇	三三七	三三七	四、五〇〇
四	在來種	七月三日	七月三日	五三、三五〇	一、五七五	三三八	三三八	一、三八〇
五	早生	七月三日	七月三日	三七、五〇〇	一、一七〇	三三二	三三二	一、〇一〇

六 グリーン
グライアント
七、一〇
七、二七
三、一〇〇
一、一五五
二七〇
六九〇

二、蠶豆石灰加用試験

目的。本試験ノ目的ハ蠶豆ノ肥料トシテ石灰効用ノ効果並ニ其ノ適量ヲ知ラントスルニアリ
試験ノ區別並ニ成育狀況左ノ如シ(供試品種ハ在來種ヲ用キ作付歩數ハ各區一步宛トス)

區名	試驗別	月	發	日	芽	否	開	花	期	病	虫	害	發	生	狀	況
一	無加用	十二月	廿一日	稍	良	否	五月	十五日		褐	斑	病	ノ	被	害	多
二	拾貫加用	十二月	廿一日	不	良	否	五月	十七日		褐	斑	病	ノ	被	害	毫
三	貳拾貫加用	十二月	廿一日	不	良	否	五月	十九日		褐	斑	病	ノ	被	害	毫
四	參拾貫加用	十二月	廿一日	稍	良	否	五月	十七日		褐	斑	病	ノ	被	害	毫
五	四拾貫加用	十二月	廿一日	不	良	否	五月	十八日		褐	斑	病	ノ	被	害	毫
六	五拾貫加用	十二月	廿一日	良		否	五月	十九日		褐	斑	病	ナ	シ	蚜	虫

收穫ノ成績左ノ如シ

區名	品	種	名	始	收	穫	終	月	日	重	量	容	高	重	量	一	升	重	量	一	升	付	數
一	無	加	用	七、二	三	三	七、二	三	三	三	八、七〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	三三三	一三八〇	三四	三四	一四八〇	一四八〇	一四八〇	一四八〇	一四八〇	一四八〇
二	拾	貫	加	七、二	三	三	七、二	三	三	四、七〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	三二四	一四九〇	三四	三四	一四九〇	一四九〇	一四九〇	一四九〇	一四九〇	一四九〇
三	貳	拾	貫	七、二	三	三	七、二	三	三	五、〇〇〇	一、五九〇	一、五九〇	一、五九〇	三一九	一四九〇	三四	三四	一四九〇	一四九〇	一四九〇	一四九〇	一四九〇	一四九〇
四	參	拾	貫	七、二	三	三	七、二	三	三	五、八〇〇	一、六三〇	一、六三〇	一、六三〇	三四四	一三五〇	三四	三四	一三五〇	一三五〇	一三五〇	一三五〇	一三五〇	一三五〇
五	四	拾	貫	七、二	三	三	七、二	三	三	五、五〇〇	一、六二〇	一、六二〇	一、六二〇	三四二	一四一〇	三四	三四	一四一〇	一四一〇	一四一〇	一四一〇	一四一〇	一四一〇
六	五	拾	貫	七、二	三	三	七、二	三	三	五、四〇〇	一、五九〇	一、五九〇	一、五九〇	三四二	一四一〇	三四	三四	一四一〇	一四一〇	一四一〇	一四一〇	一四一〇	一四一〇

三、蠶豆播種期試験

目的。本試験ノ目的ハ當地ニ於ケル蠶豆播種ノ適期ヲ知ラントスルニアリ
試験區別及成育狀況左ノ如シ(作付歩數ハ各區一步宛トス)

區名	試驗別	月	發	日	芽	否	雪	害	狀	況	開	花	月	日	病	虫	害	發	生	狀	況	
一	十月	下	旬	播	二、二	月	稍	不	良	否	殆	ト	全	滅	五、二	月	五、二六	五、二六	五、二六	五、二六	五、二六	五、二六
二	十一月	上	旬	播	二、三	月	良			否	被	害	少	シ	五、三〇	月	五、三〇	五、三〇	五、三〇	五、三〇	五、三〇	五、三〇
三	十一月	中	旬	播	二、三	月	良		否	被	害	無	シ		五、三〇	月	五、三〇	五、三〇	五、三〇	五、三〇	五、三〇	五、三〇
四	十一月	下	旬	播	四、〇	月	稍	良	否	被	害	無	シ		五、二四	月	五、二四	五、二四	五、二四	五、二四	五、二四	五、二四

其 二 小粒種 (供試品種ハ切目莢)

區名	試驗別	月	發	日	芽	否	雪	害	狀	況	開	花	月	日	病	虫	害	發	生	狀	況	
一	拾月	下	旬	播	二、二	月	良		否	殆	ト	全	滅	五、一〇	月	五、一〇	五、一〇	五、一〇	五、一〇	五、一〇	五、一〇	
二	拾月	上	旬	播	二、三	月	良		否	被	害	多	シ	五、一五	月	五、一五	五、一五	五、一五	五、一五	五、一五	五、一五	五、一五
三	十一月	中	旬	播	四、二	月	最	良	否	被	害	無	シ		五、一五	月	五、一五	五、一五	五、一五	五、一五	五、一五	五、一五
四	十一月	下	旬	播	四、〇	月	不	良	否	被	害	無	シ		五、二〇	月	五、二〇	五、二〇	五、二〇	五、二〇	五、二〇	五、二〇

收穫成績左ノ如シ

區名	收穫期	始	日	終	日	重	量	容	高	重	量	一	升	重	量	一	升	重	量	一	升	付	數
一	拾月	下	旬	播	二、二	月	良		否	殆	ト	全	滅	五、一〇	月	五、一〇	五、一〇	五、一〇	五、一〇	五、一〇	五、一〇	五、一〇	五、一〇
二	拾月	上	旬	播	二、三	月	良		否	被	害	多	シ	五、一五	月	五、一五	五、一五	五、一五	五、一五	五、一五	五、一五	五、一五	五、一五
三	十一月	中	旬	播	四、二	月	最	良	否	被	害	無	シ		五、一五	月	五、一五	五、一五	五、一五	五、一五	五、一五	五、一五	五、一五
四	十一月	下	旬	播	四、〇	月	不	良	否	被	害	無	シ		五、二〇	月	五、二〇	五、二〇	五、二〇	五、二〇	五、二〇	五、二〇	五、二〇

其 三 (於多福) (切目莢)

第八、枝豆

耕種梗概左ノ如シ

整地。前年南瓜ノ跡地ヲ十月下旬耕起細碎シ四月六日更ニ土塊ヲ碎キ全七日畦ヲ作り原肥ヲ施シ播種ノ準備ヲナセリ

播種。畦幅二尺四寸、株間。八寸ノ二條ニ四月七日播種セリ

肥料。反當肥料ノ、用量、代價及所含三要素左ノ如シ

肥料名	總量	原肥		追肥		價格	所含三要素
		一回	二回	一回	二回		
人糞	100,000					1,500	0,588
人尿	100,000					0,840	0,17
葉灰	30,000		100,000			1,050	0,630
合計						3,390	0,832

施肥法。人糞尿ト葉灰トハ施肥前ニ於テ混和シ原肥トナシ人尿ハ五月上旬發芽後ニ之レヲ施用セリ
 追肥。中耕及除草。五月二十日、追肥中耕シ除草ハ數回之レヲ行ヒタリ
 手入。晚生種ハ稍々出來過ギノ形勢ナリシヲ以テ七月廿二日及八月一日ノ兩回摘心ヲナシタリ

一、枝豆品種試驗 (新設)

目的。本試驗ノ目的ハ各地ニ於テ品質優良若クハ收穫多量ヲ以テ稱セラル、品種ニ就キ當地ニ適スル
 頁種ヲ選擇セントスルニアリ
 試驗區別種子取寄先原產地及生育狀況左ノ如シ(作付歩數各區四坪宛)

區名	品種名	種子取寄先	原產地	發芽月日	開花月日	草勢	當時ノ狀況
一 武	平生	本場	本縣中蒲原郡	四月三	六月三	強	整綠剛柔發育
二 早	岸生	全	東京府	四月三	六月三	強	整綠剛
三 彼	葵	全	全	四月三	六月三	強	整綠剛
四 中	葵	全	全	四月三	六月三	弱	稍整綠剛
五 土	用	全	全	五月二	七月八	中	整淡綠中
六 大	葵	全	全	五月三	七月一	強	不整綠剛
七 善	光	全	本縣中蒲原郡	五月三	八月一	強	綠剛

收穫成績左ノ如シ

區名	品種名	收穫期	草丈	莢丈	一把(十本)ニ付莢數	莢目方	總收穫量
一 武	平生	七月一日	一、七〇	〇、一八五	一六五	六五	三、五二五
二 早	岸生	八、〇六	二、八〇	〇、一四五	三〇四	八六	三、〇〇〇
三 彼	葵	八、一三	三、〇五	〇、一七〇	二八七	一四〇	四、八七五
四 中	葵	八、二一	四、三三	〇、二〇〇	二七〇	一一七	四、六、五〇〇
五 土	用	八、二八	二、六三	〇、一七〇	三〇八	一一三	四、八、〇〇〇
六 大	葵	八、三二	二、九三	〇、二〇〇	四三七	三二五	三、一、二五〇
七 善	光	九、一八	四、〇三	〇、二二〇	四〇〇	一八〇	六、〇、〇〇〇

第九、菜 菘

耕種概左ノ如シ
 整地。前作馬鈴薯ノ跡地ヲ七月廿四日耕起細碎シ八月五日畦立ヲナシ原肥ヲ施シ八月五日(但シ宮重ハ八月十五日)播種シ根部小指大ニ生育シタルニ八月廿七八日ノ洪水ニテ全部腐敗セルヲ以テ九月二日更ニ耕起シ畦立ヲナシ再播ノ準備ヲナセリ
 播種。畦幅二尺株間一尺八寸(但シ宮重ハ條播シ間引キテ株間一尺二寸トセリ)ニ點播セリ
 肥料。反當肥料ノ用量價格及所含三要素左ノ如シ

肥料名	總量	原肥			追肥	價格	所含三要素		
		一	二	三			窒素	磷酸	加里
堆肥	200,000	100,000	100,000	100,000	4,000	2,548	3,438	2,800	
強過燐酸石灰	6,000	6,000			0,823		1,216		
米糠	10,000	10,000			1,500	0,308	0,378	0,140	
人糞	15,000	15,000			0,535		0,315	0,675	
合計	350,000	50,000	100,000	100,000	12,097	4,856	5,596	4,207	

追肥中耕及間引。九月十四日、九月廿五日ニ追肥中耕シ間引ハ九月九日、九月十四日、九月廿九日ニ行ヒタリ
 手入。十月廿日下葉掻キ取りヲナス
 病虫害驅除豫防。第一回目播種ノ際ハキスジノミムシトビ虫驅除豫防ノ爲メ木灰硫黃華ノ合劑ヲ撒布シタルモ第二回目播種後ハ害虫ノ發生少ク何等ノ處理ヲ講ズル事無ク健全ニ發育セリ
 備考。菜菘ノ試驗ニ關シテ品種試驗、播種期試驗、株間距離試驗等ヲ行ヒタルモ何レモ八月廿七、八日ノ洪水ニテ腐敗セルヲ以テ九月三日再播セルモ成績ニ多大ノ影響アルヲ以テ唯ダ品種試驗ノミヲ掲記

シ他ハ之レヲ省略スルコト、セリ

一、菜菘品種試驗

目的。本試驗ノ目的ハ秋蒔菜菘中各地ニ於テ品質優良產額多量ヲ以テ稱セラル、品種ヲ試裁シ當地ニ適スル品種ヲ選擇セントスルニアリ
 試驗ノ區別種子取寄先原產地及生育狀況左ノ如シ(作付步數各區三步宛)

區名	品種名	種子取寄先	原產地	發芽	第一回追肥時當ノ狀況	收穫期狀況
一宮	練馬尻重	愛知縣春日井春日村宮重 大岡萬左工門	愛知縣	良	濃綠	稍々完全ニ發育セリ
二練馬	練馬尻	日 本 農 園	東京府	良	淡綠	發育尙ホ不完全ナリ
三練馬	練馬尻	本縣中蒲原郡大形村津島屋 日 本 農 園	東京府	良	淡綠	前種ヨリ更ニ不完全ナリ
四方	津嶋	愛知縣海東郡杉本寺村字方 京 都 府 中 區 太 田 村 三 ヶ 村	本縣中蒲原郡	良	綠	發育稍々完全ナリ
五方	方 護	聖護院 本縣中蒲原郡新開村字下條 下條大根採種組合	京都府	良	綠	極メテ不完全ナリ
六聖護	下 條	本縣中蒲原郡新開村字下條 下條大根採種組合	本縣中蒲原郡	良	濃綠	稍々完全ナリ
七下	條	本縣中蒲原郡新開村字下條 下條大根採種組合	本縣中蒲原郡	良	濃綠	稍々完全ナリ

第十、春蒔午蒔

耕種梗概左ノ如シ

整地。春蒔甘藍ノ跡地ヲ秋季ニ於テ深耕シ四月六日耕起細碎シ四月十三日畦立ヲナシ原肥ヲ施シ播種ノ準備ヲナセリ

播種。四月十三日畦幅二尺ニ點播(大形種ハ株間一尺中形種ハ八寸)シ小形種ハ條播シ間引キテ株間五寸トセリ

肥料。反當肥料ノ用量價格所合三要素左ノ如シ

肥料名	總量	追肥		價格	室所	燐素	三要素	加素
		一回	二回					
堆肥	50,000	50,000		5,000	三、一八五	四、二八五	三、五〇〇	
米糠	30,000	30,000		4,500	〇、六三四	一、一三四	〇、四二〇	
人糞	15,000	15,000		〇、五二五		〇、三二五	〇、六七五	
合計	95,000	95,000	150,000	16,775	六、四四五	六、〇六七	五、三五六	

追肥中耕除草。五月二十日、七月二十日ニ追肥シ五月廿日中耕シ數回除草セリ

間引。五月十六日、六月十八日、六月三十日

一、春播午蒔品種試驗

目的。本試驗ノ目的ハ各地ニ於テ品質優良若クハ收穫多量ヲ以テ稱セラル、品種ヲ試栽シ當地ニ適スル品種ヲ選擇セントスルニアリ而シテ既ニ成績ノ判明セル良品種ハ之ヲ省キタリ

試驗ノ區別生育狀況及收穫ノ成績左ノ如シ(作付步數各區三步宛)

區名	品種名	種子取寄先	原產地	發芽率	生育狀況	總收穫量	一本平均量
一	獨逸丸	東京農園	東京府	四、三六	強整	五〇、〇〇〇	九、五〇〇
二	出丸	本縣高田市丸新開	本縣高田市	四、二六	強整	五三、〇〇〇	一〇、一〇〇
三	本丸	本縣中蒲原郡新開村三本木	本縣中蒲原郡	四、二六	強整	五三、〇〇〇	七、五〇〇
四	本丸	本縣南魚沼郡城内村三本木	全南魚沼郡	四、二六	強整	五六、〇〇〇	一一、三〇〇

備考。八月廿七八日ノ洪水ニテ發育沮害セラレ成績ニ影響尠カラズ收穫期ハ各區共十一月六日ナリシ

尙ホ既ニ試驗ノ結果成績ノ判明セルハ東京赤莖、砂川、瀧の川、大浦、梅田、越前、堀河等ナリ

二、春蒔午蒔間引時期試驗

目的。本試驗ノ目的ハ春蒔午蒔間引時期並ニ回数ノ適度ヲ知ラントスルニアリ

試驗區別並ニ收穫ノ成績左ノ如シ(作付步數各區一步宛)

區名	試驗別	發芽率	總收穫量	一本平均量
一	五月中旬 一回間引	四、三六	八六、七〇〇	八、一〇〇
二	六月中旬 一回間引	四、二六	六五、〇〇〇	九、六〇〇
三	七月中旬 一回間引	四、二六	六〇、〇〇〇	一一、一〇〇
四	七月上旬 二回間引	四、二六	四八、九〇〇	八、七〇〇
五	五月中旬 三回間引	四、二六	六七、〇〇〇	一一、七〇〇
六	五月中旬 四回間引	四、二六	六〇、九〇〇	九、六〇〇

備考。供試品種ハ東京赤莖ニシテ收穫ハ十一月六日ナリ

目的。本試驗ノ目的ハ間引苗ノ表徵ヲ鑑別シテ其ノ收量品質ニ如何ナル影響アルカラ試験セントスル

三、春蒔午蒔間引苗表徵試驗

生育狀況。四月十三日播種セルモノ全二十六日整一ニ發芽セリ其後ノ發育極メテ佳良ナリシニ八月廿七、八日ノ洪水ニヨリ多大ノ被害アリ成績ニ甚カラズ影響セリ
 試區別並ニ收穫ノ成績左ノ如シ(作付歩數各區二歩宛)

區名	試 驗 別	重 總		收 本		一本平均重量
		量	收	量	高	
一	葉形丸キモノヲ間引ク	六八、〇〇〇	一三、〇五〇	九、〇〇〇	七	五
二	葉形長キモノヲ間引ク	六五、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	七	五
三	葉色濃キモノヲ間引ク	八二、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	七	五
四	葉色淡キモノヲ間引ク	六〇、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	七	五
五	莖葉直立性ノ者ヲ間引ク	五九、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇	六	七
六	莖葉開帳性ノ者ヲ間引ク	四九、五〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	六	七

備考。供試品種ハ東京赤莖ニシテ收穫期ハ各區共十一月六日ナリ

第十一、蕪菁

耕種梗概左ノ如シ
 整地。前作馬鈴薯ノ跡地ヲ七月十九日耕起シ全月廿一日燒土法ヲ行ヒ全月廿六日整地ヲシ八月五日木灰硫酸華ノ合劑ヲ畑一面ニ撒布シ原肥ヲ施シ八月五日播種シ發芽並ニ發育佳良ナリシニ八月廿七日ノ洪水ニテ全部腐敗セルヲ以テ九月二日更ニ耕起シ畦立ヲナシ再播ノ準備ヲナセリ
 播種。九月三日畦幅二尺株間八寸(但シ大形種ハ一尺)ニ播種セリ
 肥料。反當肥料ノ用量價格所合三要素左ノ如シ

肥料名	總量	追肥				價格	三要素
		一回	二回	三回	四回		
窒素	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	1,911	2,572
磷酸	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	0,525	0,355
加里	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	0,823	1,216
合計	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	2,259	3,143

堆肥	強過磷酸石灰	人糞	合計	追肥及中耕			
				九月十四日	九月廿五日	十月十日	追肥中耕セリ
300,000	15,000	300,000	300,000	100,000	100,000	100,000	3,000
15,000	6,000	15,000	36,000	100,000	100,000	100,000	1,911
300,000	15,000	300,000	300,000	100,000	100,000	100,000	2,259

一、蕪菁品種試驗

目的。本試驗ノ目的ハ各特産地ニ於ケル優良品種ヲ試裁シ當地ニ適スル良種ヲ選擇セントスルニアリ
 試驗ノ區別種子取寄先原産地及收穫ノ成績左ノ如シ(作付歩數各區二、六歩宛)

區名	品 種 名	種子取寄先	原 産 地	發 芽	總 收 高	一個平均
一 聖護院	日本農園	愛知縣海東郡大沼村長牧	京都府	良	九八五、五五〇	一五、五三五
二 天王	全	丹羽助次郎	大坂府	良	一、〇一四、三〇〇	一六、九〇五
三 名古屋	東京園藝商會	滋賀縣	愛知縣	良	八四九、九〇〇	一八、二八五
四 近江	日本農園	滋賀縣	滋賀縣	良	九三〇、〇〇〇	一六、六七五
五 田島	島根縣八東郡津田村字東津	滋賀縣	滋賀縣	良	六〇六、〇五〇	一六、二二五
六 津田	島根縣八東郡津田村字東津	滋賀縣	滋賀縣	良	一、三六、五〇〇	一四、六〇五

備考。收穫期ハ各區共拾壹月貳拾壹日ナリ

第十二、甘

諸

耕種概左ノ如シ
 苗 床。三月卅一日藁園温床ヲ作ル其ノ構造ハ幅六尺長十二尺高サ一尺五寸トス發熱物ハ既肥、藁、糠
 人糞尿ヲ用ユ
 播 種。四月五日前記温床内ニ種ヲ伏セ込ミタリ
 整 地。甘藷畑ハ連作地ニシテ四月十三日耕起細碎シ五月十九日及二十日畦ヲ作り原肥ヲ施シ定植ノ準
 備ヲナセリ
 插 苗。六月三日苗ヲ掻キ取り其儘陰所ニ置キ六月五日畦幅二尺株間一尺五寸ニ船底植トナセリ
 肥 料。反當肥料ノ用量代價所合三要素左ノ如シ

肥料名	總量	原肥	補肥	價格	室		
					素	磷	要
米糠	30,000	30,000		4,500	4,500	0,614	
骨粉	7,000	7,000		1,890	1,890	1,996	
人糞	30,000	30,000		1,050	1,050	0,882	
合計	150,000	150,000		9,690	9,690	3,502	
						1,100	
						0,354	
						11,07	

追肥中耕除草。六月廿一日追肥中耕シ七月二十一日除草ヲ行ヒタリ
 手 入。七月廿九日支柱立ヲナシ蔓ヲ之レニ纏ハシメ九月十日更ニ一回蔓揚ケヲナセリ

一、甘藷品種試驗

目的。本試驗ノ目的ハ各地ニ於ケル優良品種ヲ試裁シ當地ニ適スル良種ヲ選擇セントスルニアリ而シ
 テ既ニ成績ノ判明セル良品種ハ之レヲ省キタリ

試驗ノ區別種子取寄先原產地及生育狀況左ノ如シ(作付歩數各區一步宛)

區名	品 種 名	種子取寄先	原 產 地	發 芽	定 植 當 時 狀 況	追 肥 當 時 狀 況
一	八 頭	埼玉縣北足郡木崎村上	埼玉縣	四月廿六日	整	整
二	紅 頭	全	全	四月廿九日	整	整
三	十 日	千葉縣千葉郡藤張町天戸	鹿兒島縣	四月廿六日	不整	整
四	八 幡	神奈川縣中郡大野村 大野村販賣組合	神奈川縣	四月廿八日	良	整

備考。川越赤蔓川越青蔓白芋源氏在來種等ハ成績判明セルヲ以テ省ク
 收穫ノ成績左ノ如シ(十月二十八日收穫)

區名	品 種 名	總 收 高	上 内	諸 層	生 葉 ノ 重 量
一	八 頭	八八二,000	七九二,000	九〇,000	一,五八四,000
二	紅 頭	五五五,000	四七一,000	八四,000	一,二二二,000
三	十 日	五七九,000	五七,000	一一,000	一,二五二,000
四	八 幡	五八八,000	五一〇,000	七六,000	二,三四六,000

二、甘藷插苗法試驗

目的。甘藷ノ插苗法ヲ異ニスルニヨリ其ノ收量及品質ニ如何ナル影響アルヤヲ試驗セントスルニアリ
 生育狀況。七月十九日調査ニヨレバ欠損アリシハ船底植ニ一株、直立植ニ一株アリ釣針植ニ於テ發育不良
 ノモノ二株アリタリ

試驗ノ成績左ノ如シ(作付歩數各區二步宛)

區名	試驗別	總收高	上内		諸		生葉ノ重量
			上	内	諸	諸	
一	船底插(挿苗前摘心)	六五四、七五〇	五七六、〇〇〇	七六、七五〇	五七〇、〇〇〇	五七〇、〇〇〇	
二	全釣針(全摘心)	七三五、〇〇〇	五三二、五〇〇	五二、五〇〇	五九七、〇〇〇	五九七、〇〇〇	
三	釣針	五九四、〇〇〇	五四〇、〇〇〇	五四、〇〇〇	五六四、〇〇〇	五六四、〇〇〇	
四	斜挿	六三三、〇〇〇	五六二、五〇〇	六三、〇〇〇	六一九、五〇〇	六一九、五〇〇	
五	直立挿	六三四、〇〇〇	五七〇、〇〇〇	五四、〇〇〇	六一〇、五〇〇	六一〇、五〇〇	

備考。供試品種ハ紅赤ニシテ十月二十八日收穫セリ

三、甘藷株間距離試験

目的。甘藷ノ株間距離ヲ異ニスルニヨリ其收量品質ニ如何ナル影響アルヤヲ試験セントスルニアリ

生育狀況。各區共完全ナル發育ヲ遂ゲタリ

收穫ノ成績左ノ如シ(作付歩數各區一步宛)

區名	試驗別	總收高	上内	諸	諸
一	八寸	四一四、〇〇〇	三三六、〇〇〇	七八、〇〇〇	七六、〇〇〇
二	一尺	四七一、〇〇〇	三八四、〇〇〇	八七、〇〇〇	八七、〇〇〇
三	一尺二寸	三六一、五〇〇	三二七、〇〇〇	三四、五〇〇	三四、五〇〇
四	一尺五寸	六二四、〇〇〇	五六七、〇〇〇	五七、〇〇〇	五七、〇〇〇

備考。供試品種ハ川越赤蔓ニシテ十月二十八日收穫セリ

四、甘藷接蔓ノ實驗

目的。甘藷ノ異品種ヲ接蔓シテ其發育並ニ品質收量ニ如何ナル影響アルヤヲ實驗セントスルニアリ

實驗ノ區別並ニ方法(左ノ如シ作付歩數各區一步宛)

區名	實驗別	實驗ノ方法
一	標準川越赤蔓	
二	全四十日	
三	川越赤蔓×四十日	川越種ノ蔓ニ四十日種ノ蔓ヲ割接トシ直ニ定植
四	四十日×川越赤蔓	四十日種ノ蔓ニ川越種ノ蔓ヲ割接トシ直ニ定植

生育狀況並ニ收穫ノ成績左ノ如シ(十月卅日收穫)

五、甘藷支柱ノ實驗

目的。甘藷ノ蔓ヲ支柱ニ纏絡セシメタルモノト在來ノ如ク地上ニ匍匐セシメタルモノトガ其ノ收量品質ニ如何ナル差違アルヤヲ實驗セントスルニアリ

實驗ノ區別及方法左ノ如シ(作付歩數各區二步宛)

區名	實驗別	賞驗ノ方法
一	標準	在來ノ如ク蔓ヲ地上ニ匍匐セシメタルモノ

二 畦ノ中間ニ杭 二畦ノ中間ニ杭(地上一尺五寸位)ヲ立テ繩ヲ張りテ蔓ヲ纏ハシム
 三 一畦毎ニ杭 一畦毎ニ杭ヲ立テ繩ヲ張り之レニ蔓ヲ纏絡セシム

生育狀況。特ニ記スベキナシ
 收穫ノ成績左ノ如シ(十月卅日收穫)

區名	實 驗 別	四 十 日 種 收 量		紅 赤 種 收 量	
		諸ノ重量	葉ノ重量	諸ノ重量	葉ノ重量
一 標 準		六七三、〇〇〇	八七、〇〇〇	四八七、五〇〇	五七〇、〇〇〇
二 二畦ノ中間ニ杭		九三六、〇〇〇	九〇、〇〇〇	五七七、五〇〇	五七七、五〇〇
三 一畦毎ニ杭		六三〇、二五〇	九七、五〇〇	四三〇、五〇〇	四九五、〇〇〇

備考。第三區ハ四十日及ビ紅赤共鼠害劇甚ナリシ爲メ收穫減少セリ

六、 八幡諸増収法實驗

目的。八幡種ハ品質頗ル佳ナルモ收量少キハ一般ノ認ムル所ナルガ當地方ニ於テ如何ナル方法ニヨリ栽培スレバ收量ヲ増加シ得ルヤヲ實驗セントスルニアリ
 實驗ノ區別。本場普通肥料ニ各種ノ肥料ヲ増施シ且ツ苗ノ取置日數ニ就テ比較試驗セリ
 生育狀況。各區共ニ完全ニシテ而カモ旺盛ナル發育ヲ遂ゲタリ
 收穫ノ成績左ノ如シ(十月三十日收穫)

區名	實 驗 別	即 日 挿		五 日 取 置 苗		八 日 取 置 苗	
		諸ノ重量	葉ノ重量	諸ノ重量	葉ノ重量	諸ノ重量	葉ノ重量
一 本場普通肥料ニ煉粕二十貫増施		四〇〇、〇〇〇	二、三三〇、〇〇〇	一、一三〇、〇〇〇	一、一九〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	一、二五五、〇〇〇
二 全強過燐石灰十二貫		七九五、〇〇〇	一、二六五、〇〇〇	一、〇三五、〇〇〇	一、〇五〇、〇〇〇	七二五、〇〇〇	一、二二五、〇〇〇
三 米糠三十貫増施		八〇〇、〇〇〇	一、三二〇、〇〇〇	八五〇、〇〇〇	一、〇二五、〇〇〇	八二〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇

七、 甘藷品質對肥料反應試驗(新設)

目的。本試驗ノ目的ハ甘藷ノ肥料配合上其ノ反應ヲ異ニスルニヨリ品質並ニ收量ニ如何ナル差違ヲ生ズルヤヲ試驗セントスルニアリ
 試驗ノ區別左ノ如シ(作付歩數各區一步宛供試驗品種八幡)

區名	反 應	肥 料 名		反 當 用 量	主 要 成 分 含 率	三 要 素 施 用 量
		硫酸アンモニア	過燐酸石灰			
一 強 酸 性		硫酸アンモニア	過燐酸石灰	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇	二、〇〇〇
二 中 性		硫酸アンモニア	過燐酸石灰	一、二、五〇〇	二〇、〇〇	二、五〇〇
三 強 鹽 基 性		硫酸アンモニア	過燐酸石灰	一、五、〇〇〇	四〇、〇〇	二、〇〇〇
		炭酸アンモニア	過燐酸石灰	三〇、三〇〇	六、五〇	二、〇〇〇
		炭酸アンモニア	過燐酸石灰	一、二、五〇〇	二〇、〇〇	二、五〇〇
		炭酸アンモニア	過燐酸石灰	三、〇〇〇	五、〇〇	二、〇〇〇
		炭酸アンモニア	過燐酸石灰	一、三、三〇〇	一五、〇〇	二、〇〇〇
		炭酸アンモニア	過燐酸石灰	五、〇〇〇	五〇、〇〇	二、五〇〇
		炭酸アンモニア	過燐酸石灰	三、五〇〇	五五、〇〇	二、〇〇〇

生育狀況。各區共完全ナル發育ヲ遂ゲタリ
 收穫ノ成績左ノ如シ(十月三十日收穫)

區名	試 驗 別	總 收 高	肉 質	甘 味 順 位	貯 藏 力
一 強 酸 性		六四八、〇〇〇	粘 質	二	最 優

二 中 性	八〇、〇〇〇	粘質	三 最劣
三 強 鹽 基 性	九一、〇〇〇	粘質	四 劣
四 標 準	六九、〇〇〇	粘質	一 優

備考。標準區ハ本場普通肥料ナリ

第拾參。馬鈴薯

耕種梗概左ノ如シ

整地。前作春播午莠ノ跡地ヲ四月六日耕起シ翌七日土塊ヲ細碎シ畦立ヲナシ原肥ヲ施シテ播種ノ準備ヲナセリ

播種。大サ中庸ナル種薯ヲ選ビ縦ニ切半シテ切口ニ灰ヲ塗り下向ケトナシ四月七日畦幅二尺株間一尺五寸ニ播種セリ

肥料。反當肥料ノ用量、價格及所含三要素左ノ如シ

肥料名	總量	追肥		價格	所含三要素
		一回	二回		
堆肥	200,000			4,000	二、五〇八
強過磷酸石灰	4,000			0,548	三、四三八
米糠	10,000			0,811	0,811
人糞	15,000			0,555	0,756
合計	234,000	100,000	100,000	11,073	二、一七六
					五、四五八
					四、〇九三

追肥及中耕。五月十八日、六月五日ニ追肥中耕セリ
間引。五月十六日間引キシテ一株三本立トナセリ

摘花。六月十日、六月十五日、六月三十日ノ三回摘花ヲナセリ
病虫害驅除豫防。五月廿四日三斗式ボルドー合劑ヲ撒布セリ

一、馬鈴薯品種試驗

目的。各地ニ於テ品質優良若クハ産額多量ヲ以テ稱セラル、品種ニ就キ當地ニ適スル良種ヲ選擇セン
トスルニアリ
試驗ノ區別並ニ生育狀況特性左ノ如シ(作付歩數各區三步宛)

區名	品種名	發芽	病虫害狀況	收穫期前狀況	特	性	調	查																		
區名	品	種	名	日	良	否	草	勢	整	否	色	澤	花	色	熟	期	大	小	形	狀	色	澤	芽			
一	ア	リ	ビ	ユ	チ	ー	四、二五	良	萎縮病ノ被害著シ	弱	不整	綠	黃白色	早	小	扁	圓	淡	紅	大	淺	多				
二	ア	メ	リ	カ	ン	四、二五	不	良	野鼠ノ被害アリ	強	整	濃	綠	全	中	扁	圓	黃	白	大	深	少				
三	ル	ー	ラ	ル	四、二五	不	良	野鼠ノ被害アリ	強	整	濃	綠	全	中	扁	圓	黃	白	大	深	少	多				
四	パ	ー	ベ	ン	ク	ス	四、二五	良	萎縮病ノ被害著シ	弱	不整	淡	綠	全	大	長	圓	黃	白	小	淺	多				
五	ス	ノ	ー	フ	レ	ク	四、二五	良	野鼠ノ被害著シ	弱	不整	濃	綠	全	中	扁	圓	黃	白	小	淺	少				
六	ア	ー	リ	ー	ノ	ー	四、二五	不	良	萎縮病ノ被害著シ	弱	不整	淡	綠	全	中	扁	圓	黃	白	小	淺	中			
七	ポ	ツ	ビ	ー	四、三	良	弱	稍整	淡	綠	全	中	扁	圓	帶	赤	黃	白	大	深	少					
八	グ	リ	ー	ン	マ	ウ	四、三	良	萎縮病ノ被害著シ	強	整	濃	綠	淡	紫	色	中	大	扁	扁	圓	黃	白	大	深	少
九	ア	ー	リ	ー	ロ	ー	四、三	良	萎縮病ノ被害著シ	強	整	濃	綠	黃	白	色	中	小	扁	扁	圓	鮮	紅	大	深	少
十	ビ	ル	モ	ン	ト	四、三	不	良	一部分萎縮病ノ被害	弱	不整	濃	綠	全	中	扁	圓	淡	黃	大	淺	少				

備考。種子ノ原產地ハ何レモ米國ニシテ本場産ヲ以テ試驗ニ供シタリ
收穫ノ成績左ノ如シ

區名	品	種	名	收	穫	期	總	收	高	一	個	平	大	內	中	小
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

區名	試驗別	總收高	均一重量	大		中		小	
				內	外	內	外	內	外
一	標準(全粒ノマ、下)	四、三、五	良	強	整	綠	鼠害稍少シ	二八、五〇〇	一四、五〇〇
二	標ニ切リ切口下ニシ	四、三、三	良	弱	不整	淡綠	鼠害多シ	二九、五〇〇	一六〇、五〇〇
三	標ニ切リ切口ヲ横ニス	四、三、三	良	弱	不整	淡綠	鼠害劇甚	二九、五〇〇	一六〇、五〇〇
四	標ニ切リ切口ヲ横ニス	四、三、三	良	弱	不整	淡綠	鼠害劇甚	二九、五〇〇	一六〇、五〇〇
五	標ニ切リ切口ヲ横ニス	四、三、三	良	弱	不整	淡綠	鼠害劇甚	二九、五〇〇	一六〇、五〇〇
六	標ニ切リ切口ヲ横ニス	四、三、三	良	弱	不整	淡綠	鼠害劇甚	二九、五〇〇	一六〇、五〇〇
七	標ニ切リ切口ヲ横ニス	四、三、三	良	弱	不整	淡綠	鼠害劇甚	二九、五〇〇	一六〇、五〇〇
八	標ニ切リ切口ヲ横ニス	四、三、三	良	弱	不整	淡綠	鼠害劇甚	二九、五〇〇	一六〇、五〇〇
九	標ニ切リ切口ヲ横ニス	四、三、三	良	弱	不整	淡綠	鼠害劇甚	二九、五〇〇	一六〇、五〇〇
十	標ニ切リ切口ヲ横ニス	四、三、三	良	弱	不整	淡綠	鼠害劇甚	二九、五〇〇	一六〇、五〇〇

二、馬鈴薯播種法試驗

目的。馬鈴薯種子ノ播種法ヲ異ニスルニヨリ其收量品質ニ如何ナル差違アルヤヲ知ラントスルニアリ

試驗別及生育狀況左ノ如シ(作付歩數各區一步宛供試品種アローローズ)

收穫ノ成績左ノ如シ(七月七日收穫)

第拾四、里

芋

耕種梗概左ノ如シ

整地。前作菜豆並ニ萩蔭草ノ跡地ヲ耕起細碎シ五月廿一日畦立ヲナシ原肥ヲ施シ定植ノ準備ヲナセリ

播種及定植。四月二十七日温床内ニ播種シ催芽セシメ五月二十一日畦幅二尺四寸株間一尺五寸ニ圃地ニ定植セリ

肥料。反當肥料ノ用量、價格所含三要素左ノ如シ

肥料名	總量	原肥	追肥	價格	三要素	要加素
堆肥	500,000	500,000		4,000	二、五四八	二、八〇〇
葉灰	10,000	10,000		0,350		0,450
強過燐酸石灰	4,000	4,000		0,548		
米糠	110,000		110,000	3,000	0,416	0,280
人糞	300,000		150,000	4,500	1,764	0,280
合計			150,000	12,398	4,738	4,037

追肥中耕及除草。六月廿三日、八月八日ニ追肥シ六月廿三日、八月八日、八月廿三日、九月十九日ニ中耕

シ七月廿二日除草ヲ行ヒタリ

手入。八月廿三日、九月十八日ノ二回分糞セル小莖ヲ土中ニ埋沒セリ

備考。野鼠ノ被害アリシ爲メ品種試驗ハ廢棄ノ己ムナキニ至レリ

一、里芋定植ニ際シ芽ノ方向適否實驗
 目的。本實驗ノ目的ハ里芋ヲ定植スルニ際シ發芽點ノ方向ヲ異ニスルニヨリ其ノ收量ニ如何ナル差違アルヤヲ知ラントスルニアリ
 試驗ノ區別並ニ收穫ノ成績左ノ如シ(作付歩數各區一步宛)

區名	品 種 名	實 驗 別	總 收 高	親 芋		子 芋	
				個 數	重 量	個 數	重 量
一 東 京 早 生	芽ヲ上向ケニ植ユ	芽ヲ上向ケニ植ユ	七二六、〇〇〇	四八〇、〇〇〇	二四六、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	二一〇、〇〇〇
		芽ヲ下向ケニ植ユ	五七〇、〇〇〇	三六〇、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	
		芽ヲ橫向ケニ植ユ	八二二、〇〇〇	五七〇、〇〇〇	二五三、〇〇〇	二五三、〇〇〇	
		芽ヲ上向ケニ植ユ	七二四、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	四一四、〇〇〇	四一四、〇〇〇	
		芽ヲ下向ケニ植ユ	六七八、〇〇〇	三五四、〇〇〇	四一四、〇〇〇	四一四、〇〇〇	
		芽ヲ擴向ケニ植ユ	七三六、〇〇〇	三五四、〇〇〇	三三三、〇〇〇	三三三、〇〇〇	
二 赤	芽ヲ上向ケニ植ユ	芽ヲ上向ケニ植ユ	六二二、〇〇〇	四〇八、〇〇〇	二〇二、〇〇〇	二〇二、〇〇〇	
		芽ヲ下向ケニ植ユ	五七〇、〇〇〇	三六六、〇〇〇	二〇二、〇〇〇	二〇二、〇〇〇	
三 土	芽ヲ上向ケニ植ユ	芽ヲ上向ケニ植ユ	五七〇、〇〇〇	三六六、〇〇〇	二〇二、〇〇〇	二〇二、〇〇〇	
		芽ヲ下向ケニ植ユ	五七〇、〇〇〇	三六六、〇〇〇	二〇二、〇〇〇	二〇二、〇〇〇	

第十五、薯

耕種梗概左ノ如シ
 整 地。前作白菜ノ跡地ヲ四月二十日耕起細碎シ五月三日整地畦作リヲナシ五月九日原肥ヲ施シ播種ノ準備ヲナセリ
 播種及定植。五月九日種芋ヲ切半シ切口ニ木灰ヲ塗リテ苗床内ニ播種シ催芽セシメ七月十二日畦幅二尺株間一尺五寸ニ圃地ニ定植セリ

肥料。反常用量代價所合三要素左ノ如シ

肥料名	總 量	原 肥	追 肥		價 格	室 素		要 素
			一 回	二 回		窒 素	磷 酸	
堆肥	200,000	200,000			4,000	2,548	3,438	2,800
強過磷酸石灰	4,000	4,000			0,548		0,811	
葉灰	10,000	10,000			0,350		0,310	0,450
米糠	15,000	15,000			2,350		0,311	0,210
人糞	300,000	300,000	150,000	150,000	4,500	1,764	0,311	0,570
合 計					11,648	4,624	5,233	3,967

追 肥。八月十四日、九月五日
 除 草。六月三十日、八月十一日
 手 入。七月十二日地上一尺許リナル支柱ヲ立テタリ

一、薯蕷品種試作

目的。各特產地ニ於ケル優良品種ヲ蒐集シ其ノ優劣ヲ比較シ當地方ニ適スル品種ヲ選擇セントスルニアリ
 生育狀況並ニ收穫ノ成績左ノ如シ(作付歩數各區三步宛)

區名	品 種 名	發 芽	總 收 量	個 數	内 芋		一 個 重 量
					上 芋	下 芋	
一	伊勢芋	六、〇三	600,500	六、六〇〇	三六九、五〇〇	三一、五〇〇	六一
二	大和芋	五、二九	三三三、五〇〇	六、〇〇〇	二六三、五〇〇	五〇、〇〇〇	五二
三	跟杏芋	六、〇五	三三〇、〇〇〇	四、九五〇	三一九、五〇〇	一、〇五〇	六七

四山	芋	六、〇三	良	六八二、五〇〇	一、五〇〇	五九二、五〇〇	九〇、〇〇〇	四十八
----	---	------	---	---------	-------	---------	--------	-----

第十六、秋播葱頭

耕種梗概左ノ如シ
 整地。玉葱ノ連作圃地ヲ八月廿六日耕記細碎シ九月三日畦立ヲナシ原肥ヲ施シテ播種ノ準備ヲナセリ
 播種。九月三日畦幅二尺株間五寸ノ二條ノ千鳥形ニ播種セリ
 肥料。反當用量、價格、所含三要素左ノ如シ

肥料名	總量	追肥				價格	三要素		
		一回	二回	三回	四回		窒素	磷酸	加里
堆肥	六〇〇、〇〇〇					六、〇〇〇	三、八三三	五、一四三	四、三〇〇
強過磷酸石灰	六、〇〇〇					〇、八三三		一、二二六	
米糠	二〇、〇〇〇					三、〇〇〇	〇、四一六	〇、七五六	〇、三八〇
人糞	三〇、〇〇〇					〇、七〇〇		〇、四三〇	〇、九〇〇
合計	四〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一六、五三三	六、五九〇	七、八三〇	六、〇五六

追肥中耕及除草。四月十六日、五月五日、五月二十六日ニ追肥シ四月十六日、四月二十四日、五月五日ニ中耕シ四月十六日、六月十四日ニ除草セリ
 手入。五月五日、六月十四日ニ間引ヲ行ヒ六月十四日補植ヲナシ其後數回根元ノ土ヲ掻キ除キ七月七日莖折ヲナセリ

一、秋播葱頭品種試驗

目的。各品種ヲ試裁シ當地方ニ適スル良種ヲ選擇セントスルニアリ
 試區別種子取寄先生育狀況及收穫ノ成績左ノ如シ(作付歩數各區五歩宛)

區名	品種名	種子取寄先	原產地	發芽	總收	高	大	中	小	一ヶ平
一	ホワイトホルチユガル	東京園藝商會	米國	九、〇九	三、八三〇	二六、七六〇	一三八、三〇〇	一三七、一〇〇	三〇、九〇〇	一三
二	エーローダンバース	全	英國	九、〇九	二五七、一〇〇	三〇、六六〇	九五、七〇〇	一一八、八〇〇	四三、六〇〇	一八
三	レッドウエザース	全	米國	九、〇九	三五七、〇〇〇	二九、四六〇	一五八、一〇〇	一五八、一〇〇	四〇、八〇〇	一三

第十七、秋播葱

耕種梗概左ノ如シ
 整地。前作西瓜ノ跡地ヲ四月十三日耕起シ五月三日更ニ土塊ヲ細碎シ畦立ヲナシ五月十八日原肥ヲ施シ定植ノ準備ヲナセリ
 播種及定植。九月十二日冷床ニ下種シ五月十八日畦幅二尺四寸、株間五寸(但シ一株二本宛)ニ圃地ニ定植セリ
 肥料。反當用量、價格及所含三要素左ノ如シ

肥料名	總量	追肥				價格	三要素		
		一回	二回	三回	四回		窒素	磷酸	加里
堆肥	六〇〇、〇〇〇					六、〇〇〇	三、八三三	五、一四三	四、三〇〇
強過磷酸石灰	四、〇〇〇					〇、五四八		〇、八一	
米糠	二〇、〇〇〇					〇、七〇〇		〇、四三〇	〇、九〇〇
人糞	三〇、〇〇〇					〇、七〇〇		〇、四三〇	〇、九〇〇
合計	五〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一七、七四八	七、一七六	七、四九九	六、三三五

追肥中耕及除草。六月廿九日、七月七日、七月廿五日ニ追肥中耕シ尙八月六日ニ中耕八月廿三日ニ追肥シ

四月十六日(苗床)六月九日、六月廿七日、七月廿二日ニ除草ヲ行ヒタリ
 病害豫防。七月廿八日三斗式砂糖ボルドー液ヲ撒布ス

一、秋播葱品種試験

目的。各地方ニ於テ品質優良若クハ産額多量ヲ以テ稱セラル、品種ニ就キ當地方ニ適スル良種ヲ選擇セントスルニアリ
 作付歩數。各區二坪四分宛
 生育狀況。各區共九月十八日稍整一ニ發芽シ移植後完全ナル發育ヲ遂ゲシニ八月廿八日ノ洪水ニ際シ品質ヲ害セラレ收量ニモ影響セリ
 試區別種子取寄先及收穫成績左ノ如シ(作付歩數各區二、四歩宛)

區名	品種名	種子取寄先	原產地	總收量	個數	一本平均重量
一	千住	東京園藝商會	東京	七二,〇〇〇	一八,六三五	三八
二	下仁田	日本農園	群馬縣	八二,五〇〇	一六,七五〇	四九
三	金澤	石川縣三馬村字米泉	石川縣	六二〇,〇〇〇	一四,三七五	四三
四	根深太	日本農園	東京	九七〇,〇〇〇	三〇,八七五	三二

備考。收穫ハ各區共九月九日ナリ

二、葱苗假植試驗

目的。葱苗ヲ苗圃ヨリ直ニ本圃ニ定植シタルモノト一回假植ノ後定植シタルモノトノ品質及ビ收量ニ及ボス差異ヲ知ラントスルニアリ
 生育狀況。品種試驗ト略同様ニ付略ス
 收穫ノ成績左ノ如シ(作付歩數各區一、二歩供試品種根深太葱)

區名	試驗別	總收量	一本平均重量	備考
一	一回假植	六四,〇〇〇	一八,〇〇〇	十二月十八日假植セリ
二	無假植	八七,五〇〇	三三,七〇〇	

第十八、秋播甘藍

耕種梗概左ノ如シ
 整地。四月二十二日畑地ヲ耕起細碎シ藁ヲ一面ニ撒布シテ之レヲ燃燒シタル後土粒ト攪拌混和シ四月廿八日畦立ヲナシ原肥ヲ施シテ定植ノ準備ヲナセリ
 播種及定植。九月十二日冷床ニ下種シ九月二十八日十月十日ニ假植ヲ行セ四月二十八日日本圃ニ畦幅早生種ハ二尺、晚生種ハ二尺五寸株間早生種ハ一尺五寸、晚生種ハ二尺ニ定植セリ
 肥料。反當用量、價格、所含三要素左ノ如シ

肥料名	總量	追肥			價格	三要素		
		一回	二回	三回		窒素	磷酸	加里
堆肥	六〇〇,〇〇〇				六,〇〇〇	三,八三三	五,一四三	
強過磷酸石灰	三〇,〇〇〇				一,〇五〇		〇,六三〇	
人糞	三〇〇,〇〇〇				〇,五四八		〇,八一	
石灰	一〇,〇〇〇				四,五〇〇		〇,三三三	
合計	一〇,〇〇〇				一三,五九八	五,五六六	六,八〇五	

追肥中耕及除草。五月五日、五月十二日、五月廿六日ニ追肥中耕シ除草ハ苗床ニ於テ四月十六日ニ行ヒ其後ハ本圃ニ於テ數回行ヒタリ

病虫害驅除豫防。腐敗病豫防ノ爲メ六月十三日木灰硫黄合劑ヲ撒布セリ

一、秋播甘藍品種試験

目的。本試験ノ目的ハ當地地方ニ適スル秋播甘藍ノ良種ヲ選擇セントスルニアリ
 試験別種子取寄先及生育狀況左ノ如シ(作付歩數各區二、四歩宛)

區名	品 種 名	種子取寄先	原産地	發 芽		收穫期前ノ狀況	收 穫 期		病害發生狀況			
				月 日	良 否		草 勢	整 齊 否		始 日	終 日	
一	フラワーオア スプリング	東京園藝商會	英國	九、一六	稍良	強	整	濃綠	良	七、〇七	八、〇九	腐敗病ノ爲メ二株
二	オールハート	全	英國	九、一六	良	強	稍整	淡綠	良	七、〇三	七、二二	全
三	アーリースプリング	日本農園	米國	九、一六	稍良	弱	不整	淡綠	不良	七、〇三	七、二二	全
四	サクセツシヨン	東京園藝商會	全	九、一六	良	強	整	濃綠	良	七、〇三	七、二二	全
五	オートムキング	全	全	九、一六	最良	強	稍整	淡綠	良	七、〇三	七、二二	全
六	アーリースタンマ	全	全	九、一六	最良	強	稍整	淡綠	良	七、〇三	七、二二	全
七	アーリーヨーク	東京園藝商會	全	九、一六	不	稍弱	稍整	濃綠	不良	七、〇三	七、二二	全

收穫ノ成績左ノ如シ

區名	品 種 名	總 收 高		内		八		譯		一ヶ平均
		重 量	個 數	重 量	個 數	重 量	個 數	重 量	個 數	
一	フラワーオア スプリング	九六、六五〇	三、〇〇〇	八五八、一五〇	二、八五〇	五八、五〇〇	〇、一五〇	三〇六	三、〇〇〇	四七九
二	オールハート	九九二、三五〇	二、八五〇	九九二、三五〇	二、八五〇	〇	〇	三〇六	三、〇〇〇	四七九
三	アーリースプリング	八四四、三七五	一、三七五	八四四、三七五	一、三七五	〇	〇	三〇六	三、〇〇〇	四七九
四	サクセツシヨン	三三八、二五	〇、六三五	三三八、二五	〇、六三五	〇	〇	三〇六	三、〇〇〇	四七九

特性ノ調査表左ノ如シ

區名	品 種 名	早中晩	葉 色	葉 形	葉柄ノ長短	球ノ大小	球ノ形状	球ノ堅軟	結球ノ難易	病 害 抵 抗 力
一	フラワーオア スプリング	早	濃綠	廣圓、著シキ、欠刻	短	小	圓錐形頂端	軟	稍難	稍強
二	オールハート	早	淡綠	圓錐形、欠刻	短	小	圓錐形頂端	軟	稍難	稍強
三	アーリースプリング	早	淡綠光澤	圓錐形、欠刻	短	小	圓錐形頂端	軟	稍難	稍強
四	サクセツシヨン	晩	淡綠白粉	圓錐形、欠刻	長	中	扁圓形	堅	稍難	稍強
五	オートムキング	晩	淡綠白粉	圓錐形、欠刻	頗長	大	扁圓形	堅	難	最弱
六	アーリースタンマ	中	淡綠	圓錐形、欠刻	稍長	中	扁圓形	堅	稍難	最強
七	アーリーヨーク	早	濃綠	長橢圓拘子	短	小	紡錘形	堅	易	強

二、甘藍石灰窒素肥効試験

目的。本試験ハ石灰窒素ノ肥効ヲ知ラントスルニアリテ硫酸アンモニヤヲ對照肥料トナセリ
 試験別左ノ如シ(作付歩數ハ各區二、四歩宛供試品種ハオートムキング)

區名	肥料名	一步當用量	區名	肥料名	一步當用量
一	硫酸アンモニア	四一、七	二	硫酸アンモニア	四一、七
二	過磷酸石灰	四四、四	三	過磷酸石灰	四四、四
三	硫酸加里	二〇、八	四	木	七五、八

目的。本試験ハ甘藷ニ對スル石灰窒素ノ肥効ヲ知ラントスルニアリテ硫酸アンモニニアヲ對照肥料トナ
セリ

試區別左ノ如シ(作付歩數各區一、四歩供試品種オータムキング)

區名	肥料名	一步當用量	區名	肥料名	一步當用量
一	硫酸アンモニア	四一・七	二	硫酸アンモニア	四一・七
一	強過燐石灰	四四・四	二	強過燐石灰	四四・四
二	石灰窒素	二〇・八	三	石灰窒素	七五・八
三	石灰窒素	四九・〇	四	石灰窒素	四九・〇
三	強過燐石灰	四四・四	四	強過燐石灰	四四・四
三	硫酸アンモニア	二〇・八	四	硫酸アンモニア	七五・八
五	強過燐石灰	四一・七	六	強過燐石灰	四一・七
五	硫酸アンモニア	四四・四	六	硫酸アンモニア	四四・四
七	石灰窒素	二〇・八	七	石灰窒素	七五・八
七	強過燐石灰	四九・〇	八	強過燐石灰	四九・〇
七	硫酸アンモニア	四四・四	八	硫酸アンモニア	四四・四
九	強過燐石灰	二〇・八	九	強過燐石灰	七五・八
九	硫酸アンモニア	四一・七			

區名	肥料名	總收量	個高數	一ヶ平均重量	始收月日	終收月日
一	石灰窒素	八三三・四五〇	一、四九八	五九六	八、三	八、三
一	強過燐石灰	一、〇四二・一八〇	一、四九八	六九六	八、三	八、三
二	石灰窒素	一、三八八・八六〇	一、七三三	八二一	八、三	八、三
二	強過燐石灰	八七七・四〇〇	一、〇七〇	八三〇	八、三	八、三
三	石灰窒素	一、二五・六四〇	一、七三三	六五八	八、三	八、三
三	強過燐石灰	九〇・七二	一、七三三	五三一	八、三	八、三
四	石灰窒素	一、三四・四一〇	一、九三六	六四六	八、三	八、三
四	強過燐石灰	一、一六三・〇九〇	一、九三六	六三九	八、三	八、三
五	石灰窒素	九一八・〇六〇	一、二八四	四七七	八、三	八、三
五	強過燐石灰	一、四九四・七九〇	二、一四〇	六九九	八、三	八、三
六	石灰窒素	二、〇〇〇・〇	二、〇〇〇・〇			
六	強過燐石灰	四九・〇	四四・四			
七	石灰窒素	二〇・八	二〇・八			
七	強過燐石灰	四四・四	四四・四			
八	石灰窒素	四九・〇	四九・〇			
八	強過燐石灰	二〇・八	二〇・八			
九	石灰窒素	二、〇〇〇・〇	二、〇〇〇・〇			
九	強過燐石灰	四九・〇	四四・四			
十	石灰窒素	二、〇〇〇・〇	二、〇〇〇・〇			
十	強過燐石灰	四九・〇	四四・四			
十一	石灰窒素	二、〇〇〇・〇	二、〇〇〇・〇			
十一	強過燐石灰	四九・〇	四四・四			
十二	石灰窒素	二、〇〇〇・〇	二、〇〇〇・〇			
十二	強過燐石灰	四九・〇	四四・四			
十三	石灰窒素	二、〇〇〇・〇	二、〇〇〇・〇			
十三	強過燐石灰	四九・〇	四四・四			

生育狀況。各區共何等ノ被害ヲ認メズ完全ナル發育ヲ遂ゲタリ
收穫ノ成績左ノ如シ

準(本場普通肥料)

十一區	一、三九、三〇〇	二、三五四	五六〇	八、三三	八、三〇
十二區	八八、八〇〇	一、四九八	六〇〇	八、三三	八、三〇
十三區	九八、七五〇	一、九三六	五四〇	八、三三	八、三〇

第二十、 菘 類

耕種概左ノ如シ
 整地。前年作豌豆ノ跡地ヲ七月十九、廿日耕起細碎シ七月二十一日燒土ヲ行ヒ七月二十五日害虫防除ノ目的ヲ以テ石灰、除虫菊粉木灰ノ混和劑ヲ畑一面ニ撒布シ攪拌シル後畦立ヲナシ原肥ヲ施シ播種ノ準備ヲナセリ
 播種。結球性ハ七月廿五日、不結球性ハ八月五日ニ播種セルモ八月廿七日洪水ノ爲メ腐敗セルヲ以テ九月三日畦幅ハ二尺ニ甫播シ後間引キテ株間ヲ結球性ノモノハ一尺二寸不結球性ハ六七寸トナセリ
 肥料。反常用量價格及所含三要素左ノ如シ
 甲。結球性ノモノ
 乙。不結球性ノモノ

肥料名	總量	追肥			價格	三要素		
		一回	二回	三回		窒素	磷	酸
堆肥	六〇〇,〇〇〇	—	—	—	六〇〇〇	—	—	—
強過燐	六,〇〇〇	—	—	—	〇,八三三	—	—	—
莖灰	一五,〇〇〇	—	—	—	〇,五二五	—	—	—
石灰室	二〇,〇〇〇	—	—	—	九,四〇〇	—	—	—
人糞	三〇,〇〇〇	—	—	—	四,五〇〇	—	—	—
合計	—	—	—	—	二一,二四七	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	八,九八六	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	六,八九五	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	五,三三二

肥料名	總量	追肥			價格	三要素		
		一回	二回	三回		窒素	磷	酸
堆肥	三〇〇,〇〇〇	—	—	—	三,〇〇〇	—	—	—
強過燐	六,〇〇〇	—	—	—	〇,八三三	—	—	—
莖灰	一〇,〇〇〇	—	—	—	〇,三五〇	—	—	—
人糞	三〇〇,〇〇〇	—	—	—	四,五〇〇	—	—	—
合計	—	—	—	—	八,六七三	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	三,六七五	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	四,二一九	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	三,〇五七

追肥。中耕其他手入ハ兩者共隨時之レヲ施行セリ
 目的。當地方ニ適スル結球性白菜ノ真種ヲ選定セントスルニアリ
 作付步數。各區三步宛
 生育狀況並ニ收穫ノ成績左ノ如シ

區名	品名	種子取寄先	原產地	第一回追肥當時狀況		總收量	高	一球平均量
				草勢	葉色澤			
一	開城白菜	日本農園	朝鮮	強	整	八九七,〇〇〇	三八〇	三三六
二	大王白菜	日本農園	清國	強	整	七五三,五〇〇	三八〇	一九八
三	金州白菜	清國大連小川萬	清國	強	整	六七三,五〇〇	二四〇	二八一
四	縮緬白菜	日本農園	清國	弱	不整	三八二,〇〇〇	二〇〇	一九一
五	山東白菜	愛知縣愛知郡荒子村野崎鎮四郎	清國	強	整	一、三八、〇〇〇	五、〇〇〇	二三八

備考。各區共七月廿八日整一ニ發芽セリ然ルニ八月廿七日洪水ニ際シ地上一尺位約一晝夜ノ浸水ヲ被リ發育ノ阻害セラレタルヲ甚シカリキ從テ成績ニ影響少カラズ

尙ホ收穫期ハ各區共十月二十一日ナリキ

一、不結球性粘類品種試験

目的。當地方ニ適スル不結球性粘類ノ良種ヲ選擇セントスルニアリ
作付歩數。各區三步宛
試區別並ニ收穫ノ成績左ノ如シ

區名	品 種 名	種子取寄先	原 産 地	重 量	個 數	一 株 平 均 重 量
一	山東菜	日本農園	清 國	一、二六九、〇〇〇	一六、七〇〇	七六
二	白基體菜	全	東 京 府	一、二八〇、〇〇〇	二一、六〇〇	五五
三	京 菜	全	京 都 府	九〇、〇〇〇	二〇、六〇〇	四五
四	長岡菜	長岡市 米三商店	本 縣 長 岡 市	一、一五〇、〇〇〇	一九、九〇〇	五八
五	野澤菜	長野縣下高井郡野澤 富井政右工門	長 野 縣	一、二六〇、〇〇〇	一九、五〇〇	六五
六	壬生菜	日 本 農 園	京 都 府	八八〇、〇〇〇	一五、九〇〇	五五

生育狀況。各區共八月五日播種シ全八日整一ニ發芽セルモ八月廿七八日ノ洪水ニヨリ全部腐敗セルヲ以テ
九月三日再播シ全六日整一ニ發芽シ稍完全ナル發育ヲ遂ゲタリ尙收穫期ハ十一月十八日ナリキ

大正二年度試驗成績

(分析部)